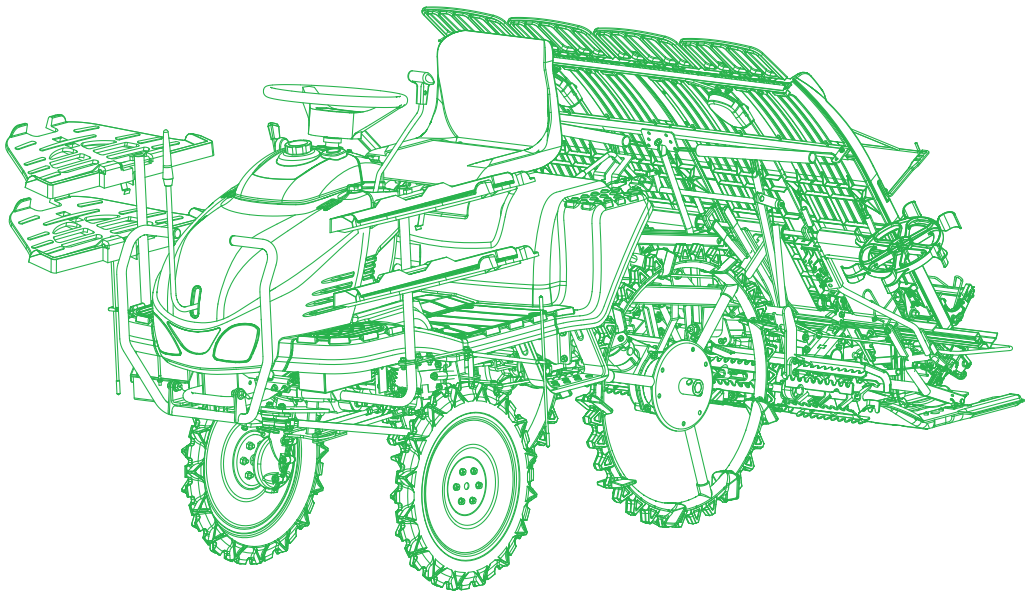
乗用田植機

取扱説明書

LE4



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは田植機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は田植作業に使用してください。
・この作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために** からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

機械の安全な取扱いに関する基本事項，また機械に貼付けてある安全に関する表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明してあります。ご使用になる前によく読んで理解し必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき 各操作レバーのはたらきを知るには？

各操作レバーのはたらきを説明しています。よく理解して正しい操作をしてください。

運転のしかた エンジンを始動し，田植機を動かすには？

毎日，運転する前に機械の調子を点検してください。
正しい手順で行い，エンジンの停止方法や安全装置の操作を体得してください。

作業のしかた 上手な田植え作業をするには？

田植機作業の基本操作を説明しています。苗の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，安全な田植え作業をしてください。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明してあります。

不調時の処置 故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調，性能が低下している？と思ったらすぐに原因を調べて処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために ……(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2

各部のはたらき ……3

1．各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 5
1．エンジンコントロール・計器関係…… 5
2．走行操作関係…… 7
3．その他の装置…… 9
4．ボンネット・カバーの取外し……10
3．植付け装置の取扱い……11
1．植付操作関係……11
4．自動装置の取扱い……15
1．バックアップ装置の取扱い ……15
5．電装関係の取扱い……16
1．ヒューズの取扱い ……16
2．バッテリ……17

運転のしかた ……18

1．運転まえの点検……18
2．エンジンの始動と停止……19
1．エンジン始動のしかた……19
2．エンジン停止のしかた……21
3．運転のしかた……22
1．発進のしかた……22
2．走行運転のしかた……23
3．停車のしかた……24
4．自動車への積込み・積降ろし……25
1．自動車・アユミについて……25
2．機械の扱いかた……26
5．ほ場への出入り……27
1．AZ(アゼ)ハンドルの使いかた ……28

作業のしかた ……29

1．作業まえの準備……29
1．ほ場の準備……29
2．苗の準備……29
3．機械の準備……32
2．植付け作業のしかた……35
1．最初の苗ののせかた……35
2．植付け作業の進めかた……36
3．油圧感度の調整……38
4．旋回のしかた……39
5．苗の補給……40
6．植付け終わりの調整……40
7．残り苗の取出し……41
8．トルクリミッタについて……41
3．均平装置「まくらっこ」作業のしかた……42
1．まくらっこ装置の取扱い……42
2．まくらっこ作業……42

手入れのしかた ……44

1．定期点検整備……44
2．給油・注油のしかた……46
1．燃料の給油……47
2．エンジンオイルの点検・交換……47
3．トランスミッションケース・フロントアクスルケースのオイル交換（油圧オイルフィルタの交換）……48
4．リヤアクスルのオイル交換……48
5．プランタケースのオイル交換……49
6．給脂・注油指定箇所……49
3．各部の点検と掃除のしかた……51
1．エアクリーナの掃除……51
2．燃料ストレーナの掃除……51
3．点火プラグの点検と掃除……51
4．燃料ホースの点検……52
5．バッテリの点検と充電……53
6．電気配線の点検と掃除……59
4．各部の点検と調整のしかた……60
1．走行ベルトの点検・調整……60
2．油圧ベルトの点検・調整……60
3．植付爪(ビーク・フォーク)の点検・調整…61
4．苗シュータの点検・調整……62

長期格納のしかた ……63
1．機械の掃除と洗浄……63
2．エンジンの手入れ……64
3．格納……64
4．再使用するときは……65

不調時の処置 ……66
1．エンジン部……66
2．走行・運転操作関係……67
3．電装品関係……68
4．植付部……68
5．まくらっこ装置関係……71

付表 ……72
1．主要諸元……72
2．ベルト一覧表……73
3．主な消耗部品一覧表……73
4．ビーク・フォークの種類と適応条件一覧表…74
5．アタッチメント一覧表……75
6．潤滑油について……75
1．エンジンオイル……75
2．ギヤオイル……75

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-6）

⚠エンジンを始動するときは……（安-10）

⚠走行するときは……（安-12）

⚠狭い農道・凸凹道・坂道の走行は……（安-14）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-16）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-18）

⚠１日の作業が終わったら……（安-20）

⚠長期格納するときは……（安-21）

2．表示ラベルについて……（安-23）

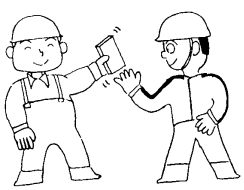
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項で説明している安全説明は**乗用田植機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

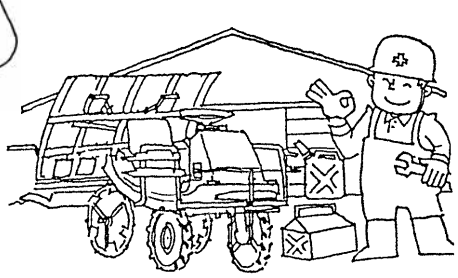
⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合はこの取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠安全作業のポイント



●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

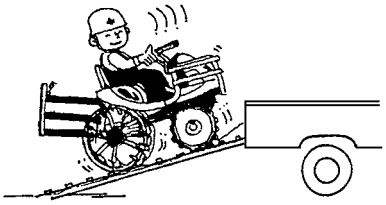


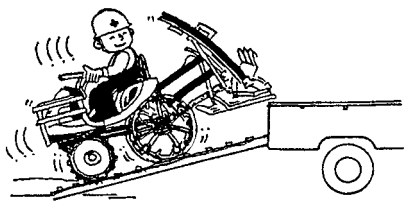
始業・点検　準備点検

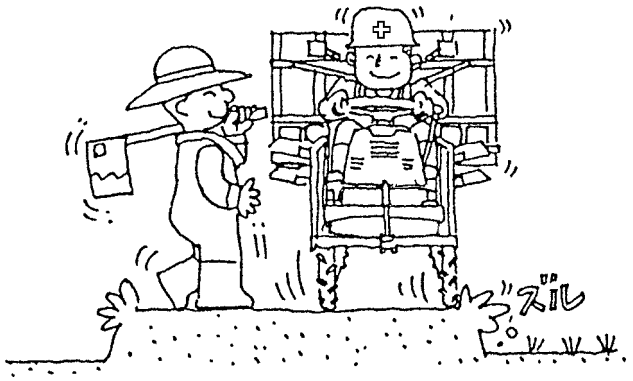
●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼替える
●エンジン回り，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
●バッテリコード，電気配線，燃料ホースを点検する
●油量の点検はエンジンが冷えているときに行う
●各部の締付け，セットピンの脱落，損傷はないか確認する
●ブレーキの作動具合と遊び量を点検する
●ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認する
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
●エンジンが熱いときは燃料補給しない
●植付部を上げて掃除・点検するときは，油圧固定レバーを《固定》にし植付部の下に固定脚を置く
●機械は改造しない

エンジン始動

●始動前に各部のカバーの取付けを確認する
●運転席に座り駐車ブレーキをかける
●各操作レバーを《N》（中立）にする
●機械の周囲から人を遠ざける
●屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする







走行運転　自動車への積込み・積降ろし

●アユミは強度，幅，長さ，スベリ止め，フックのあるものを使用する（長さは荷台高さの４倍以上）
●アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
●植付部付きでの積込みは後進，積降ろしは前進で，低速にして行う（植付部を外しての積込みは前進，積降ろしは後進で，低速にして行う）
●アユミの上では変速操作や必要以上のハンドル操作をしない
●周囲を確認し，機械の回りには人を近づけない

走行運転

●公道は走行できません
　公道および夜間の移動は自動車にのせて行う
●苗のせ台を中央に止め，マーカを収納する
●発進は周囲を確認して行う
●植付部を動かしたまま走行しない
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
●人や物を機械にのせない
●わき見運転や手放し運転はしない
●走行中は飛び乗り，飛び降りはしない
●まくらっこ（ロータ軸）が後輪車軸の高さになるまで植付部を下げ，スピードを落として慎重に走行する

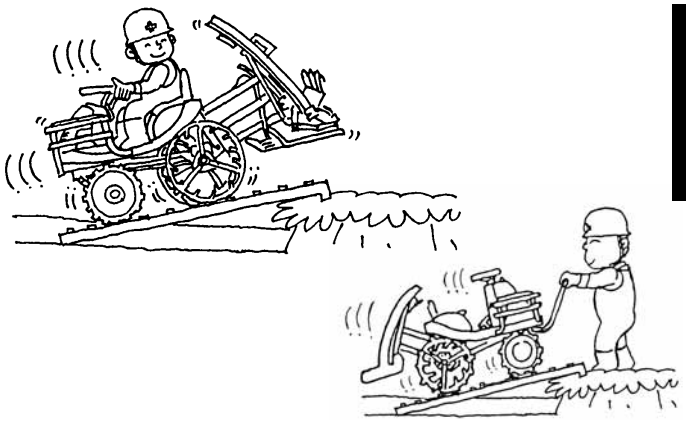
狭い農道，凸凹道路，坂道の走行

●狭い農道や凸凹道は低速で走行する
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う
●坂道では変速レバーを《N》（中立）にしない
●人や物を避けるとき，道路の端に寄りすぎない
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
●急な坂道は後進で登る

停車・駐車

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）にしエンジンを停止する
●坂道では駐車しない，やむをえず駐車するときは後輪に車止めをする
●機械を離れるときは油圧固定レバーを《固定》にし始動キーを抜取る

ほ場での作業　ほ場への出入り，あぜ越え

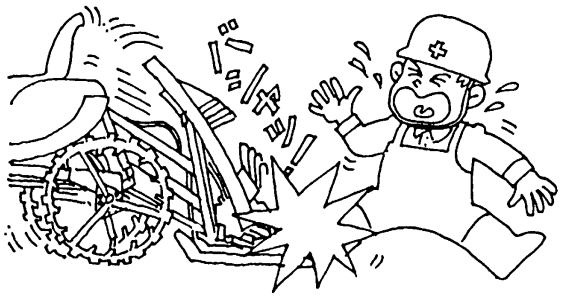


- あぜ越えはあぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝，急斜面を越すときはアユミを使用する
- 植付部を動かしたまま出入りしない
- 乗車して，上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- 降車して,AZ（アゼ）ハンドルを使用して上がるときは前進，降りるときは後進で行う
- 降車して，AZ（アゼ）ハンドルを使用するときは，周囲の安全，および，背後に障害物がないことを確認する
- アユミの上ではハンドル操作や変速をしない
- あぜが崩れないか確認しゆっくり走行する
- 機械に人やものをのせない

ほ場での作業

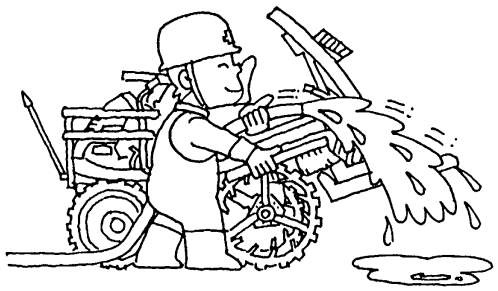


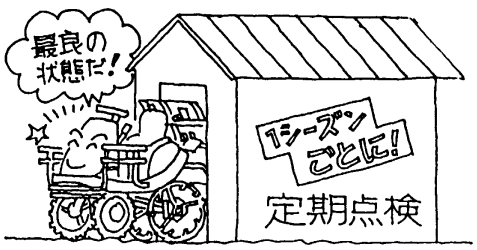
- 子供など，人を機械のそばに近づけない，２人乗りはしない
- 過労にならぬようゆとりを持って，作業の間に休憩を入れる
- 旋回時は周囲を確認する
- ウエイトがわりに人や物をのせない
- 後進するときは，背後に障害物がないことを確認して行う
- わき見運転や手放し運転はしない



作業中途の点検，駐車時

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行う
- エンジン回りの点検は，エンジンが冷えてから行う
- 植付部を上げて点検するときは油圧固定レバーを《固定》にする
- プランタ部の詰まりの除去やかき取り口の苗を直すときはエンジンを停止する
- 植付部の点検はエンジンを停止して行う
- 取外したカバー類は全て取付けて作業を開始する
- 機械を離れるときは油圧固定レバーを《固定》にし始動キーを抜取る





格　納　１日の作業が終わったら

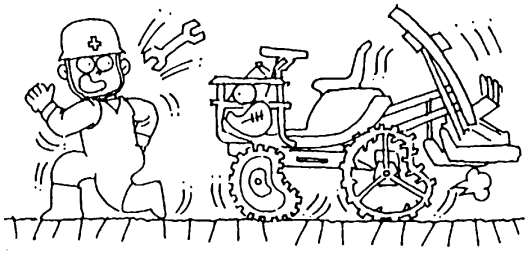
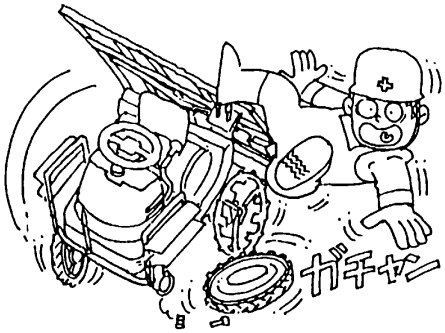
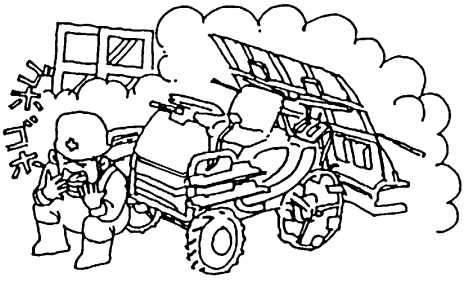
- 平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，植付部を降ろして各操作レバーを《N》（中立），《固定》（切）にしエンジンを停止する
- 燃えやすい物の近くに止めない
- エンジン回り，バッテリ，燃料タンク回りをきれいに掃除する
- 始動キーを抜取っておく

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする
- バッテリのアースコード（⊖側）を外しておく
- 燃料タンク，燃料ストレーナ，気化器内の燃料を抜取る
- 後輪の前後に車止めをする
- 苗のせ台を中央に止め，苗のせ台，補助苗台の上に物をのせない
- 植付部は降ろしておく

⚠ 作業前の一般的な注意事項

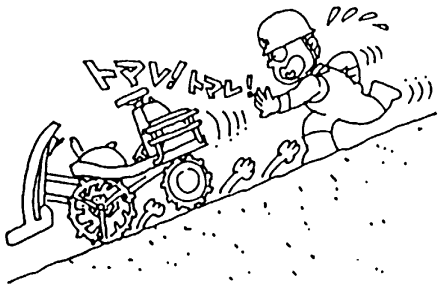
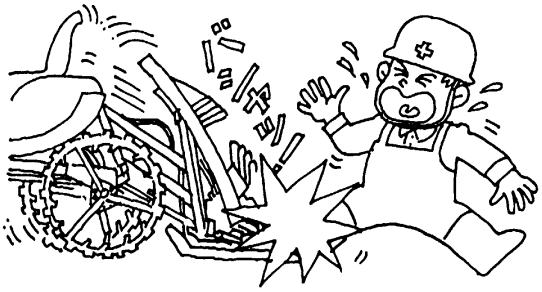
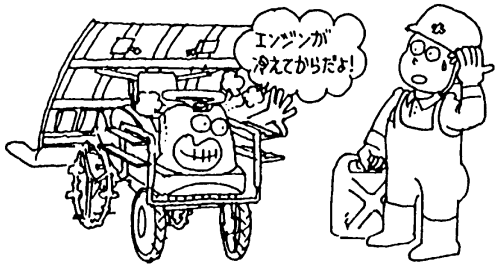
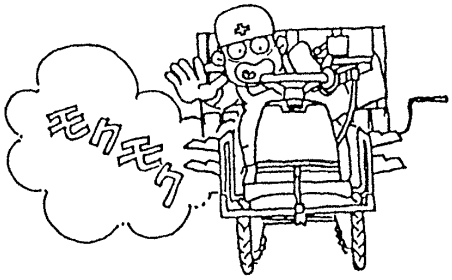
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

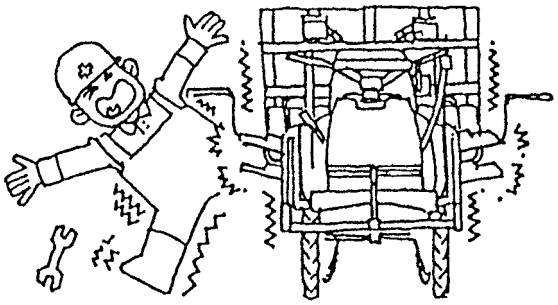
⚠警告 ◆機械は田植作業以外には使用しないでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆機械を使用する前後に点検を行い，異常箇所は直ちに整備してください。 ◆１シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。 ◆前後車輪取付部に異常がないか点検します。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 

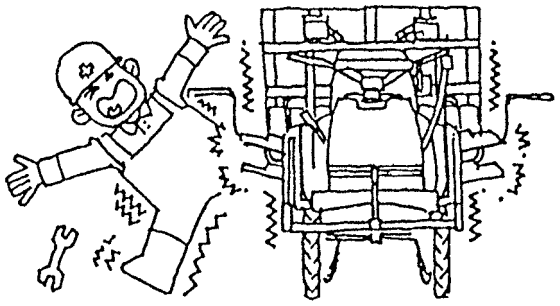
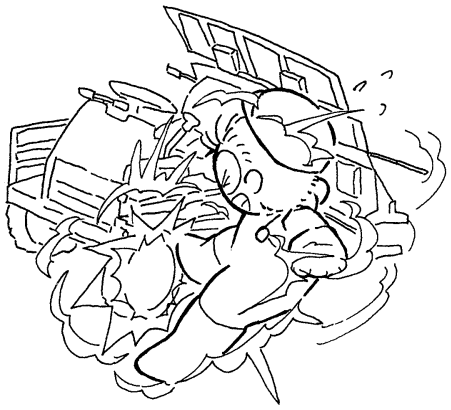
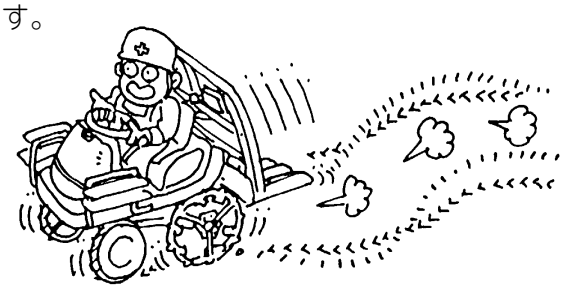
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械に人や物をのせたり，人を近づけない。 ●機械の上に人や物をのせない。 ●子供など，人を近づけない。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆機械への飛び乗り，飛び降りはしないでください。	バランスを崩して転倒したり，傷害事故を引起こします。 

⚠ 点検・整備および掃除をするときは……

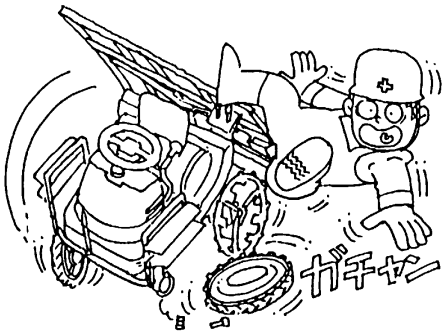
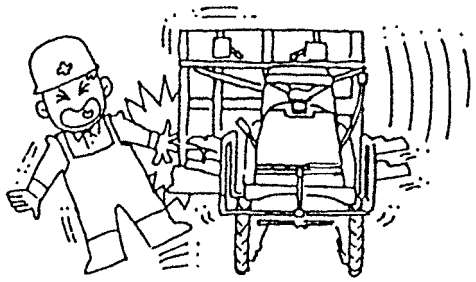
必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆点検，整備，掃除は平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止させてから行なってください。 ●主変速・副変速レバーが《N》（中立）になっていることを確認する。 ●後輪に車止めをする。	駐車ブレーキをかけていないと，機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧固定レバーを《固定》にすると共に固定脚などで支えをして落下を防止してください。	植付部が落下して傷害事故を起こします。 
⚠危険 ◆給油，注油，点検時は，平坦な場所でエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆燃料タンクや燃料ホースに損傷や燃料もれがないか点検してください。 ●もれている場合は交換する。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	火災事故を引起こすことがあります。 

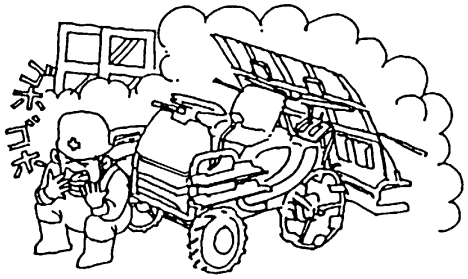
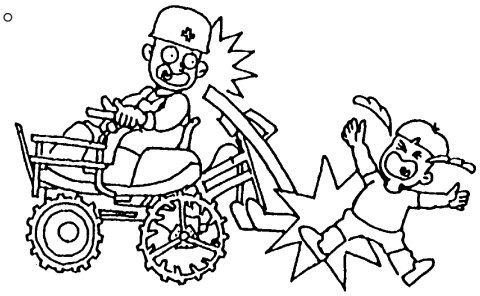
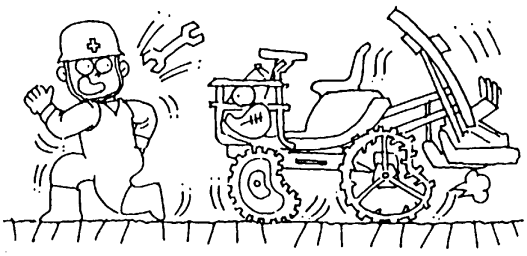
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。 
⚠警告 ◆バッテリ端子から，コードを取外すときは，スタータスイッチを「停止」にして⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。 ●バッテリの交換は指定されたバッテリを使用する。 ◆⊕⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 

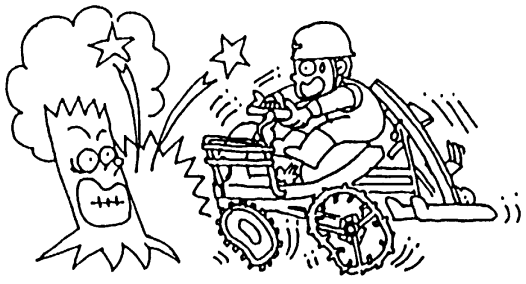
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線コードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す前にバッテリ⊖側のコードをバッテリ端子から外す。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
⚠警告 ◆空気入りタイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎない。 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）	タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンク回りにワラクズ・ゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ブレーキの点検調整をしてください。 ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。	正常な走行ができなくなり，事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ●機械には，点検整備に必要な工具類を常備しておきます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

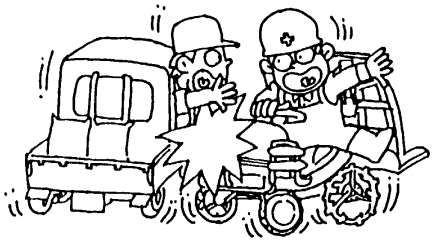
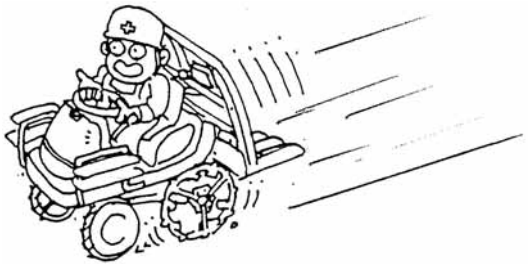
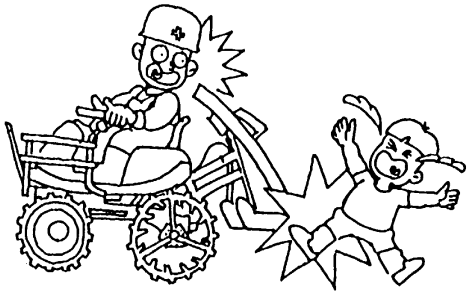
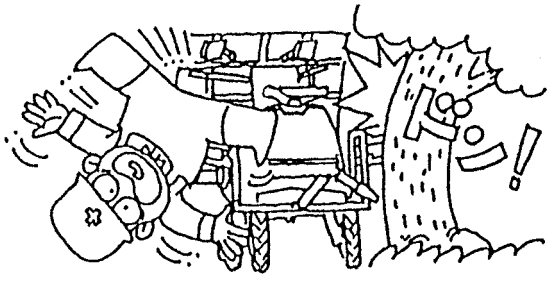
⚠ エンジンを始動するときは……

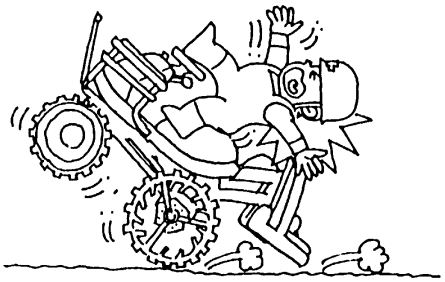
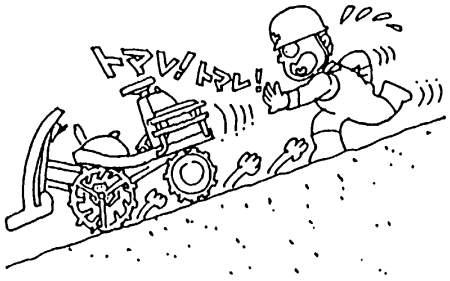
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆始動する前に，周囲を確認し機械の周囲から子供など，人を遠ざけてください。	子供など，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆始動は乗車して行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆主変速･副変速レバーを《N》(中立）にしてください。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。 ●ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速・副変速レバーを《N》(中立）にし，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 

⚠ 走行をするときは……

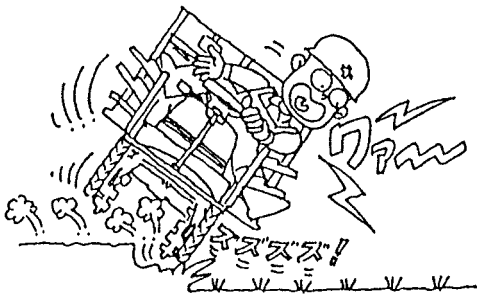
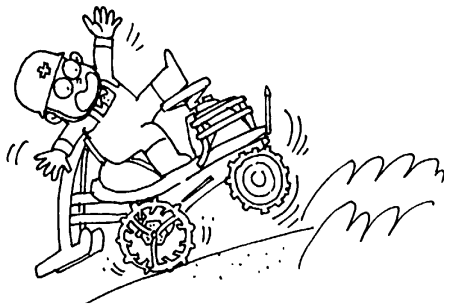
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

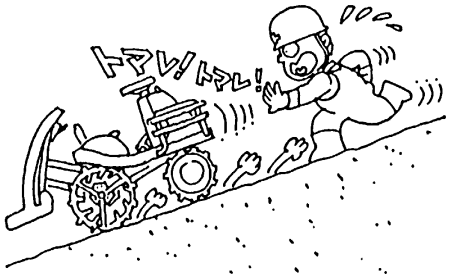
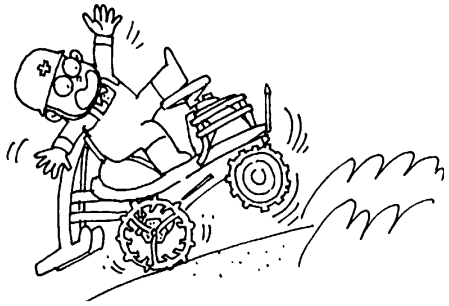
⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。公道の移動は自動車（トラックなど）にのせて運搬してください。	道路交通法に違反するだけでなく，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆坂道で停車するときは，ブレーキペダルを素早く踏込んで停車してください ●ブレーキペダルをゆっくり踏込むといったんクラッチが切れて，急加速するので素早く踏む。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供など，人が機械に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進する。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆苗のせ台を中央に止め，マーカーを折りたたんで，機械を格納状態にして走行してください。 ●トレースマーカー，線引マーカー，センタポールを格納する。 ●植付部を動かしたまま走行しない。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進する。発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを《N》（中立）位置からゆっくりと操作する。 ●走行速度はひかえめにする。 ●旋回するときは，低速にする。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆駐車・停車するときは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。 ●油圧・植付レバーが《固定》になっていることを確認する。 ●座席を離れるときはエンジンを停止する。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出して事故の原因となります。 

⚠ 狭い農道・凸凹道・坂道の走行は……

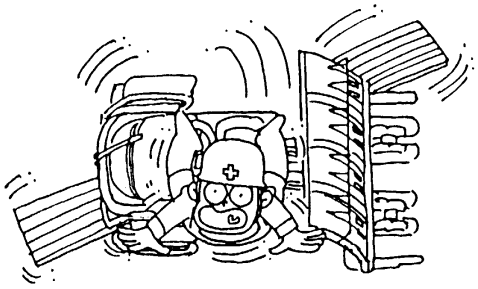
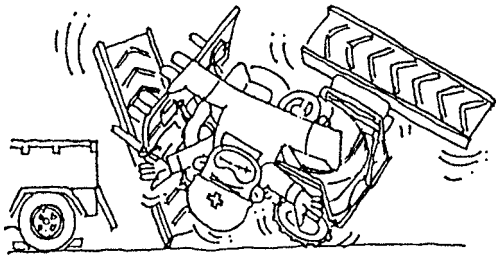
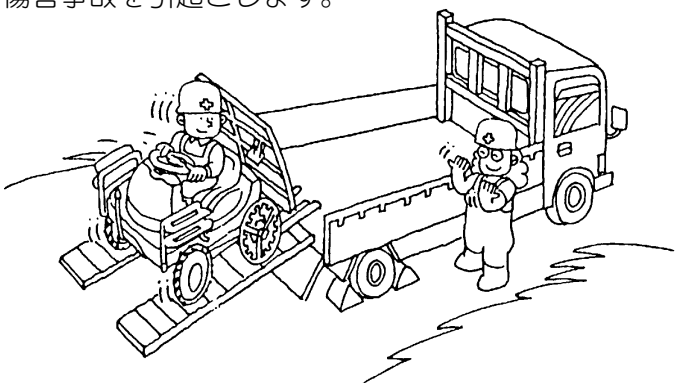
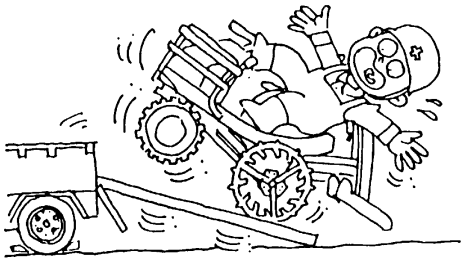
必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

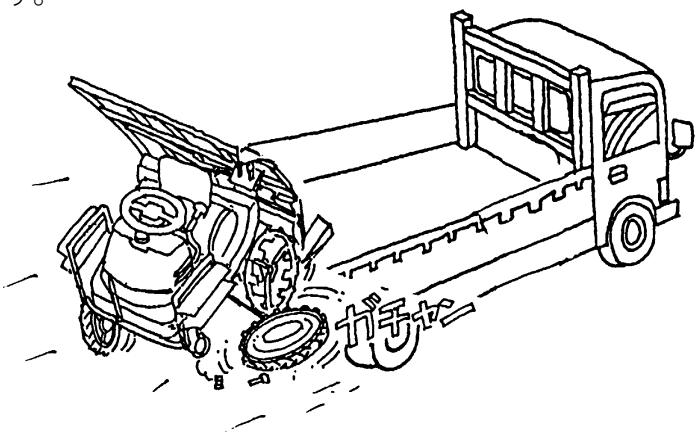
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。 ◆雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。 ●スピードを落として慎重に走行する。 ●坂道，傾斜地ではまくらっこ（ロータ軸）が後輪車軸の高さになるまで植付部を下げ，スピードを落として慎重に走行する。	転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では，副変速を中立にしないでください。 ●坂にさしかかったら，坂の手前でいったん機械を止めて副変速を《作業》に入れ変えて走行する。 ●下り坂では，副変速を《作業》にし，速度を下げてエンジンブレーキを使用する。 ◆坂の途中で危険回避などのためにやむをえず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。	スピードが速くなり事故の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけて後輪に車止めをしてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆急な傾斜地では走行をしないでください。	機械が転倒し傷害事故を引起こします。 

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

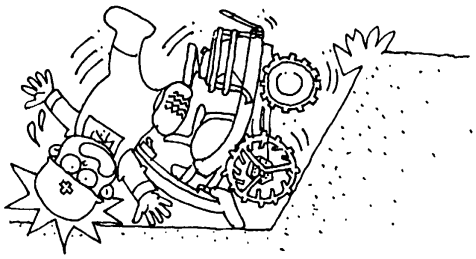
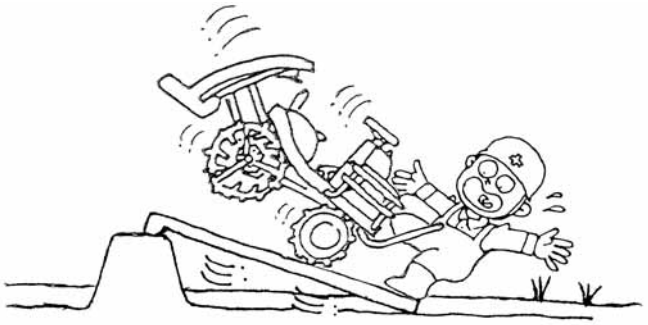
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

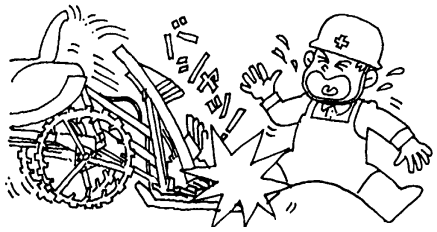
⚠警告 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上）があり，すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。 ●自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。 ●自動車はエンジンを停止し変速を１速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，車止めをする。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ●２枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き，荷台に対して真直ぐにする。 ●荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認する。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込み・積降ろしするときは，補助者をつけ，補助者の指示に従って行なってください。 ●補助者は機械の直前・直後には立たないでください。 ●機械の回りに人を近づけない。	傷害事故を引起こします。 
⚠警告 ◆乗車しての積込みは後進，積降ろしは前進で行なってください。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作はしない。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆アユミの上ではブレーキペダルを踏込まないでください。 ●途中で機械を止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行う。	エンジンブレーキがきかなくなり，急降下して事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆自動車（トラック）に載せて移動するときは，植付レバーを《固定》位置にし，ロープで機械を確実に固定し，副変速を「作業」にし，駐車ブレーキをかけてください。	自動車（トラック）から機械が転落することがあります。 

⚠ほ場で作業をするときは……

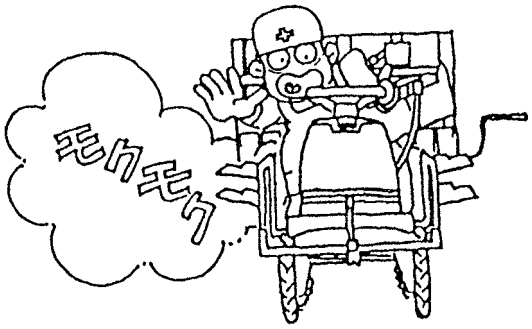
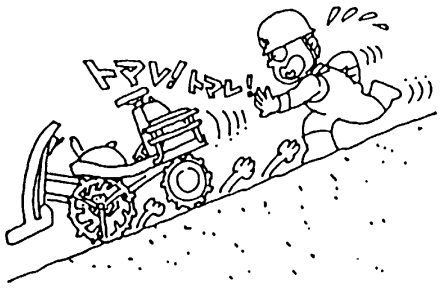
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ［乗車しての場合］ ◆急傾斜，溝越え，あぜのあるほ場への出入りはアユミを使いあぜに直角に行ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行う。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。 ●植付部を動かしたまま出入りしない。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ［降車してAZ（アゼ）ハンドルを使用した場合］ ◆急傾斜，溝越え，あぜのあるほ場への出入りはアユミを使い，あぜに直角に行ってください。 ●主変速は最低速，副変速は「作業」，エンジン回転は低速にする。 ●AZ（アゼ）ハンドルを操作する前に前輪を直進方向にしておく。 ●AZ（アゼ）ハンドルを使用して上がるときは前進，降りるときは後進の低速で行う。 ●AZ（アゼ）ハンドルを使用するときは，周囲の安全，および，背後に障害物がないことを確認する。 ●アユミの上ではハンドル操作や変速をしない。 ●植付部を動かしたまま出入りしない。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中は機械に人を近づけないようにしてください。 ◆ほ場に子供など，人を入れない。 ◆子供など，人が近寄らないようにする。 ◆わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆植付爪などに噛込んだ異物を除去するときは，植付クラッチを切りエンジンを停止してから行なってください。	植付爪などが一時的に動き出し，傷害事故を引起こします。 
⚠注意 ◆苗を補給するときは，エンジンを停止して行なってください。	不意に機械が動き，傷害事故を引起こします。 
⚠注意 ◆作業中途で点検するときは，エンジン，マフラなどの高温部に触れないでください。	ヤケドすることがあります。 
⚠注意 ◆作業中，植付部を上げた状態で点検するときは，油圧固定レバーを《固定》にして行なってください。	植付部が落下して傷害事故を引起こします。 
⚠注意 ◆夜間作業は行わないでください。	思わぬ傷害事故を引起こします。 

⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン，マフラ，燃料タンク回りのワラ，草などを除去・掃除する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。 ●始動キーは抜取っておく。 ●油圧固定レバーを《固定》にしておく。	不意に機械が動き出して，思わぬ事故を引起こします。 

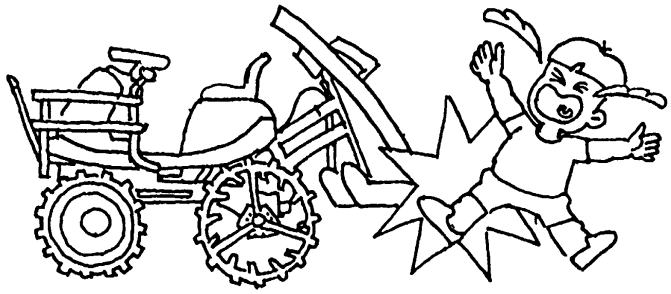
⚠ 長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆各部を水洗いして平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，始動キーを抜取ってください。

機械から目をはなしたすきに子供などがイタズラをしたりして，思わぬ事故の原因となることがあります。

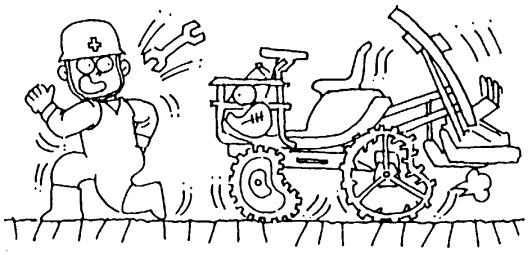


⚠警告

◆故障箇所があれば，早目に修理，交換します。

◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けます。

整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

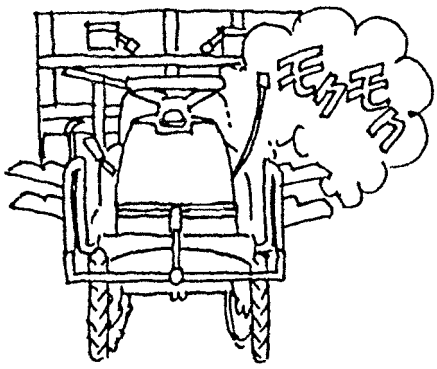


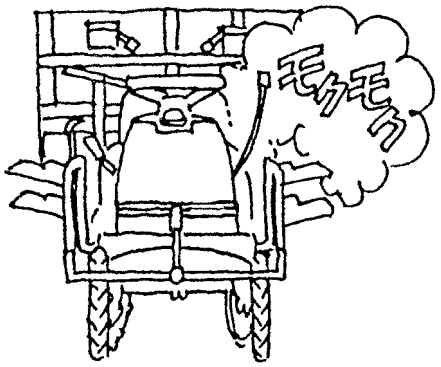
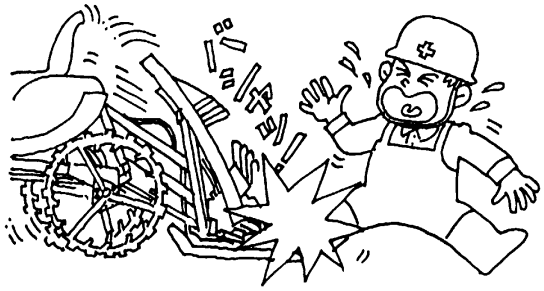
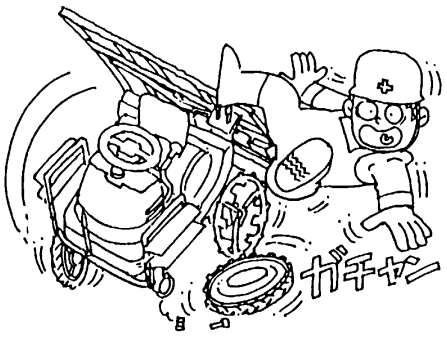
⚠警告

◆バッテリは機械から外して保管するか⊖側のコードを外しておいてください。

●バッテリを機械から外して保管するときは⊖側のコードを外してから⊕側のコードを外す。

事故の原因となることがあります。

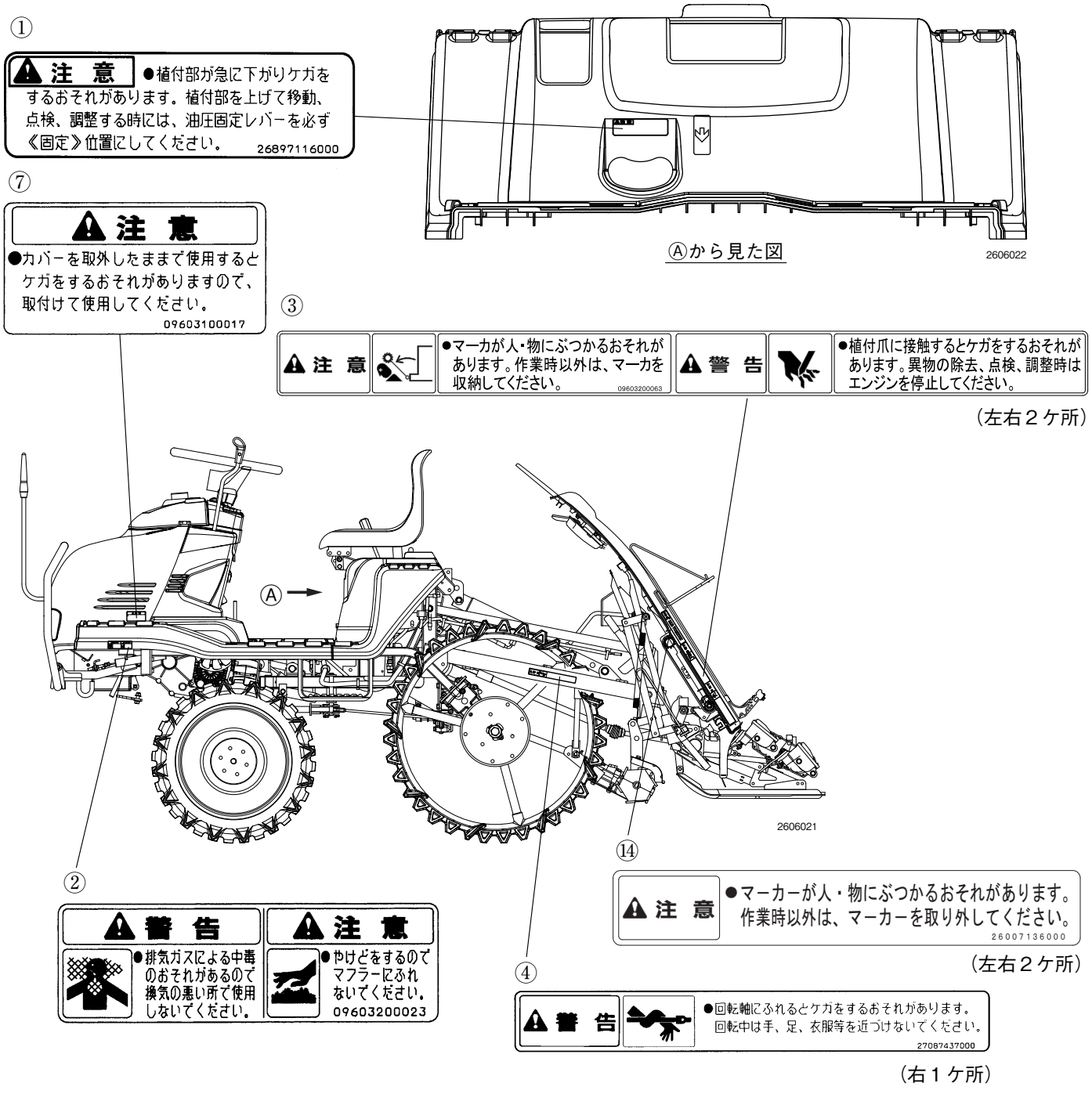


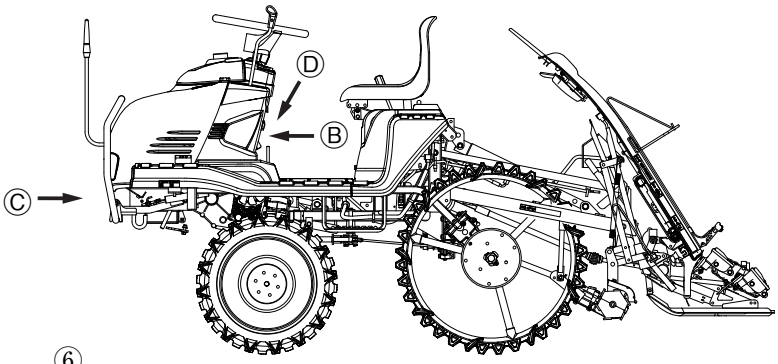
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械を１ケ月以上使用しない場合は燃料タンク，燃料ストレーナ，気化器内の燃料を抜取ってください。		火災の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆植付部は降ろしておいてください。 ●油圧固定レバーを《固定》にする。 ●苗のせ台を中央に止め，苗のせ台，補助苗台の上に物をのせない。		植付部が下がり，思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。		整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき，守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し，貼り替えてください。





2606021

⑤

⚠注　意

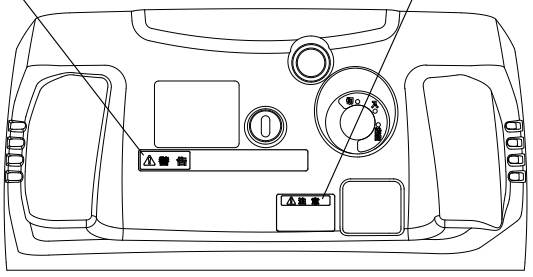
●使用しない時は燃料コックを閉じてください

●トラック輸送時は燃料コックを閉じてください　35778532500

⑥

⚠警　告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、**機械から離れる時**は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ**エンジンを停止**してください。　09603200052



2606023B

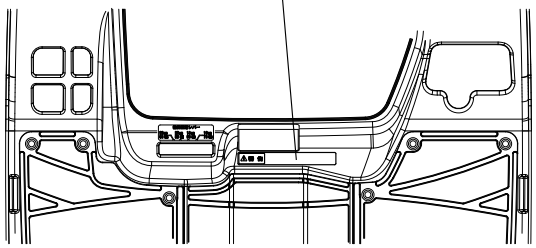
Ⓑから見た図

⑧

⚠警　告

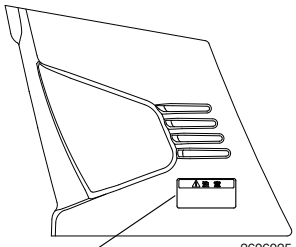
●転倒事故を起こさないために
移動走行するときは、まくらっこ（ロータ軸）が後車輪軸の高さになるまで植付部を下げ、走行してください。　26047147000

26047147000



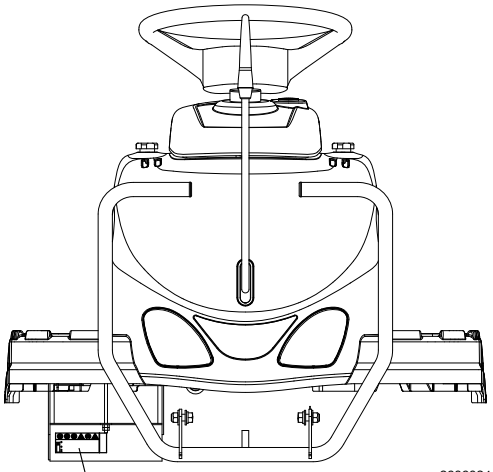
2606B001

Ⓓから見た図



2606025

[右側面]



2606024

Ⓒから見た図

⑦

⚠注　意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑨

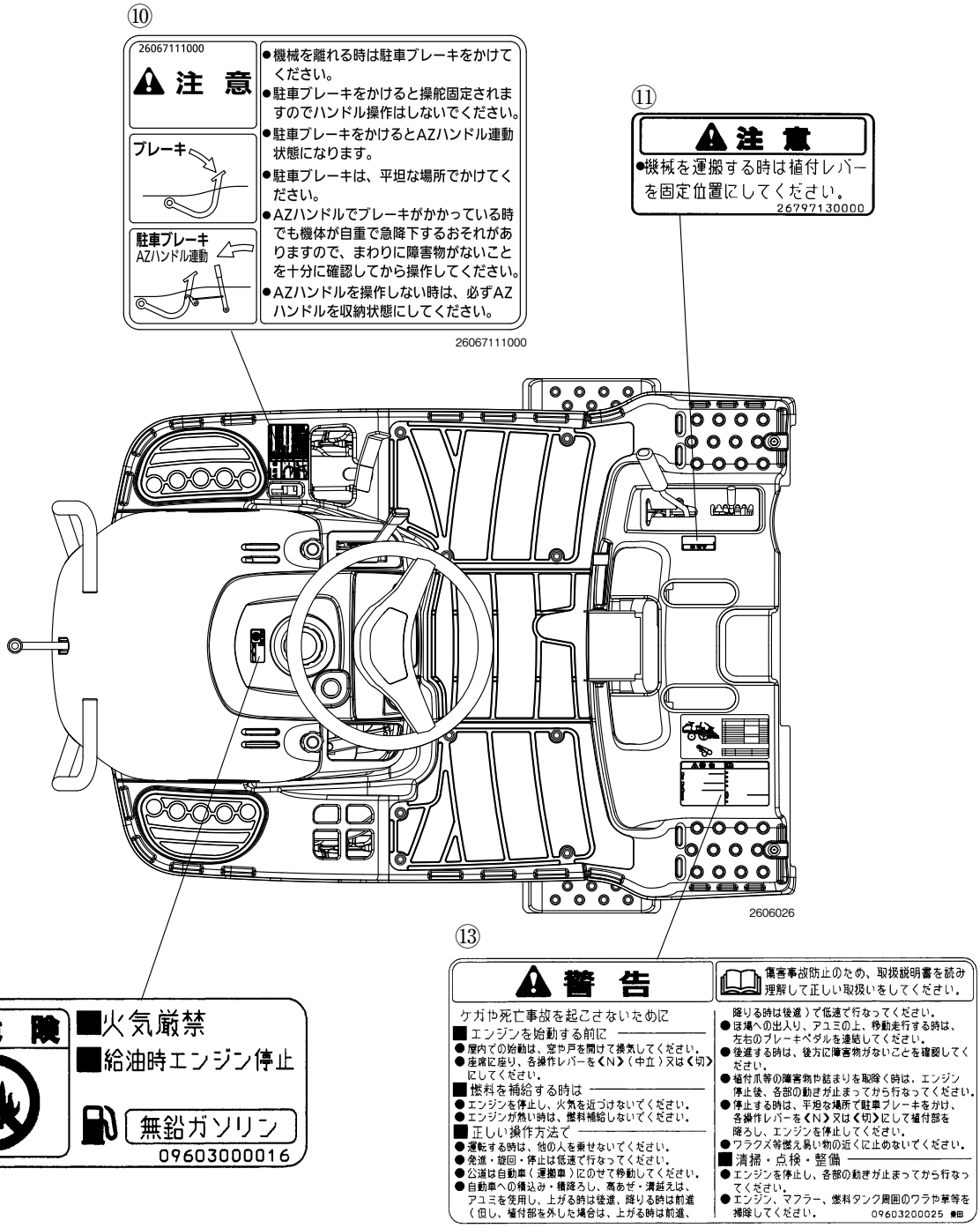


火気厳禁　メガネ着用こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

危険

●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
●バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
●爆発の恐れあり、液面はＬＯＷＥＲ以下で使用しない
●液漏れの恐れあり、ＵＰＰＥＲ以上に補水しない

09603000017



No.	部 品 名 称	部品番号	No.	部 品 名 称	部品番号
①	チュウイラベル　ユアツコテイ	2689 7116 000	⑧	ケイコクラベル　テントウ	2604 7147 000
②	ケイコクラベル　ハイガス	0960 3200 023	⑨	キケンラベル　バッテリ	0960 3000 017
③	ケイコクラベル　ウエツケヅメ	0960 3200 063	⑩	チュウイマーク　ブレーキ	2606 7111 000
④	ケイコクラベル　カイテンジク	2708 7437 000	⑪	チュウイマーク　ウンパン	2679 7130 000
⑤	チュウイラベル　ネンリョウコック	3577 8532 500	⑫	キケンラベル　ガソリン	0960 3000 016
⑥	ケイコクラベル　ストップ	0960 3200 052	⑬	ケイコクラベル　ソウゴウ	0960 3200 025
⑦	チュウイラベル　カバー	0960 3100 017	⑭	チュウイマーク　マーカー	2600 7136 000

地球環境を守るために

この製品は（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制に適合しているエンジンを搭載しています。

この自主規制は小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、および一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバーなどに貼付けています。



使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

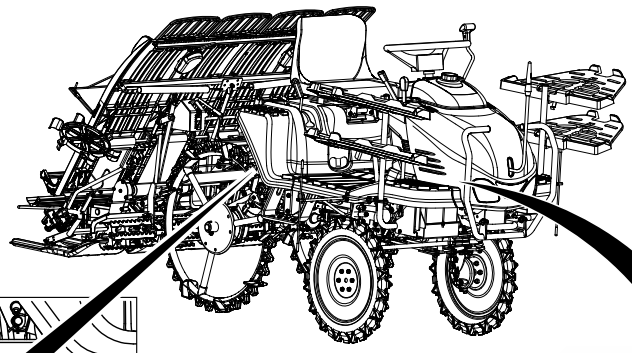
２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげ先」にご相談ください。

本エンジンは排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

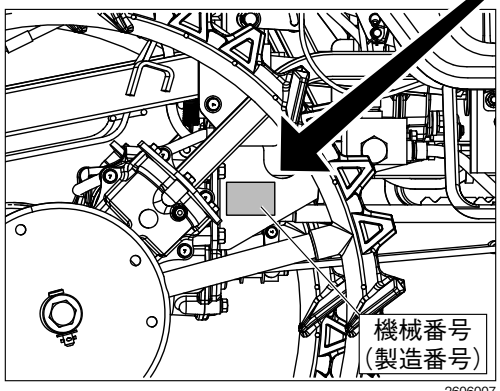
ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。

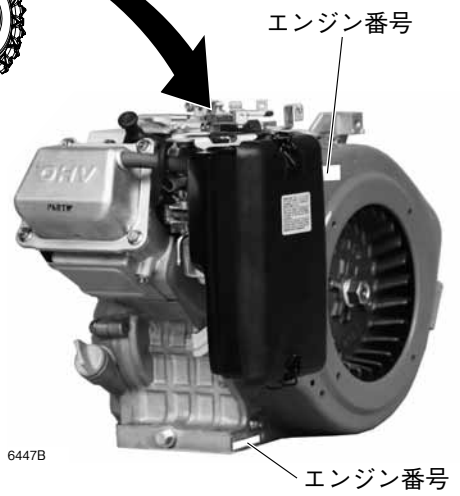


2606037



2606007

（座席の下）



6447B

・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**田植作業**に使用してください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を改造しないでください。
改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次の表のようになっています。

このため仕様（装備）が異なる点の追加説明をしていますので，お買いあげの機械の仕様（装備）をお確かめのうえ，お間違いのないようにしてください。

型式名	区分	ガソリンエンジン（GT1000）	パワステ	HST＋副変速2段	スマイルターン	まくらっこ	前輪独立懸架	Aァ Zゼ ハンドル	四輪ブレーキ	条間30cm	ロータリ式植付	バックアップ	株間 標準（20・23・25・28）	株間 密植（16・18・20・22）	施肥機 ペースト	施肥機 粒状	前輪 ノーパンク φ550	後輪 標準 φ750	後輪 太リム φ750	横送り2段（20・26）	風車型線引きマーカー
三菱 LE4	D	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		○	○
	DU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		○	○	○
	DP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○
	DPU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
	DR	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○
	DRU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○
	DB	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○		○	○
	DBU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○	○	○
	DBP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○
	DBPU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○		○	○	○
	DBR	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○
	DBRU	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○	○

（詳細な仕様は72ページの「**主要諸元表**」を参照ください。）

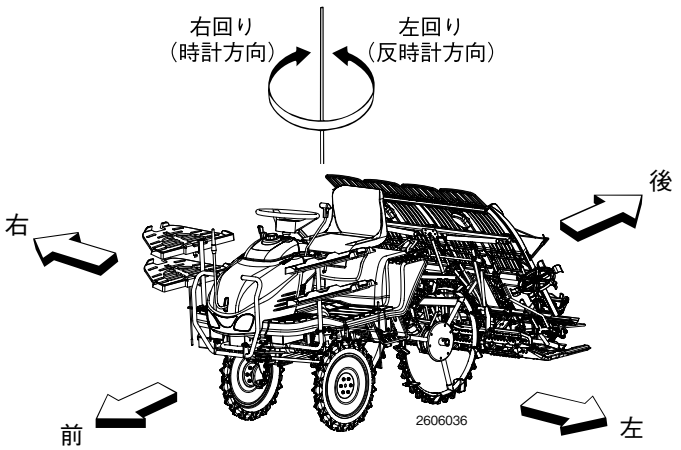
型式記号の説明：B＝密植株間，U＝太リムタイヤ，

P＝ペースト施肥機付，R＝粒状施肥機付

D＝パワステ＋バックアップ＋風車型線引きマーカー

3. 用語について

⑴ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



⑵ **マークの説明**

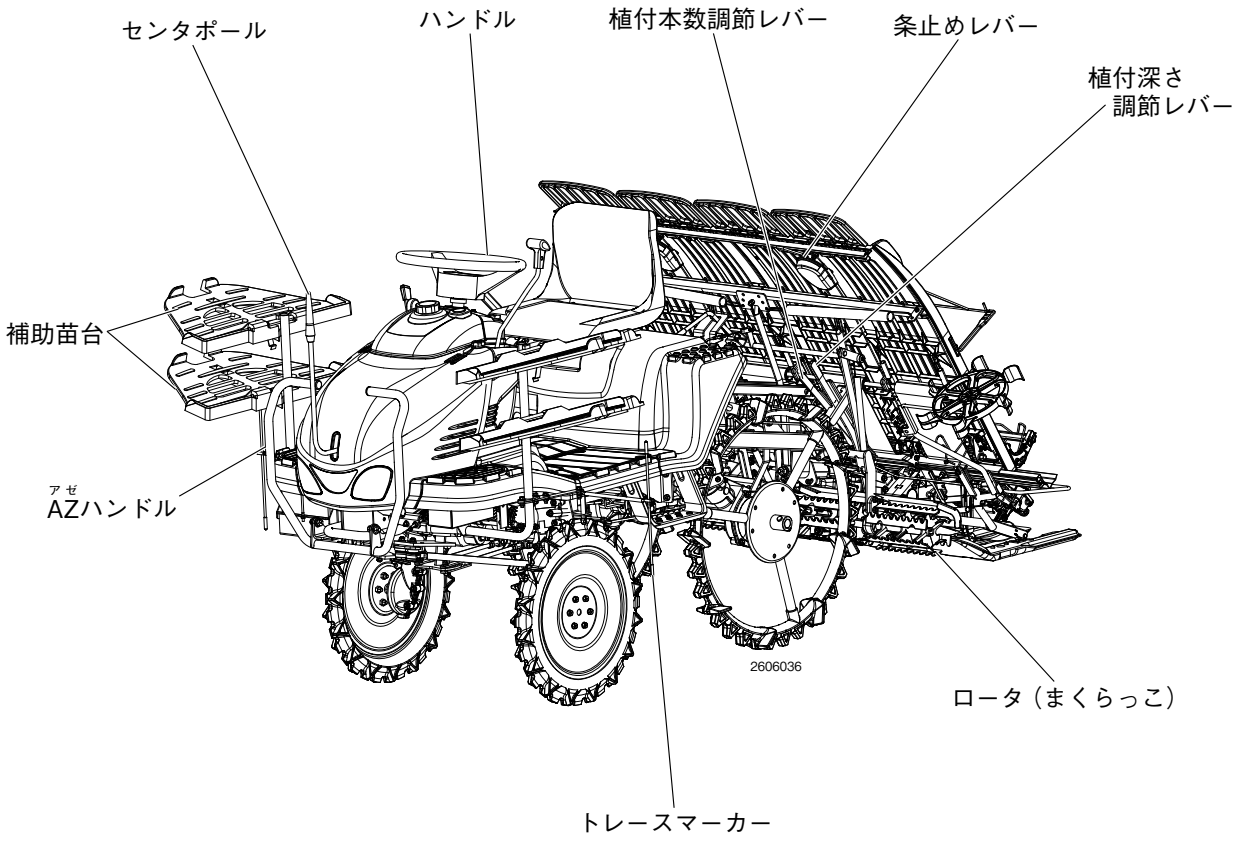
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

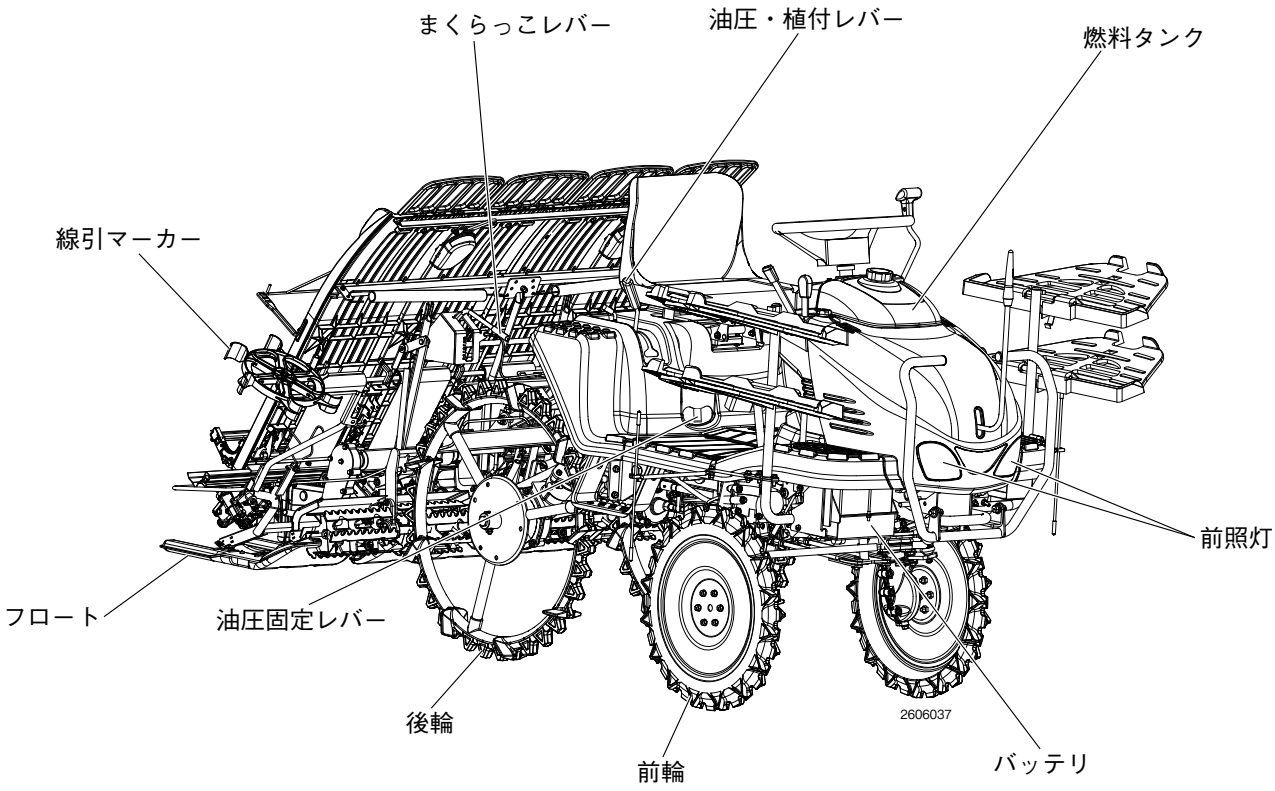
・ **危険** **警告** **注意** ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

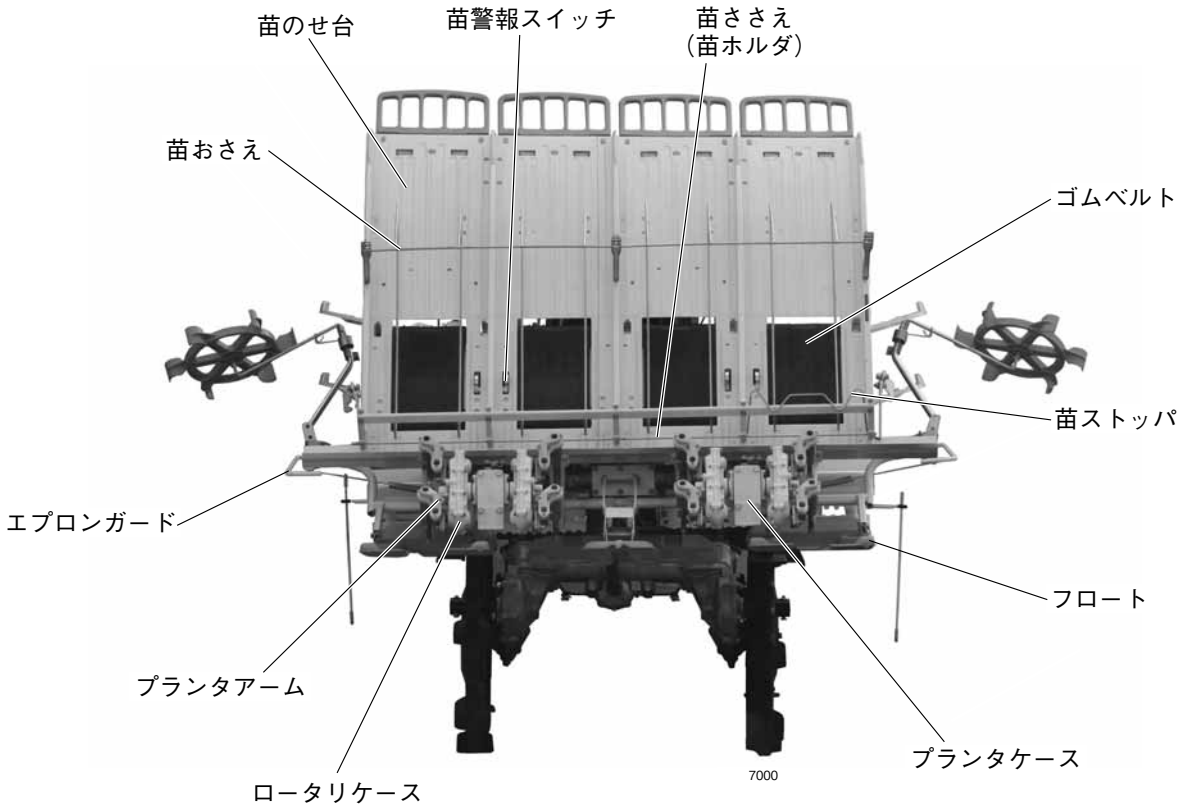
・ **取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

各部のはたらき

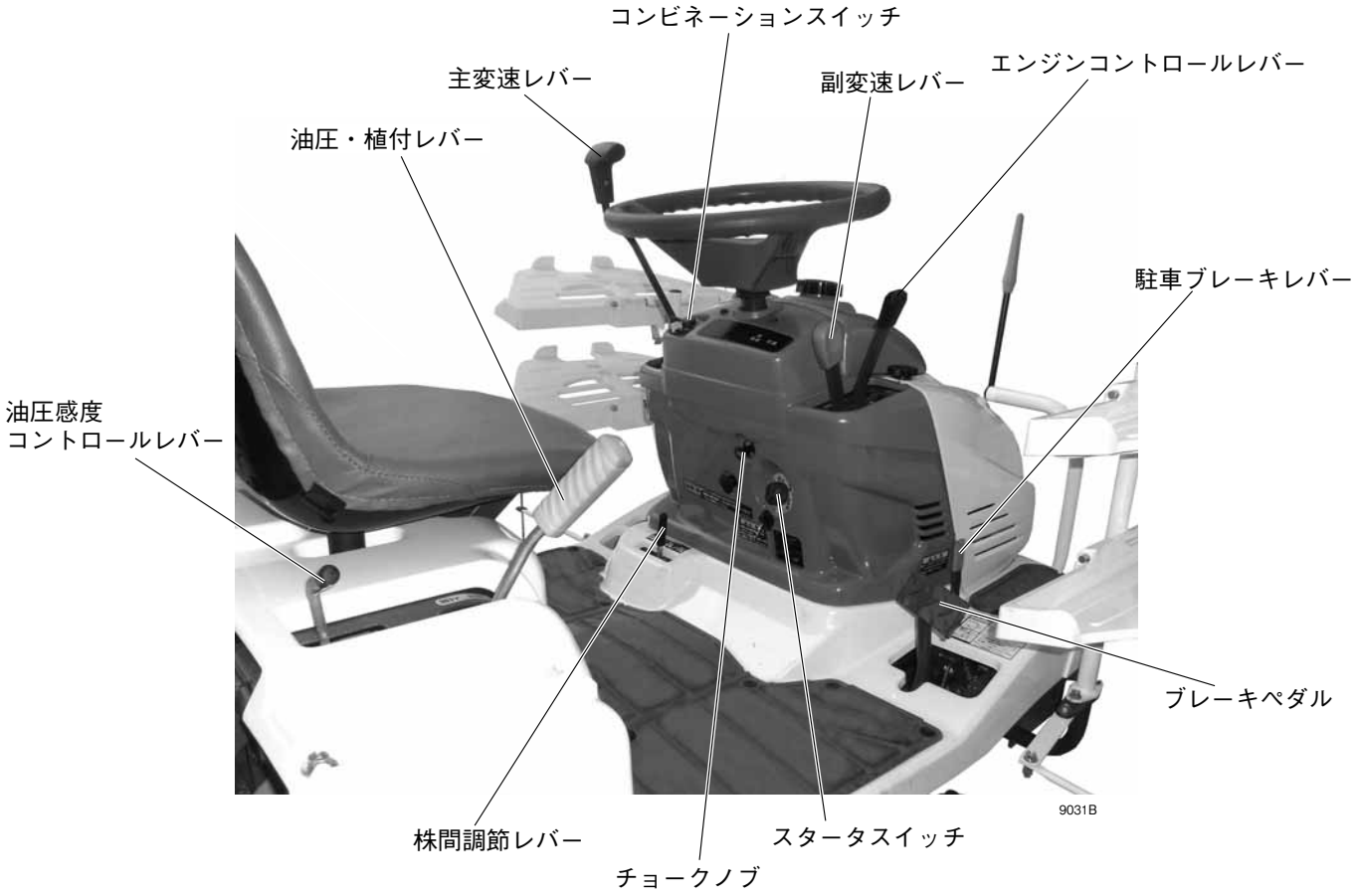
1．各部の名称





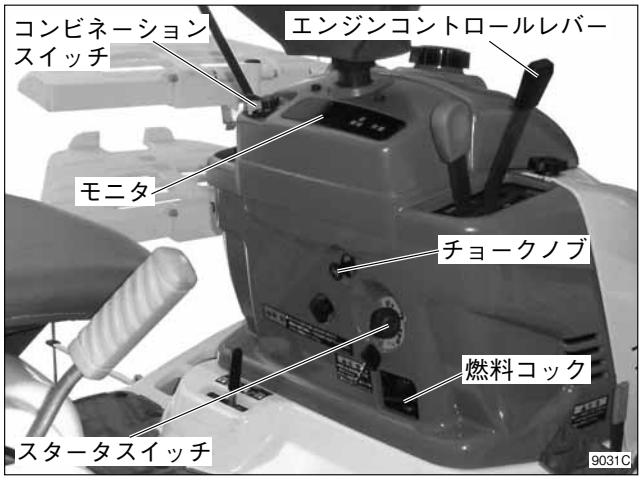

苗のせ台
苗警報スイッチ
苗ささえ
(苗ホルダ)
苗おさえ
ゴムベルト
苗ストッパ
エプロンガード
フロート
プランタアーム
プランタケース
ロータリケース
7000

運転操作部


コンビネーションスイッチ
主変速レバー
副変速レバー
エンジンコントロールレバー
油圧・植付レバー
駐車ブレーキレバー
油圧感度
コントロールレバー
ブレーキペダル
株間調節レバー
スタータスイッチ
チョークノブ
9031B

2. 運転装置の取扱い

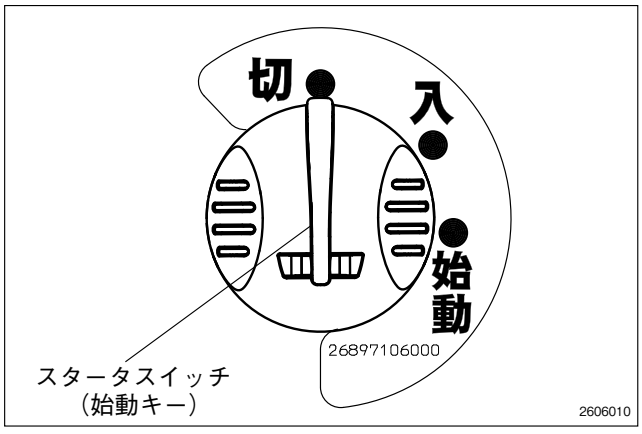
1. エンジンコントロール・計器関係



❶ スタータスイッチ（始動キー）

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆機械を使用しないときは始動キーを抜いておいてください。

・《**切**》……電源切（**エンジン停止**）
　スタータスイッチを《**切**》位置にするとエンジンが停止します。
・《**入**》……電源入（運転中）
・《**始動**》…エンジン始動
　手を放せば自動的に《**入**》位置にもどります。

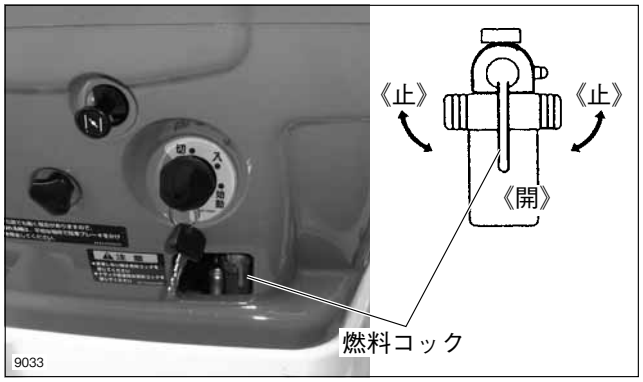


取扱いのポイント

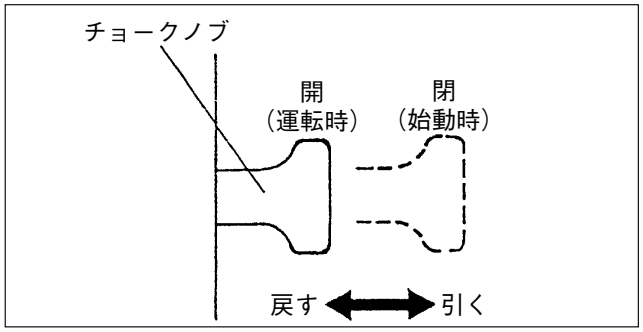
●ブレーキペダルに始動安全スイッチがついていますので，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないと，エンジンは始動できません。

❷ 燃料コック

エンジンを停止しているときに燃料を止めておくコックです。
《**開**》……燃料が「**流れ**」ます。
《**止**》……燃料が「**停止**」します。

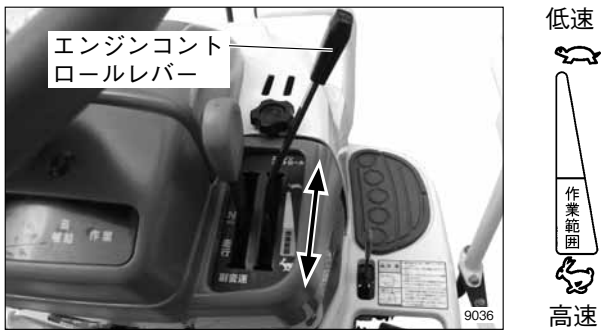


❸ チョークノブ



チョークノブを引くと，燃料の混合気が濃くなり，エンジンの始動を容易にします。
・エンジンが冷えているとき……
　チョークノブをいっぱい引いて始動。
　「**閉**」
・エンジンが暖まっているとき……
　チョークノブを半分程度引く，または戻したままで始動。「**半開または開**」

❹ エンジンコントロールレバー



エンジンコントロールレバーを手前に引けば「**高速**」となり，前方へ押せば「**低速**」となります。

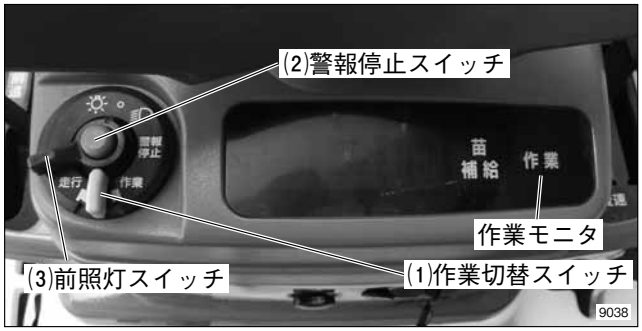
❺ コンビネーションスイッチ

コンビネーションスイッチには３つの機能があります。

⑴ **作業切替スイッチ**

⑵ **警報停止スイッチ**

⑶ **前照灯スイッチ**



⑴ **作業切替スイッチ**

スタータスイッチを《**入**》位置にして作業切替スイッチを《**作業**》位置にすると作業モニタが点灯し他のモニタおよび警報ブザーが作動状態になります。作業切替スイッチを《**走行**》位置にすると作業モニタが消灯し他のモニタ，警報ブザーが作動しません。

取扱いのポイント

- **作業中は作業切替スイッチを《作業》位置にしておかないと，各モニタおよび警報ブザーが働かず，欠株の恐れがあります。**
- **植付け作業時以外は作業切替スイッチを《走行》位置にしてください。**
- **この機械には，転倒を防止するための転倒警報が付いています。転倒警報は，作業切替スイッチの位置に関係なく警報ブザーが作動します。**
  ・転倒警報　　：連続音
  ・その他の警報：断続音
  転倒警報は，警報停止スイッチを押してもブザー音は鳴りやみません。

⑵ **警報停止スイッチ**

苗補給モニタ・施肥詰りモニタ・肥料残量モニタは点灯と同時に警報ブザーが鳴ります。このとき警報停止スイッチを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

取扱いのポイント

- **警報停止スイッチを押して警報ブザーを停止させても苗補給モニタ・施肥詰りモニタ・肥料残量モニタは消灯しません。**
  ペースト施肥機仕様の場合，施肥詰りの警報ブザーは，警報停止スイッチを押しても止めることはできません。詰りを取り除いてください。
  粒状施肥機仕様の場合は，施肥詰りの警報ブザーは，警報停止スイッチで止めることができます。
  転倒警報は，警報停止スイッチを押しても警報ブザーを止められません。警報ブザーが鳴り止む安全な機体角度になるまでゆっくり移動してください。

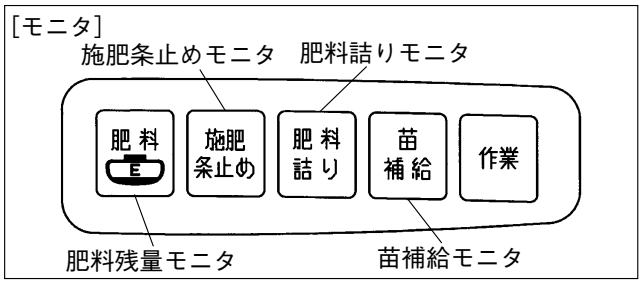
モニタ表示	警報の種類	モニタ点灯パターン	警報ブザー音	警報停止スイッチでブザー音停止
−	転倒警報	−	連続音	×
苗補給モニタ	苗補給警報	点灯	断続音	○
肥料残量モニタ	側条ペースト残量警報	点灯		○
	下段ペースト残量警報	点滅		○
施肥条止めモニタ	側条ペースト条止め	点灯	−	○
	下段ペースト条止め	点滅	−	○
肥料詰まりモニタ	側条ペースト肥料詰まり警報	点灯	断続音	×
	下段ペースト肥料詰まり警報	点滅		×
肥料残量モニタ	粒状施肥残量警報	点灯		○
肥料詰まりモニタ	粒状施肥施肥詰まり警報	点灯		○

⑶ **前照灯スイッチ**

スタータスイッチを《**入**》位置にして前照灯スイッチを《≣D》位置にすると前照灯が点灯し，《**o**》位置にすると前照灯が消灯します。

❻ 苗補給モニタ

苗のせ台の苗が減って苗つぎが必要な位置までくると苗補給モニタが点灯し，同時にブザーも鳴ります。



次の３つのモニタは施肥機を装着したときのみ作動します。

詳細は施肥機の取扱説明書を参照してください。

❼　肥料詰りモニタ

施肥作業中に肥料が詰まると肥料詰りモニタが点灯し，警報ブザーも鳴ります。

❽　施肥条止めモニタ

切替レバーが施肥停止位置にあるときに施肥条止めモニタが点灯します。

❾　肥料残量モニタ

肥料の残量が少なくなると肥料残量モニタが点灯し，警報ブザーが鳴ります。

2. 走行操作関係

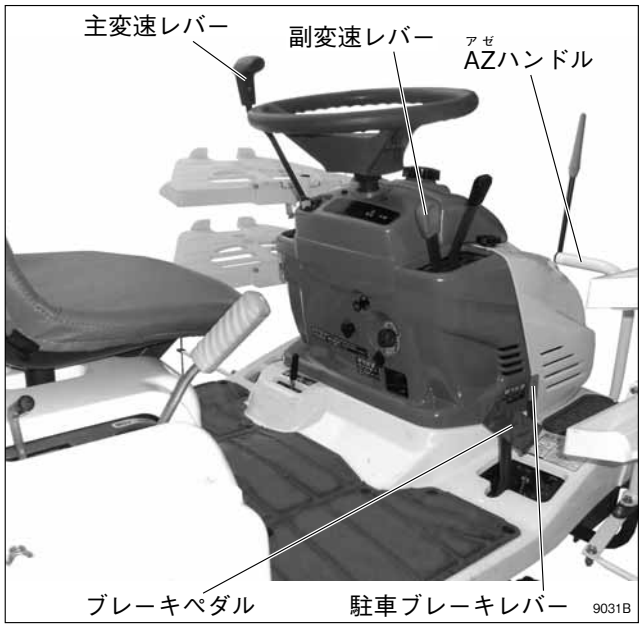
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ＡＺ（アゼ）ハンドルと駐車ブレーキレバーは使い方を誤ると，挟まれ・転落などの事故を起こす可能性があります。安全作業のため，「ほ場への出入り」（27ページ参照）をよく読み，正しく使用して下さい。

◆急発進，急停止，急旋回はしないでください。転倒事故を引き起こすことがあります。発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを《N》（中立）位置からゆっくりと操作してください。

◆駐車・停車時には，駐車ブレーキレバーをかけてください。

◆この機械は，左右の転倒防止のため，ある程度危険な角度に傾くと警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは安全な機体角度（ブザーが鳴らない角度）になるまでゆっくり移動してください。



❶　ブレーキペダル

・ブレーキペダルを踏込むとクラッチが切れてブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時および副変速レバーを操作する際に使用します。



取扱いのポイント

- **ブレーキペダルを踏込むと，クラッチが切れ，次に４輪全てにブレーキがかかります。**
- **ブレーキペダルは素速く踏込んでください。**
- **ブレーキペダルに始動安全スイッチを装備していますので，いっぱいに踏込まないとエンジンは始動できません。**

❷　駐車ブレーキレバー

・ハンドルを直進状態にして，ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキレバーをフック部にかけます。

・駐車ブレーキを解除するには，駐車ブレーキレバーをフック部から外しブレーキペダルを強く踏込めば外れます。
・駐車ブレーキレバーとＡＺ（アゼ）ハンドルは連動しているので，ＡＺ（アゼ）ハンドルを使用するときは駐車ブレーキをかけて行ないます。

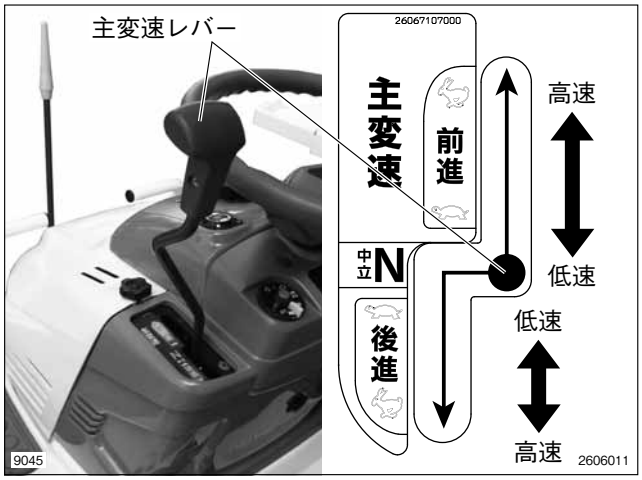


取扱いのポイント

- **駐車ブレーキをかけると操舵固定(ハンドルロック)されますのでハンドル操作はしないでください。**
- **駐車ブレーキを解除するには，駐車ブレーキレバーをフック部から外し，ペダルを踏込んで外します。**

❸ 主変速レバー

ブレーキペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。**《前進》《後進》**いずれも主変速レバーの位置を動かすことで走行速度を選ぶことができます。
・前進速度は，主変速レバーを**《N》（中立）**位置より前方に動かすと速くなり，後進速度は主変速レバーを左に寄せ，**《N》（中立）**位置より後方に動かすと速くなります。

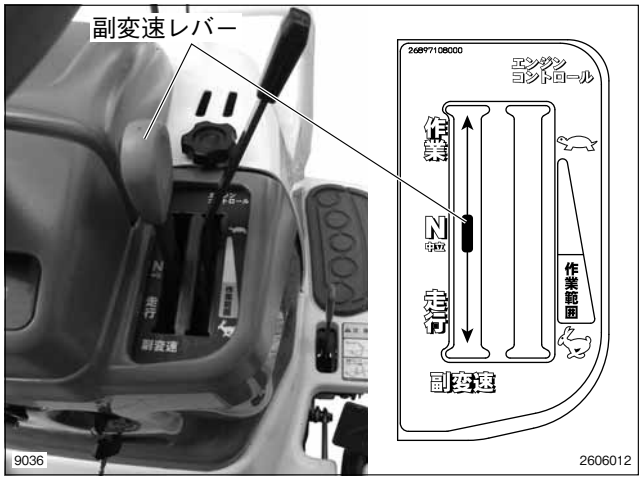


取扱いのポイント

- **エンジン停止中は主変速レバーを操作しないでください。**
- **後進する場合は植付部が充分上がってから，主変速レバーを《後進》側にゆっくり操作してください。**

❹ 副変速レバー

《作業》，《走行》の２段階に変速でき，中央は**《N》（中立）**になっています。



取扱いのポイント

- **副変速レバーの操作はブレーキペダルを踏込んで行なってください。（主クラッチが切れる）**
- **《作業》**……**「植付作業」**および移動・積込み積降ろし・あぜ越え・ほ場の出入り・急な坂道などで使用します。
- **《走行》**……平坦地で高速での**「移動走行」**に使用します。

❺ ＡＺ（アゼ）ハンドル

・ほ場の出入りをするときやあぜ越えのときなど，田植機から降りて前進・後進操作をする場合に使用するハンドルです。（ＡＺ（アゼ）ハンドルの使い方は28ページを参照）
・駐車ブレーキをかけたときだけＡＺ（アゼ）ハンドル操作ができます。

●ＡＺ（アゼ）ハンドルが直立（無操作）のとき
⑴走行クラッチが切れています。
⑵四輪ブレーキが効いています。
●ＡＺ（アゼ）ハンドルを下方いっぱいに倒したとき
⑴走行クラッチが入り動き出します。
⑵四輪ブレーキが解除されます。
⑶機械は直進します。（主変速レバーおよび副変速レバーが《N》(中立）では動きません）



取扱いのポイント

●駐車ブレーキが効いた状態で前進・後進をする場合，ＡＺ（アゼ）ハンドルによる操作のみ有効です。

❻ パワーターンペダル
（スマイルターン解除ペダル）

旋回時，内側後車輪の動力が切れます。（スマイルターン）このとき，パワーターンペダル（スマイルターン解除ペダル）を踏むと内側後車輪に動力をつたえます。旋回時，車輪がスリップする場合に使用します。



取扱いのポイント

●機械が旋回時，ほ場の深みにはまり旋回不能になったとき，パワーターンペダル（スマイルターン解除ペダル）を踏むと，内側後車輪に動力がつたわり，脱出しやすくなります。

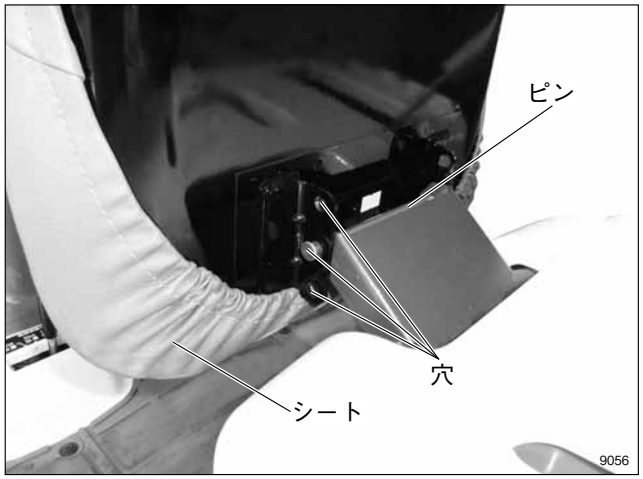
3．その他の装置

❶ 燃料ゲージ

燃料タンク内の燃料の量を示します。



❷ シート

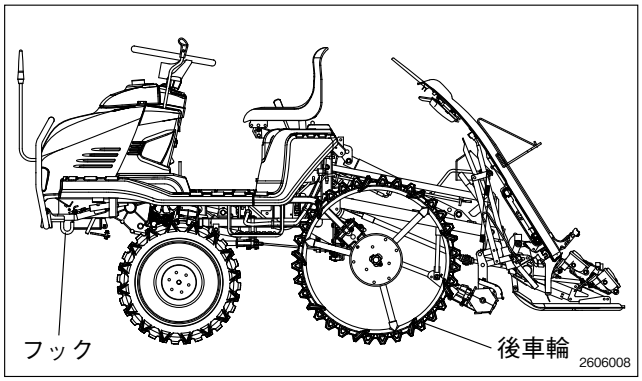


運転者の体格にあわせてピンの差替えによりシート位置が３段階（穴）に前後調節ができます。

❸ フック

荷造り用のフックに使用します。

後側は後車輪にロープをかけて荷造りしてください。



取扱いのポイント

●深みにはまり込んだときなど自走不能となり機体を「けん引」する場合は機体前方の荷造り用の「フック」にロープをかけ，機体のエンジンをかけて前進駆動にし，前進方向へ水平に引いてください。横方向へのけん引は機体の損傷を生じることがありますので行わないでください。

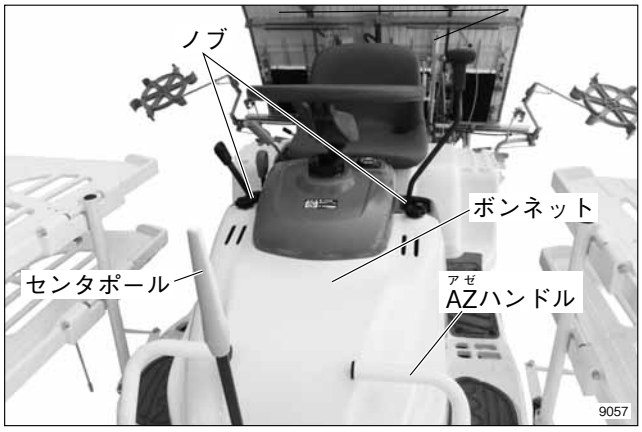
4. ボンネット・カバーの取外し

ボンネット・カバー類は取外すことができ，点検・調整・掃除の際に便利です。

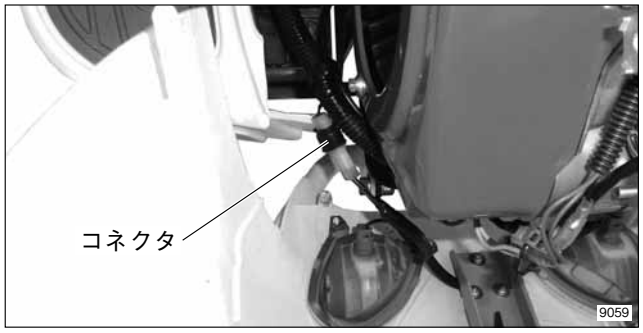
❶ ボンネット

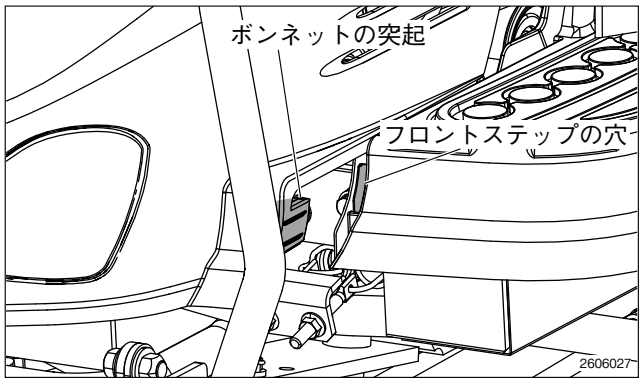
・AZ（アゼ）ハンドル，センタポールを前へ倒します。

・ボンネット左右のノブをゆるめて前方へ引けば外れます。このとき前照灯のコネクタも外します。

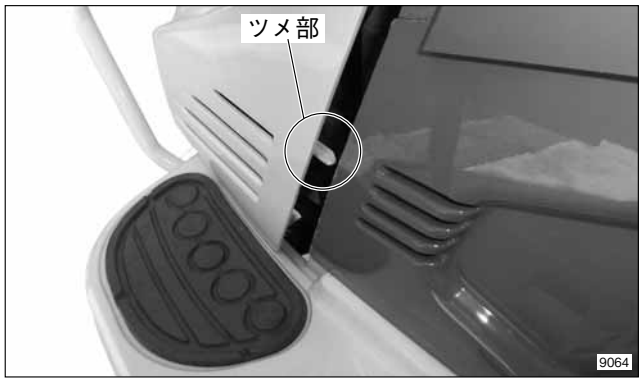


・ボンネットの取付けは前照灯のコネクタを接続し，ボンネットの突起とフロントステップの穴(左右)を合わせて，取外しとは逆手順で行ないます。





・ボンネットのツメ部をパネルリヤカバーに引っ掛けてください。



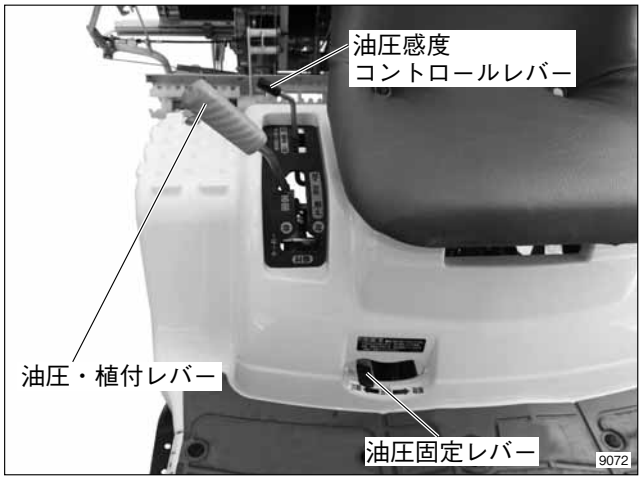
❷ パネルリヤカバー

中央部のノブを外し，パネルリヤカバーを取外すことができ，エンジン部の点検が楽にできます。



3. 植付け装置の取扱い

1. 植付操作関係



❶ 油圧・植付レバー

植付部の昇降，植付クラッチの断続と線引マーカー（左右）の操作に使用します。

・植付クラッチ

《植付》……植付クラッチが入ります。

《下降・固定・上昇》……植付クラッチが切れます。

油圧・植付レバーはオートリターン方式ですので，**《上昇》**位置へ操作し，植付部が最上昇位置にくると自動的に**《固定》**位置にもどります。

・油圧

《上昇》……植付部が上昇します。

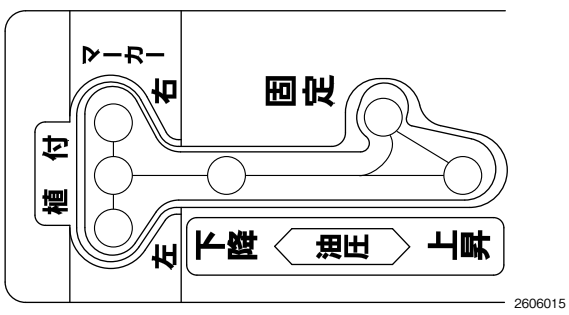
《固定》……植付部の昇降が停止します。

《下降・植付》……植付部が下降し，油圧自動が働きます。

・マーカー

《右》……線引マーカー（右）が降りる。

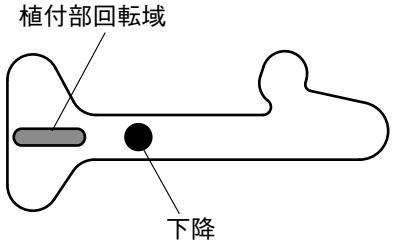
《左》……線引マーカー（左）が降りる。



2606015

取扱いのポイント

- **植付部を上昇位置で固定させたまま植付部を作動させたいときは，副変速を《N》にし，油圧固定レバーを《固定》位置にしてから，油圧・植付レバーを《植付》（入）位置にし，主変速レバーを《前進》側に操作してください。**
- **エンジンを始動するときは，油圧・植付レバーは《固定》位置にしてください。**
- **植付け作業以外で植付部を下降させるときは，油圧・植付レバーを《下降》位置より下に操作しないでください。植付部が回転します。**



❷ 油圧固定レバー

油圧回路を閉め，植付部の下降を防止するときに使用します。

・**《固定》**側にいっぱい回す
……植付部の上昇，下降が固定されます。

・**《解除》**側のストッパまで回す
……固定が解除されます。

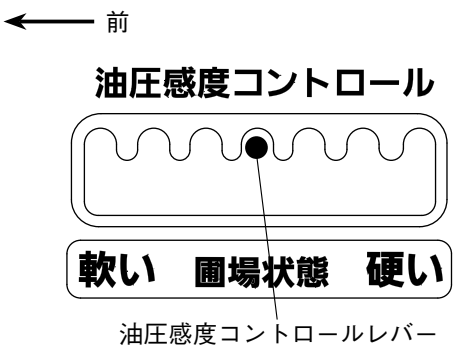


取扱いのポイント

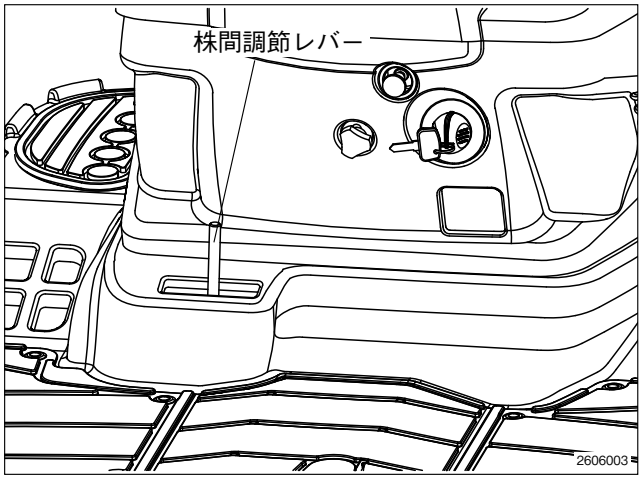
- **植付け作業時，油圧固定レバーは《解除》側のストッパまで回しておいてください。**
- **植付部の昇降を固定するときは，確実に《固定》位置まで回してください。**

❸ 油圧感度コントロールレバー

フロートによりほ場表面の整地を良くするため，ほ場表面の土質に合った植付部の上下作動の感度を調節するレバーです。



❹ 株間調節レバー



植付部の回転を変えて，株間を調節するレバーです。株間は４段階に調節できます。

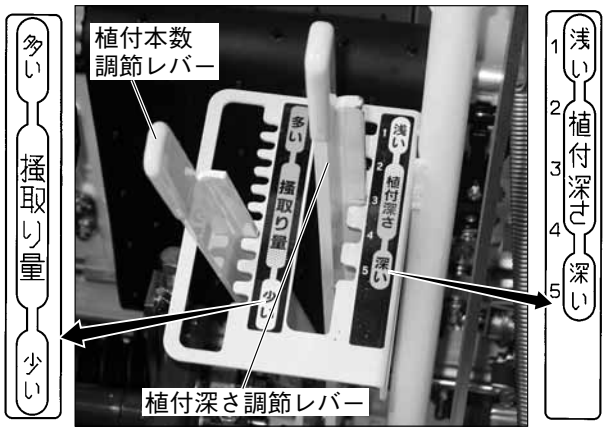
［標準株間］



［密植株間］（Ｂ仕様）



❺ 植付本数調節レバー

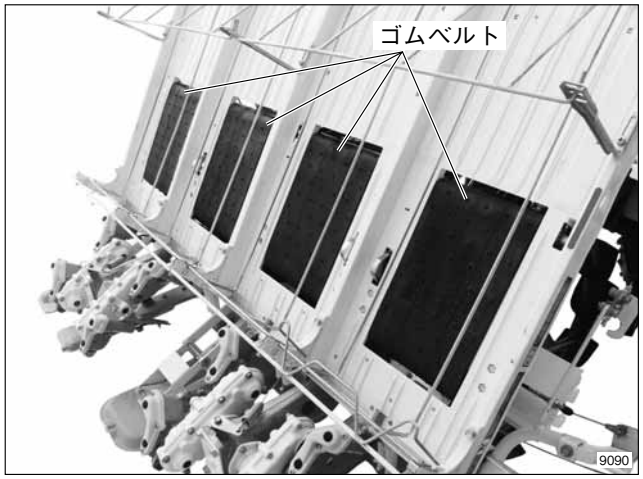


苗の掻取り量（１株当たりの植付け本数）を調節するレバーです。

・《**少い**》……植付け本数が少なくなります。
・《**多い**》……植付け本数が多くなります。

取扱いのポイント

●植付本数調節レバーを操作すると，連動してゴムベルトによる苗送り量もかわります。
《少い》側に操作すると苗送り量が少なくなり，《多い》側に操作すると苗送り量が多くなります。



❻ 植付深さ調節レバー

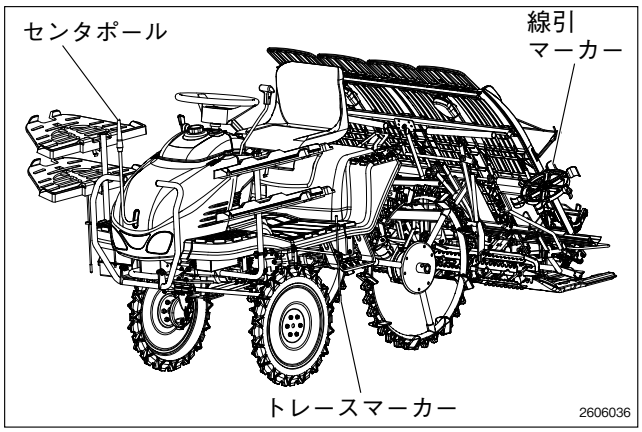
フロートを上下して，植付深さを調節するレバーです。

・《**浅い**》……植付け深さが浅くなります。
・《**深い**》……植付け深さが深くなります。

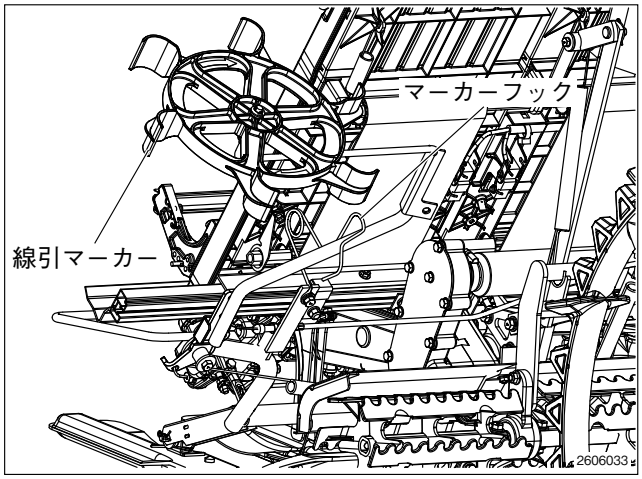
❼ 線引マーカー

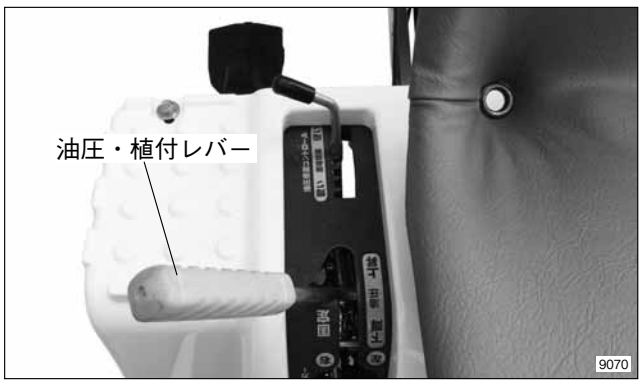
⚠注意 傷害事故防止のために

◆線引きマーカーおよびトレースマーカーは人・物にぶつかる恐れがありますので，輸送時および走行時には格納してください。



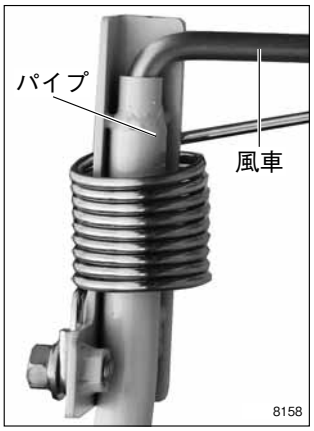
・適切な隣接条間を保ち，直進の目標となるよう，ほ場表面に線を付けていきます。
・線引マーカーのセットは，油圧・植付レバー《**植付**》位置で行い，収納は植付部の上昇と連動して自動的に行われます。



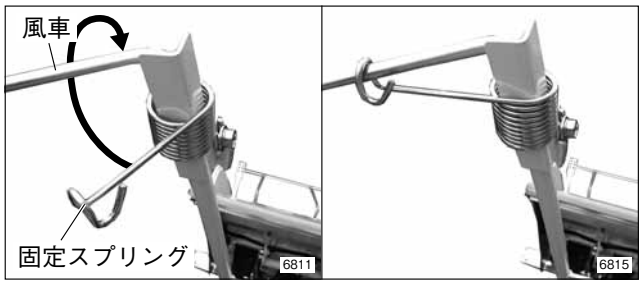


（風車の取り付け方）

(1) 風車を線引マーカーのパイプに奥まで差し込みます。



(2) 固定スプリングでロックします。



(3) 風車の取外しは逆の手順でおこないます。

取扱いのポイント

- **輸送時および走行時は，風車を取り外し，線引マーカーをマーカーフックに収納してください。**
- **線引マーカーを両側出すときは，植付部を下げ，線引マーカーが出ている側の反対側の線引マーカーを出す切替操作をします。**
- **線引きマーカーをマーカーフックに格納するときは，風車を取外してください。**

❽ センタポール

線引マーカーで引かれた線に，センタポールを合わせて進むと楽に直進でき，適正な隣接条間が保てます。

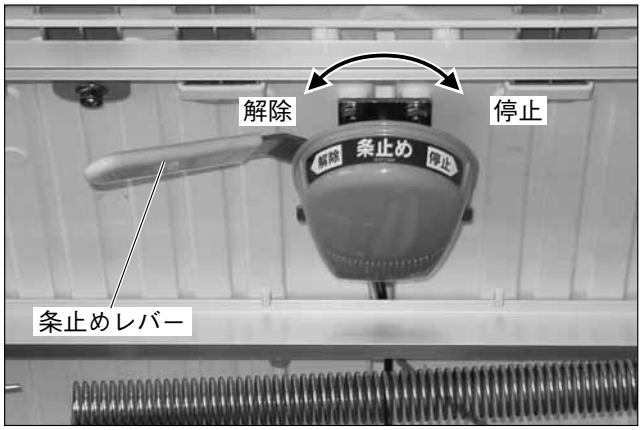
センタポールは手で後方に格納できます。

❾ トレースマーカー

ほ場条件により線引マーカーが使えないとき，隣接苗に合わせて走れば適切な隣接条間が保たれます。

⑩　条止めレバー

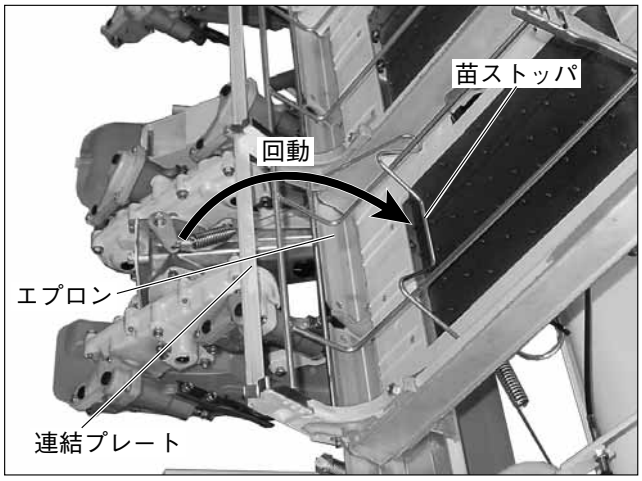
最終行程まで機械で植えるため，その前行程で条止めして条数を合わせるときに使用します。



植付爪および苗送り用ゴムベルトを２条ごとに停止させるレバーです。

・《**停止**》……植付爪，ゴムベルトの回転が停止します。
・《**解除**》……植付爪，ゴムベルトが回転します。

⑪　苗ストッパ

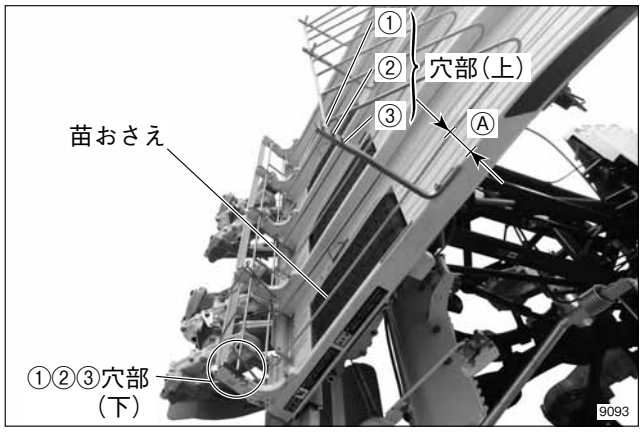


１条の苗の植付けを停止するときに使用し，条止めレバー（２条）と組合わせて使用します。苗のせ台の苗を引き上げて「**苗ストッパ**」を回動させて苗を止めます。

取扱いのポイント

- **再び植付けるときは苗をひきあげて苗ストッパを解除し，苗の先端がエプロンに当たるようにセットしてください。**
- **苗ストッパが連結プレートに確実に収納してあることを確認してください。**

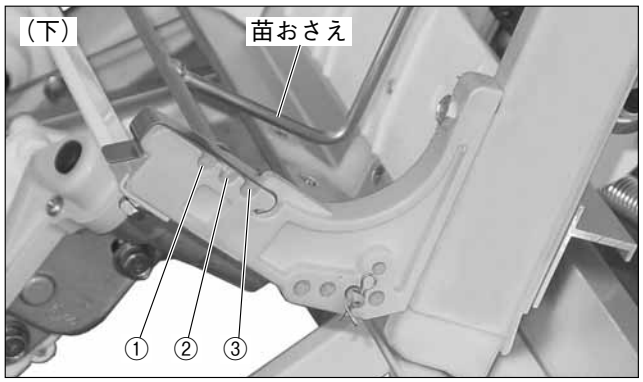
⑫　苗おさえ



苗のせ台の苗マットのめくれや横ずれを防止します。

苗おさえを，①，②，③の穴部にさしかえて調節できます。（①②③穴部は上部３箇所，下部３箇所あります。）

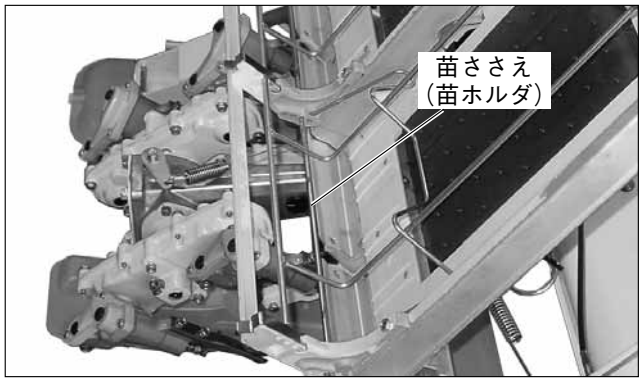
標準状態②穴部でのⒶ寸法（苗のせ台から苗おさえ下面のスキマ）は40～43㎜です。

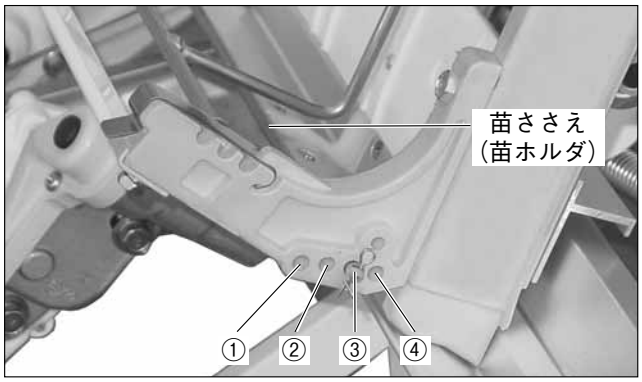


⑬　苗ささえ（苗ホルダ）

植付爪で苗を取りやすく，また苗を傷めたり，姿勢が乱れないように苗の倒れを規制しています。

苗の草丈，植付け姿勢などの状況に応じて苗ホルダを①，②，③，④の穴に付けかえ上下に調整します。

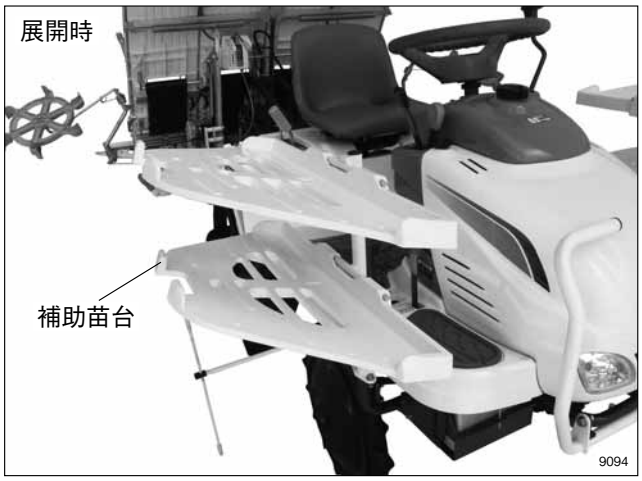


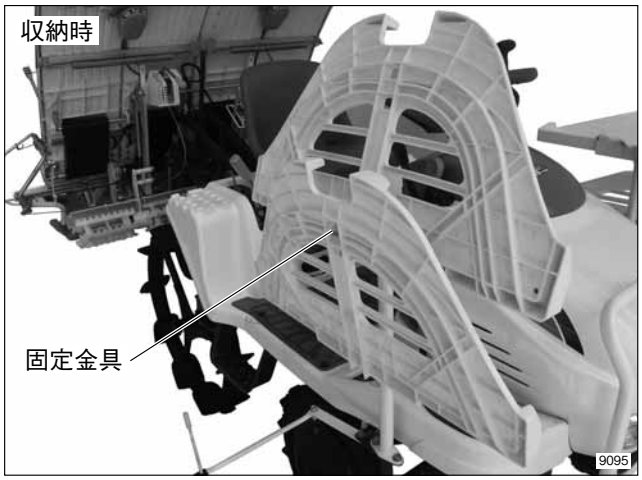


⓮ 補助苗台

４枚の苗を，あらかじめ乗せておくことができ，作業中に苗が切れそうになっても，苗の補給が可能です。

・補助苗台は左右に各２枚ずつ装備されています。使用しないときは，収納します。収納するには，上方に持ち上げ，上側の補助苗台の固定金具を下側の補助苗台の穴にはめ込みます。





4. 自動装置の取扱い

1. バックアップ装置の取扱い

⚠注意 ケガ防止のために

◆バックアップ操作をすると，油圧・植付レバーが勢いよく《上昇》位置まで上がりますので手などを近づけないでください。

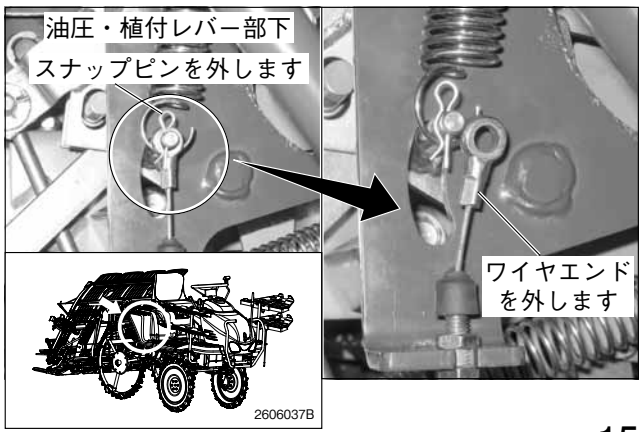
油圧・植付レバーが《**植付**》《**下降**》のとき，主変速レバーを《**後進**》側に入れると植付部が「**上昇**」します。



油圧・植付レバーを握った状態でバックアップ操作をするとレバーが「**上昇**」位置まで戻らない場合があります。

取扱いのポイント

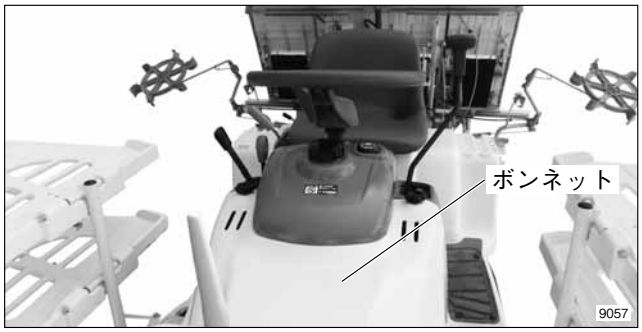
●倉庫内など天井やハリの低い所で機械を後進させるときはスナップピンを外し，ワイヤエンドを外して後進時に自動上昇しないようにしてください。作業に入る前には必ず元にもどしてください。



5. 電装関係の取扱い

1. ヒューズの取扱い

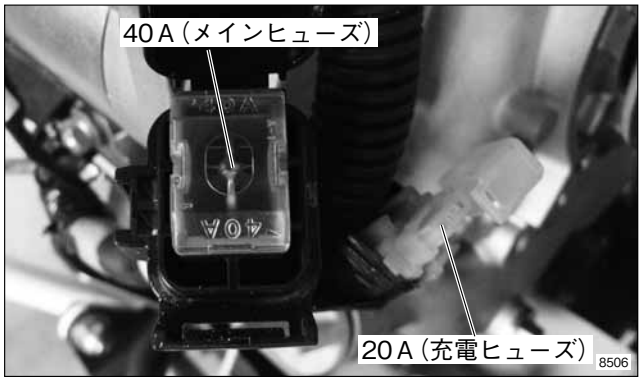
❶ ボンネットを外します。(10ページ参照)



❷ エンジン前部のヒューズボックスを開きます。



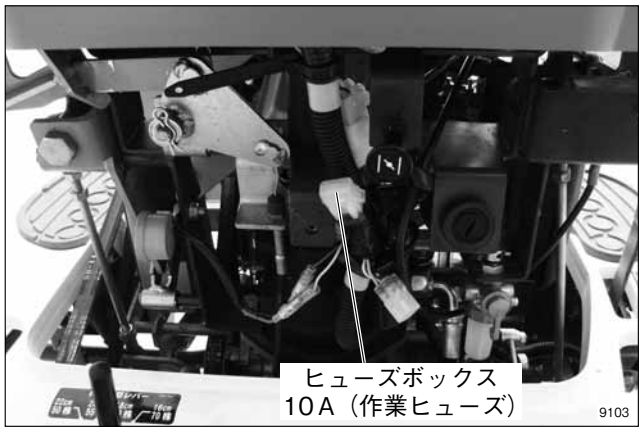
❸ ヒューズボックスを開くと40A（メインヒューズ），20A（充電ヒューズ）があります。



❹ パネルリヤカバーを外します。



❺ チョークノブ付近に10Aのヒューズ（作業ヒューズ）があります。



⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統に異常を確認したときはヒューズが切れていないかチェックしてください。ヒューズが切れているときは，つぎのようになります。

⑴ **メインヒューズ溶断**

・すべての電気系統が作動しません。

⑵ **充電ヒューズ溶断**

・エンジンが回転していてもバッテリへの充電をしませんのでバッテリが放電します。

⑶ **作業ヒューズ溶断**

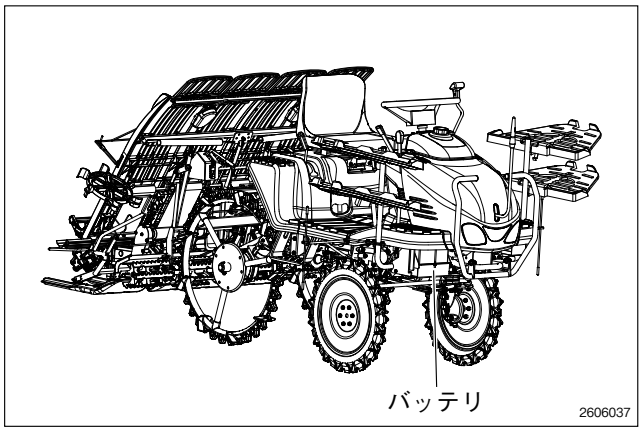
・計器類のモニタ・前照灯が点灯しません。
警報ブザーが鳴りません。

❻ ボンネット・パネルリヤカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **ヒューズが溶断しているときは原因を調べ修理後，指定容量のヒューズと交換してください。**
- **再発するときは「お買いあげ先」にて点検をうけてください。**

2. バッテリ

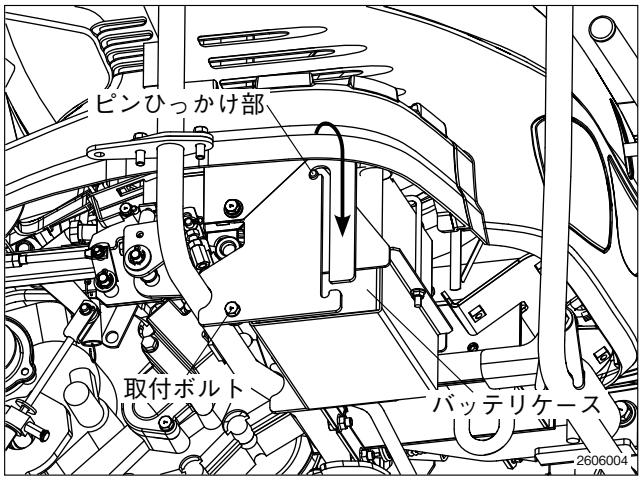


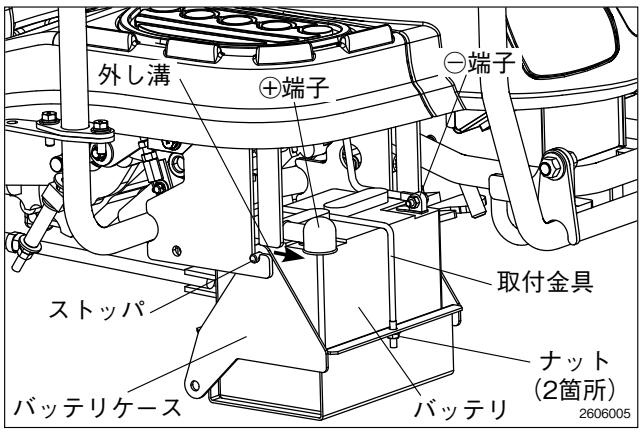
・バッテリは機体前方右側のフロントステップ下に装着しています。

指定バッテリ……28A19Rまたは相当品

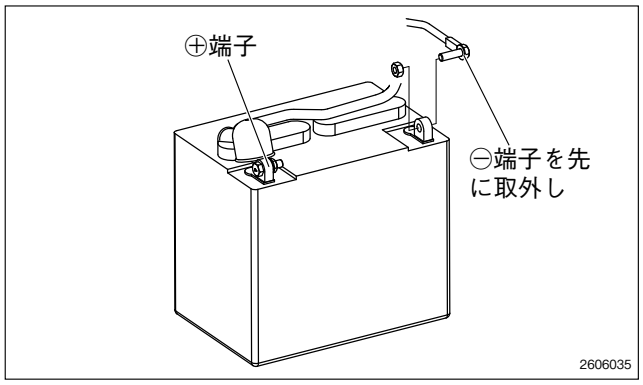
「脱着の手順」

❶ バッテリケースを固定している取付ボルトを外し，ピンひっかけ部から外して，ストッパまで下にスライドさせます。





❷ バッテリ端子を取外すときは「**⊖端子**」を先に外し，次に「**⊕端子**」を外します。



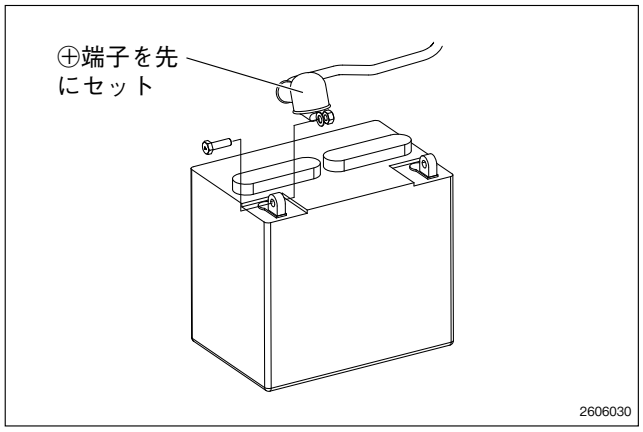
❸ バッテリケースごと溝から外して機械から外します。

❹ 取付金具のナットを外し，バッテリを取外します。

❺ バッテリの取付けは逆手順で行ないます。

❻ バッテリ端子をセットするときは「**⊕端子**」を先に取付け，次に「**⊖端子**」を取付けます。

端子の取付けは，バッテリーと端子が水平になるように取付けてください。



取扱いのポイント

●バッテリの脱着は，エンジンを停止（スタータスイッチを《切》位置）してから行なってください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの傷により燃料もれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，もれがあれば交換してください。

「**運転まえの点検表**」

箇　　所	内　　容	処　　置	参照ページ
燃料タンク	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。 ・燃料ホースから燃料が洩れていませんか。	・燃料を補給する。 ・ホースを交換する。	47 52
エンジンクランクケース	・オイル面が給油栓（オイルゲージ）の口元一杯ありますか。	・オイルを補給する。	47
スタータスイッチ	・スタータスイッチを《**切**》位置にするとエンジンが停止しますか。	・配線の外れを調べ処置する。	59
前照灯・モニタスイッチ	・各モニタが点灯しますか。 ・警報ブザーが鳴りますか，止まりますか。 ・前照灯が点灯しますか。	・ヒューズの切れ，配線の外れを調べ，処置する。	16 59
ブレーキペダル	・ブレーキペダルを踏むとクラッチが切れブレーキがかかりますか。	・異常箇所を調べ処置する。	7
油圧・植付レバー	・油圧・植付レバーを操作すると植付部が上昇・下降・固定になりますか。 ・植付クラッチが断続できますか。 ・マーカー(左右)が出し入れできますか。	・異常箇所を調べ処置する。	11
まくらっこレバー	・《**入**》,《**切**》の操作ができますか。	・異常箇所を調べ処置する。	71
機体の汚れ	・苗送りゴムベルトやフロートの上に泥がのっていませんか。 ・エプロンに障害物がのっていませんか。	・掃除する。	―

2. エンジンの始動と停止

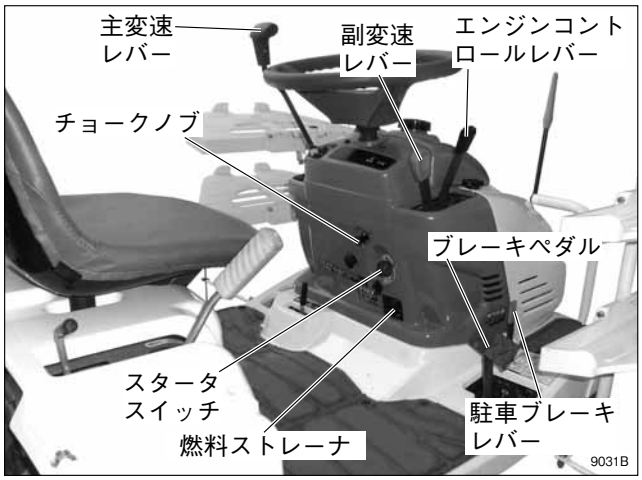
⚠警告 傷害事故防止のために

◆マフラ排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆周囲に障害物がないか確認して行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気を行い，排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆エンジンの始動はシートに座って行なってください。
◆駐車ブレーキをかけて，主変速レバーと副変速レバーが《N》（中立）であることを確かめて，周囲から子供など人を遠ざけてエンジンを始動してください。
◆エンジンのプラグキャップや高圧コードに触れているときにエンジンを始動しないでください。「感電」することがあります。

⚠注意

◆点検・整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。

1．エンジン始動のしかた

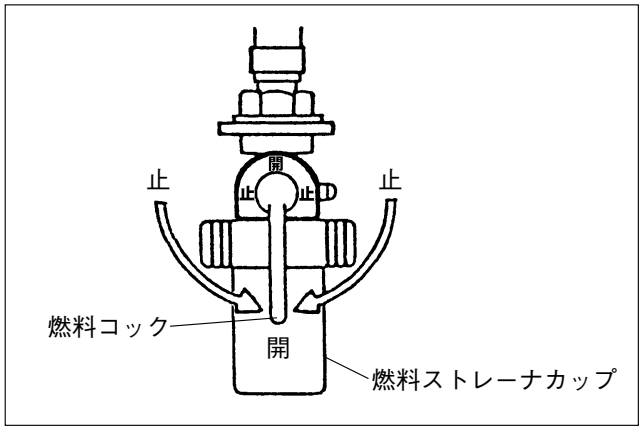


❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。（9ページ参照）

❷ ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキレバーをフック部にかけます。



❸ 燃料ストレーナの燃料コックを《**開**》にします。



❹ 主変速レバーと副変速レバーを《**N**》（**中立**）位置にします。

❺ 油圧・植付レバーを《**固定**》位置にします。

❻ 油圧固定レバーを《**固定**》位置にします。



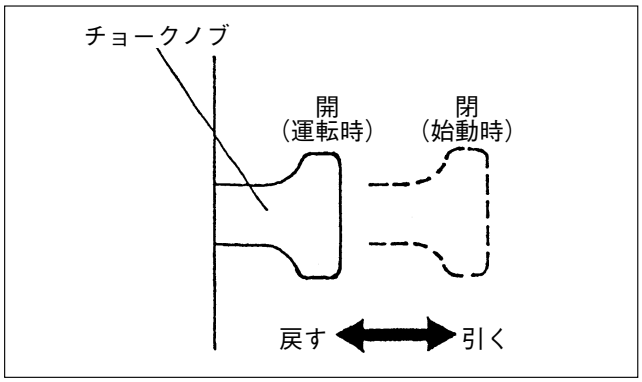
❼ エンジンコントロールレバーを低速から「**やや高速側**」へ引きます。



❽ チョークノブを操作します。

(1) エンジンが冷えているとき
……チョークノブをいっぱい引く「**閉**」

(2) エンジンが暖まっているとき
……チョークノブを半分程度引く。または操作しない「**半開または開**」



❾ 駐車ブレーキレバーをフック部から外し，ブレーキペダルをいっぱい「**踏込み**」ます。

取扱いのポイント

- **ブレーキペダルは始動安全スイッチを装備していますので，いっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**

❿ スタータスイッチを《**始動**》位置に回します。

⓫ エンジンが始動したら，スタータスイッチから手を離します。スタータスイッチは自動的に《**入**》の位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **セルモータを回して10秒以内で始動しないときは，しばらく（約30秒）休んでからふたたび始動操作を行なってください。**
- **セルモータは大きな電流を消費し，15秒以上の連続使用は故障の原因となります。**
- **何かの理由によりエンジンが始動しないとき，チョークノブを《閉》の位置にしたままで何回も始動操作をくり返さないでください。**
- **エンジン回転中は，スタータスイッチを《始動》位置にしないでください。セルモータが故障します。**

⓬ ブレーキペダルからゆっくり足を離します。

⓭ エンジンの調子をみながら徐々にチョークノブを「**押込み**」ます。

取扱いのポイント

- **エンジン始動後は，エンジンコントロールレバーを「低速」の位置にし，約５分間暖機運転をしてください。**
  暖機運転は，主変速，副変速を《N》（中立）位置で駐車ブレーキをかけて行なってください。

2. エンジン停止のしかた



❶ エンジンコントロールレバーを前方に戻して，エンジン回転を「**低速**」にします。

❷ スタータスイッチの始動キーを《**切**》位置にしエンジンを停止します。

❸ 燃料ストレーナの燃料コックを《**止**》（**閉**）位置にします。

取扱いのポイント

- **エンジンを停止するときは，エンジン回転を「低速」で２～３分間「冷却運転」を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。**

3. 運転のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆走行するときは,苗のせ台を中央に止めマーカーを収納してください。
◆発進するときは周囲を確認してからゆっくり行なってください。
◆運転者のほかに子供など，人や物を乗せないでください。
◆坂道で駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する場合はエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ，変速を入れて後輪に車止めをしてください。
◆機械から降りるときは始動キーを抜取っておいてください。
◆駐車・停車時には，駐車ブレーキレバーをかけてください。
◆油圧・植付レバーが《固定》位置にあっても時間の経過と共に植付部が自然降下する場合があります。機械を離れるときは油圧固定レバーを《固定》にしてください。

1. 発進のしかた

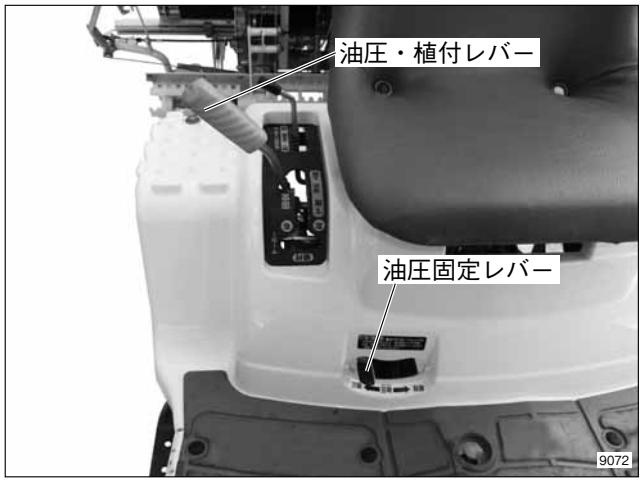


❶　ブレーキペダルを踏み，スタータスイッチを回し，エンジンを始動します。(19〜20ページ参照)
駐車ブレーキをかけます。

❷　エンジンコントロールレバーを「**中速**」にします。

❸　油圧固定レバーを《**解除**》位置にした後，油圧・植付レバーを《**上昇**》位置にし，植付部を最上昇位置まで上げます。

❹　油圧固定レバーを《**固定**》位置にし，植付部を「**固定**」します。



❺　駐車ブレーキレバーをフックから外し，ブレーキペダルをいっぱい踏込み，駐車ブレーキを「**解除**」します。
ブレーキペダルを踏込んだまま副変速レバーを目的の変速位置に入れ，主変速レバーを「**N**」(中立）にして，ブレーキペダルを離します。

❻　主変速レバーを「**N**」(中立）から徐々に前進「**高速側**」にします。

取扱いのポイント

●**油圧・植付レバーは，《上昇》位置に操作し植付部が上昇すると自動的に《固定》位置に戻ります。**

2．走行運転のしかた

走行するときは，危険防止のためつぎのことを守り「**安全な速度**」で運転をします。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。公道を移動するときは自動車（トラックなど）にのせて輸送してください。

◆移動するときは植付部を回転させないでください。

◆走行運転時，植付部を障害物に当てないようにしてください。

◆わき見運転や片手運転はしないでください。接触や転落の原因になることがあります。

◆側溝のある農道や，両側が傾斜している農道を走行するときは路面を確認してください。軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。路肩がくずれて転倒したりして傷害事故を起こすことがあります。

◆溝やあぜを横断したりするときは，低速にしてください。高速では，スリップや転倒の原因になります。

◆旋回するときはスピードを落としてゆっくり旋回してください。高速での旋回は横転する恐れがあります。

◆坂道では副変速を《N》（中立）にしないでください。エンジンブレーキがきかなくなり，暴走することがあります。

◆坂道や凸凹，カーブの多い道路では，高速運転はしないでください。下り坂では副変速レバーを《作業》位置にして走行してください。

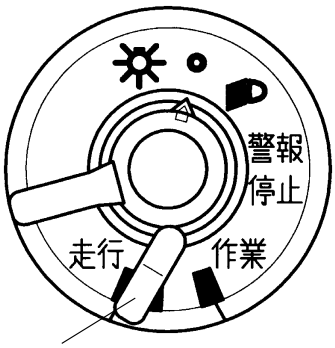
◆坂の途中では危険回避などの場合を除いてブレーキ操作をしないでください。やむを得ず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。

◆移動走行ではまくらっこ（ロータ軸）が後輪車軸の高さになるまで植付部を下げ，スピードを落として慎重に走行してください。植付部を完全に上げた状態で走行すると転倒事故を起こす恐れがあります。

◆この機械は，左右の転倒防止のため，ある程度危険な角度に傾くと警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは安全な機体角度（ブザーが鳴らない角度）になるまでゆっくり移動してください。

❶ 作業切替スイッチを《**走行**》にします。

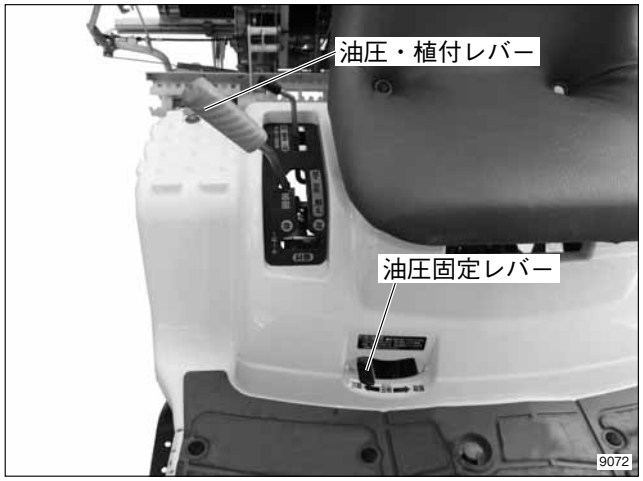
［コンビネーションスイッチ］



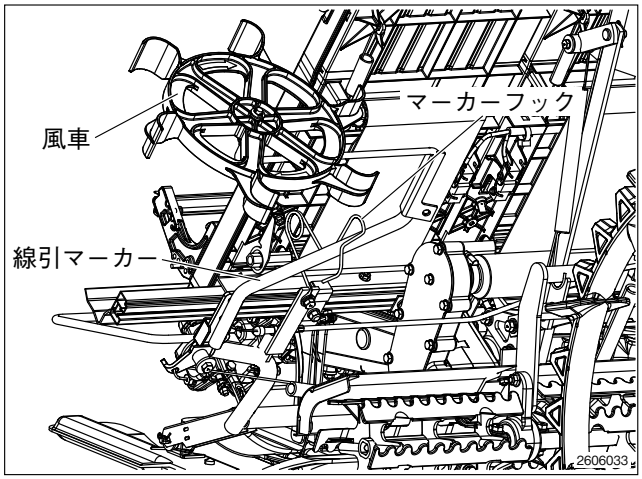
❷ 苗のせ台を機体中央にセットします。

❸ 植付部を上昇させ，油圧・植付レバーを《**固定**》位置にします。

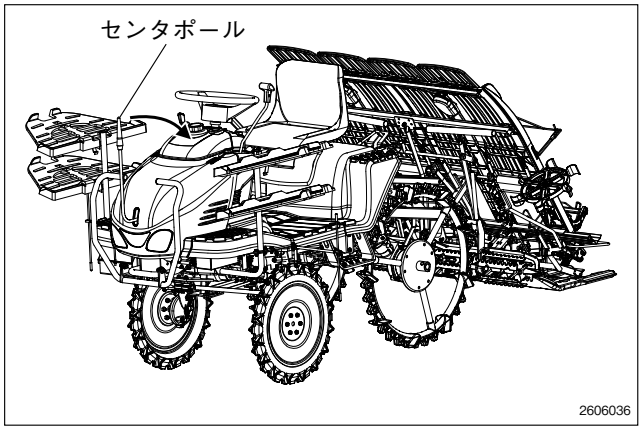
❹ 油圧固定レバーを《**固定**》位置にします。



❺　トレースマーカーは収納し，線引マーカーは植付部を完全に上昇させマーカーフックに収納し風車を取り外します。

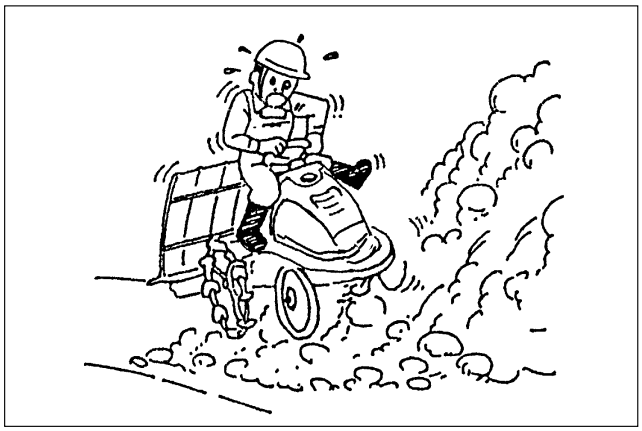


❻　センタポールを収納します。



取扱いのポイント

●路面の状態に適した速度を選び，機体に大きな「振動・ショック」がかからないように走行します。



3．停車のしかた



❶　主変速レバーを《N》（中立）位置に戻すと，機械は「停止」します

❷　エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジン回転を「低速」にします。

❸　ブレーキペダルを踏み，副変速レバーを《N》（中立）の位置にします。

❹　スタータスイッチを《切》位置にし，エンジンを停止します。

❺　駐車ブレーキレバーをフック部にかけます。

❻　燃料コックを《止》（閉）位置にします。

取扱いのポイント

●エンジンを停止するときは，エンジン回転を「低速」で２～３分間「冷却運転」を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。

●やむをえず「緊急停止」する場合は，スタータスイッチを《停止》位置にしてエンジンを停止させてください。

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車（トラックなど）は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を「後進」（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（車輪が外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）があり，すべり止め，フック付きのものを使用してください。

◆アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけてください。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。補助者は機械の直前・直後には立たないでください。また機械の周囲に人を近づけないでください。

◆積込み・積降ろし中は，ブレーキペダルの操作はしないでください。

◆万一積込み途中でエンジンが停止したときは，すぐブレーキペダルをいっぱい踏込み，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

◆積込み・積降ろし中は，油圧・植付レバーの操作はしないでください。

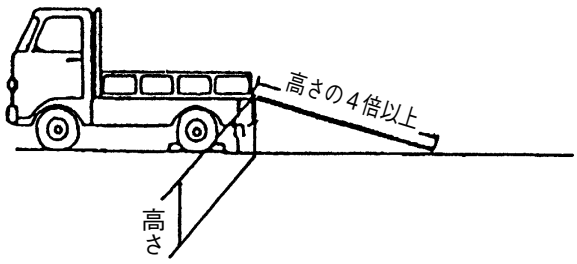
◆万一，積込み・積降ろし途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。中途半端な踏込みではブレーキがきかなく，転落するおそれがあります。

◆積込みは《後進》，積降ろしは《前進》で行なってください。

◆積込みが終わったら機械の後輪および前方のフックにロープをかけ確実に固定し，副変速レバーを「作業」にし駐車ブレーキをかけてください。また，燃料コックを「閉」にしてください。

◆前方のフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶ 積載重量500kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない自動車を使用します。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速をバックに入れタイヤに車止めをします。

❸ アユミは自動車の荷台高さの４倍以上の長さ，機械の重量に合った強度と幅があり，すべり止め，フック付きのものを使用します。

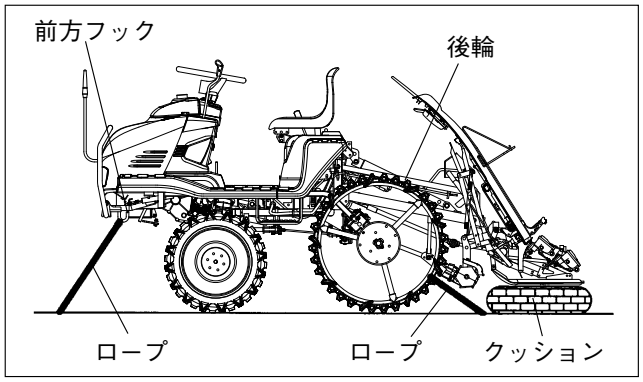
❹ アユミは機械の車輪幅に合わせ自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ，横ずれしたり外れたりしないように，フックを荷台に確実にセットします。

2．機械の扱いかた

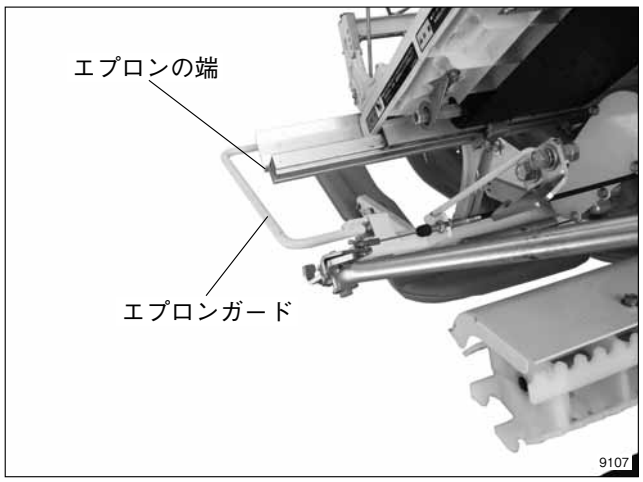
❶　積込み・積降ろし位置に対して真直ぐに機械を配置し，前輪のタイヤを直進方向にします。
❷　苗のせ台を機械中央にセットします。
❸　植付部を上昇させ，油圧・植付レバーを《**固定**》位置にします。
❹　油圧固定レバーを《**固定**》位置にします。
❺　機械を走行状態にセットします。（23～24ページ参照）
❻　エンジンコントロールレバーを「**中速**」にして，主変速レバーにて車速調整します。
❼　積込みは「**後進最低速**」で行います。
・主変速位置……後進側
・副変速位置……作業
❽　積降ろしは「**前進最低速**」で行います。
・主変速位置……前進側
・副変速位置……作業
❾　積込み後は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し主変速レバーは《**中立**》，副変速レバーは《**作業**》位置に入れたままにします。
❿　燃料コックを《**止**》にします。ロープで本機の「**前方フックおよび後輪**」を使い確実に固定します。

取扱いのポイント

- **短距離の運搬は，植付部を完全に上昇させ，油圧・植付レバーを《固定》位置にセットした後に油圧固定レバーを《固定》位置（ロックをかけた状態）にして行います。**
- **長距離や悪路の運搬は，左右のフロートの下に古タイヤなどのクッションになるものを置き，植付部を降ろし油圧・植付レバーを《固定》位置にセットした後に油圧固定レバーを《固定》位置にして行います。**



- **植付部にはロープをかけないでください。**
- **植付部を降ろして運搬するときエプロンの端およびエプロンガードが荷台などに当たらないようにしてください。**



5. ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは植付部の回転を止めて行なってください。
◆ほ場への出入りやあぜ越えは，アユミをかけ最低速であぜに直角に行なってください。
◆ほ場への出入り・あぜ越え・アユミの上で，ブレーキペダルを踏むときは「素速く」行なってください。また，変速操作をしないでください。
◆高あぜ・急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。
◆機械に人やものをのせないでください。

[乗車してのほ場の出入り]

◆ほ場への出入りは，上がるときは後進，降りるときは前進で行ってください。
◆主変速は最低速，副変速は《作業》，エンジン回転は中速にして行なってください。
◆アユミの上では必要以上にハンドル操作をしないでください。

[降車してAZハンドルを使用してのほ場の出入り]

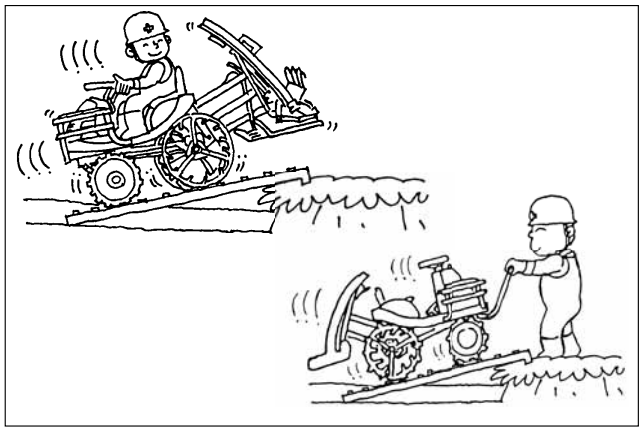
◆AZハンドルを使用してのほ場の出入りは，上がるときは前進，降りるときは後進で行なってください。
◆主変速は最低速，副変速は《作業》，エンジン回転は中速にして行なってください。
◆AZハンドルを使用するときは周囲の安全，および背後に障害物がないことを確認してください。
◆アユミの上ではハンドル操作や変速をしないでください。
◆AZハンドルを操作する前に前輪を直進方向にしてください。
◆駐車ブレーキレバーをかけた状態でAZハンドルのクラッチが「切」の場合，駐車ブレーキが効いていますが，傾斜地では走行を停止しないでください。傾斜地で停止すると，機械が自重で動き出す可能性があり，危険です。
◆AZハンドルは手の力で押し下げるように操作してください。AZハンドルの上に乗って体重をかけるように操作すると，万一の場合機械をすぐに停止させることができず危険です。
◆AZハンドルによる操作が終了したら，駐車ブレーキレバーを解除してください。

❶ エンジン回転を「**中速**」にします。
❷ 副変速レバーを《**作業**》にします。
❸ 高低差が大きいと危険ですからアユミを使用します。

(1) 乗車してのほ場の出入り
・上がるときは「後進最低速」，降りるときは「前進最低速」で行います。

(2) 降車してAZハンドルを使用してのほ場の出入り
・上がるときは「前進最低速」，降りるときは「後進最低速」で行います。

❹ ほ場の出入りは，前輪のタイヤを直進方向にして「**あぜに直角**」に行います。斜めに行うと機体が横に傾いて転倒する恐れがあります。



1．AZ（アゼ）ハンドルの使いかた

❶ ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキレバーをフック部にかけ，駐車ブレーキを効かせます。



❷ 前輪のタイヤを直進方向にして，ハンドルが固定されていることを確認します。

❸ 副変速レバーを《**作業**》の位置にします。



❹ 主変速レバーを《**前進最低速**》または《**後進最低速**》の位置にし，機械から降ります。

❺ ＡＺ（アゼ）ハンドルを前方に倒します。



❻ 周囲を十分確認しながらＡＺ（アゼ）ハンドルを機械下方にいっぱいに倒して走行させます。



❼ 停止するときはＡＺ（アゼ）ハンドルを放せば元の位置に戻ります。

❽ ＡＺ（アゼ）ハンドルによる操作を終了するときは，機械を平坦な所で停止させ，ＡＺ（アゼ）ハンドルを収納し，主変速レバーと副変速レバーをそれぞれ《**N**》（**中立**）にして，駐車ブレーキを解除します。

取扱いのポイント

- **駐車ブレーキが効いた状態で前進・後進をする場合，ＡＺ（アゼ）ハンドルによる操作のみ有効です。**
- **駐車ブレーキを効かすと，操舵固定されますので，ハンドル操作はしないでください。**
- **ＡＺ（アゼ）ハンドル操作中はブレーキペダル踏込みなどの操作はしないでください。**
- **ＡＺ（アゼ）ハンドルを使用して，傾斜地で登らない場合は，エンジンコントロールレバーを高速にしてください。高速にしても登らない場合はエンジンコントロールレバーを低速に戻し，主変速レバーを高速側に１段程度移動してください。**

作業のしかた

1．作業まえの準備

ほ場や苗の条件が植付け作業に適していないと，植付け精度が低下するおそれがあります。以下の条件を整えて作業に入ります。

1．ほ場の準備

❶　耕うん

・耕深は13～15cm程度が適当です。

❷　施肥・除草

・肥料・除草剤の施用は，地域の指導機関に相談してください。

❸　代かき

・代かきは，田面ができるだけ均平になるようにしてください。

❹　水の深さ

・田面の水は，「**水深１～２cm**」程度が適切です。

・水が深いと植付け作業のときに，「**浮苗**」や先に植えた隣接苗を倒すことがあります。

❺　田面のかたさ

・指で田面に線を引くと，なめらかに「**すじ**」ができ，その跡に徐々に泥が寄る程度が最適です。

取扱いのポイント

●水利事情で落水することができない場合は，田植機での植付け速度を遅くし，フロートによる波が発生しないようにしてください。

2．苗の準備

❶　植付け苗

・つぎの育苗を標準とします。

	稚　　苗	中　　苗
苗　　令（葉）	2.0～2.5	3.0～3.5
苗　　長（cm）	8～15	15～20
育苗日数（日）	15～20	30～35
苗　す　が　た		

取扱いのポイント

●育苗方法などは地域により異なることがありますので詳しくは，各地域の「指導指針」を参考にしてください。

●３葉前後の苗は，移植後の活着が悪くなりますので避けてください。
稚苗は2.5葉までに，中苗は3.5葉程度で植付けてください。

❷　苗床の水分

植付け苗は，田植の前日にかん水しておきます。

・適切な水分

植付け苗の水分はやや控え目がよく，苗床の底面を指で押さえて少しくぼむ程度の湿りが最適です。

・水分が多すぎるとき

苗がすべりすぎて，適切なかき取りができなくなります。

・乾燥ぎみのとき

かき取りした苗がばらけて植付けるときに浮き苗が発生しやすくなります。

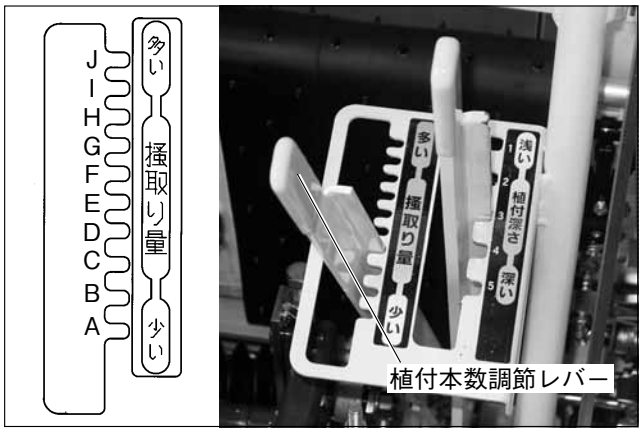
また，苗のすべりが悪くなり，欠株が発生することがあります。

❸ 苗の準備量

・10アール当たりの標準使用箱数は下表のとおりです。

10ａ当たり使用箱数目安表（26回横送りの場合）　　**単位：箱数**

株間 / 掻取り量	14cm	16cm	18cm	20cm	22cm	23cm	25cm	28cm
A	13	11	10	9	8	8	7	6
B	15	13	11	10	9	9	8	7
C	16	14	13	11	10	10	9	8
D	18	16	14	13	12	11	10	9
E	20	18	16	14	13	12	11	10
F	22	19	17	16	14	14	12	11
G	24	21	19	17	15	15	14	12
H	26	23	20	18	17	16	15	13
I	28	25	22	20	18	17	16	14
J	30	26	23	21	19	18	17	15



❹ 苗の運搬

・苗をトレーラなどに積んで運搬するとき育苗箱のままで運搬してください。

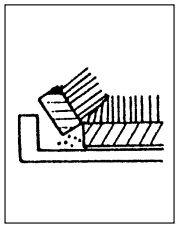
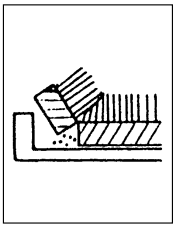
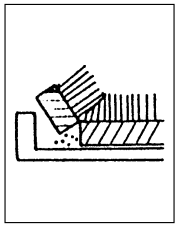
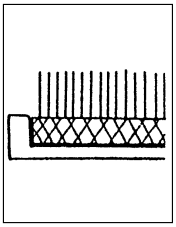
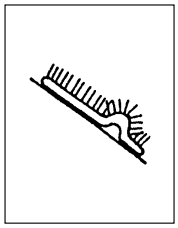
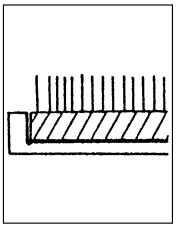
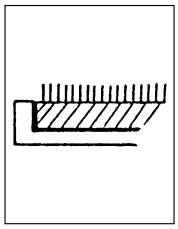
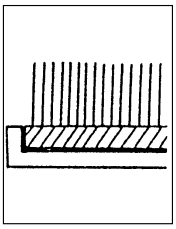
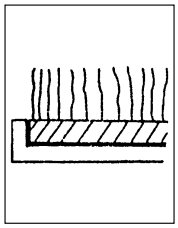
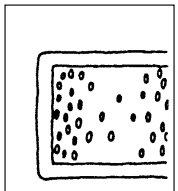
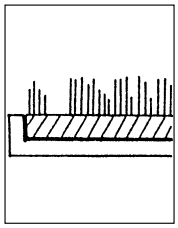
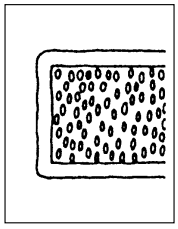
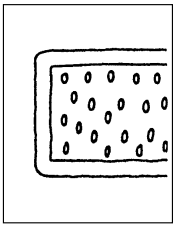
・苗床がくずれると植付けができなくなることがありますので育苗箱はていねいに取扱ってください。

取扱いのポイント

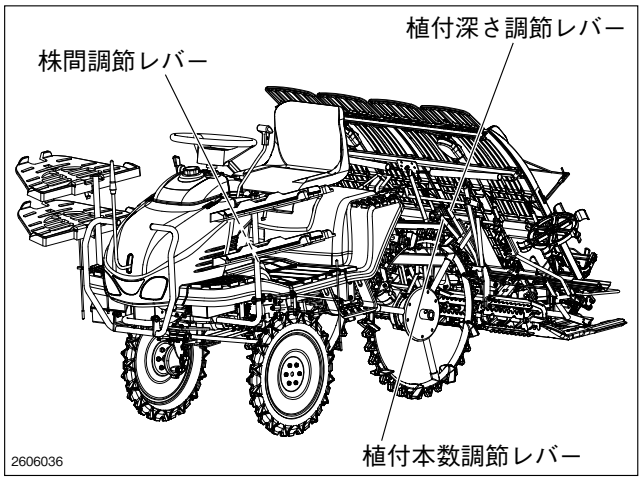
- 苗やほ場の条件により，同じ植付け本数調節でも使用箱数に増減があります。
- 10アール当たり２箱程度の予備苗を準備してください。
- 苗床の含水状態が植付け性能に大きく影響しますので適切な水分に管理してください。
- 外気温の低い地域では，トレーラなどで運搬するとき風が苗に直接あたらないようビニールシートなどで覆ってください。
- 雨天に田植えをするときは，苗床が湿りすぎないようシートで覆ってください。

❺ 苗の選定

以下のような苗は植付け精度が低下することがあります。

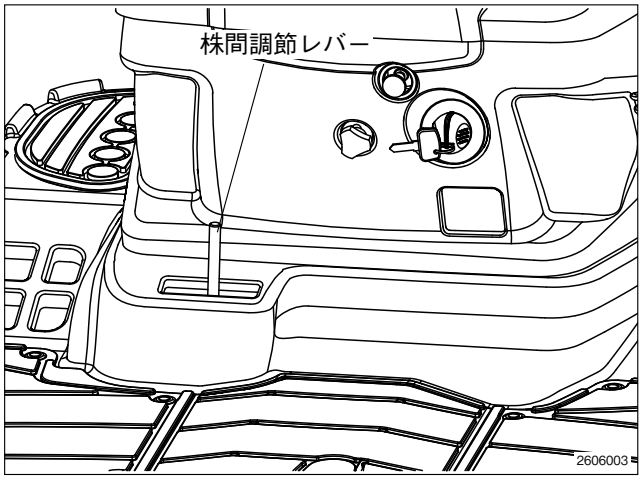
<table>
<tr><td rowspan="3">苗　床</td><td></td><td>①砂質が多く，くずれやすい苗床。</td><td></td><td>②根張りが悪く，くずれやすい苗床。</td></tr>
<tr><td></td><td>③根張りはよいが，根を切ったためにくずれやすい苗床。</td><td></td><td>④根の張り過ぎた，植付爪のささりにくい苗床。</td></tr>
<tr><td></td><td>⑤苗床厚（マット厚）が２cm以下の，薄い苗床。</td><td></td><td>⑥苗床厚（マット厚）が４cm以上の，厚い苗床。</td></tr>
<tr><td>草　丈</td><td></td><td>①８cm以下の，短い草丈。</td><td></td><td>②20cm以上の，長い草丈。</td></tr>
<tr><td>素　質</td><td></td><td>①軟弱徒長苗。</td><td>②播種ムラのひどい苗。</td><td>③成育ムラやハゲた部分のある苗。</td></tr>
<tr><td>播種量</td><td></td><td>①催芽もみで，１箱当たり360mℓ以上の，厚播きの苗。</td><td></td><td>②催芽もみで，１箱当たり150mℓ以下の，薄播きの苗。</td></tr>
</table>

3. 機械の準備



❶ 株間の調節

・株間調節レバーにより植付爪の回転を変えて株間を４段階に調節できます。



［標準株間］



［密植仕様］（Ｂ仕様）

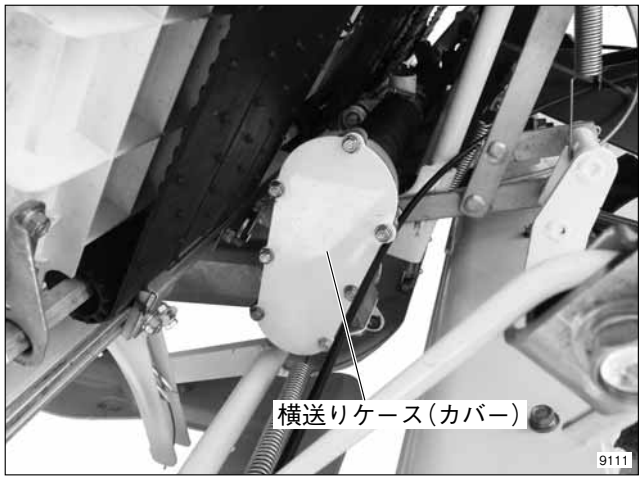


取扱いのポイント

- **株間を切替えるときは，主変速レバーを《N》（中立）にして切替えます。このとき油圧・植付レバーは《固定》にしておきます。**
- **株間調節レバーが中途の位置では，植付部は作動しません。所定位置に正しくセットしてください。**

❷ 横送り量の調節

・苗のせ台の横送り量を調節します。



⑴ 機械を平坦な所で停止させます。

⑵ 主変速，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

⑶ エンジンを始動し，植付部を上げて油圧固定レバーを《**固定**》にします。

⑷ 主変速レバーを《**前進最低速**》にし，油圧・植付レバーを《**植付**》にして植付部を作動させ，苗のせ台を右端または左端に移動させます。

⑸ 苗のせ台が一番端（苗送りゴムベルト回転前）にきた位置で油圧・植付レバーを《**切**》にし，植付部を停止します。プランタアームを手で回して端部合わせを行なうこともできます。（植付爪を手で回す要領61ページ参照）

⑹ 主変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止します。

⑺ 次の要領でスプロケット，チェンを交換し，交換後は逆の手順で組付けます。

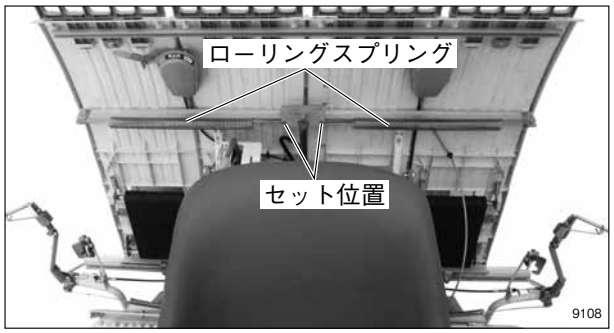
・工場出荷時は26回横送りにセットしてあり，20回横送りに調節する場合は付属のスプロケットにて次の要領で行ないます。

20回横送り 稚苗・中苗

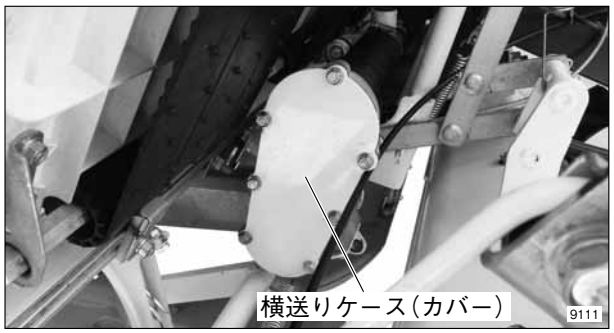
交　換　要　領

①ローリングスプリングを外します。(左右２本)

スプリングセット位置に目印をつけておき，交換作業後同じ位置にセットします。



②横送りケースのカバーを外します。



③付属のスプロケットを合マークに合わせ組込みます。

組合わせ

Aスプロケット	Bスプロケット	チェン
26T ↓ 20Tに交換	20T	62リンク ↓ 59リンクに交換

26回横送り 稚苗・中苗・条苗

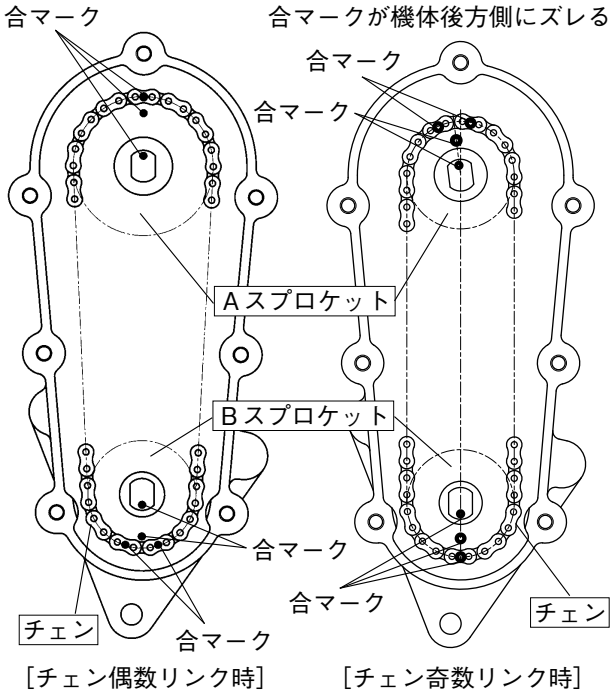
組合わせ

Aスプロケット	Bスプロケット	チェン
20T ↓ 26Tに交換	20T	59リンク ↓ 62リンクに交換

オプション

組合わせ

	Aスプロケット	Bスプロケット	チ　ェ　ン
18回横送り	18Tに交換	20Tに交換	58リンクに交換
30回横送り	18Tに交換	12Tに交換	54リンクに交換

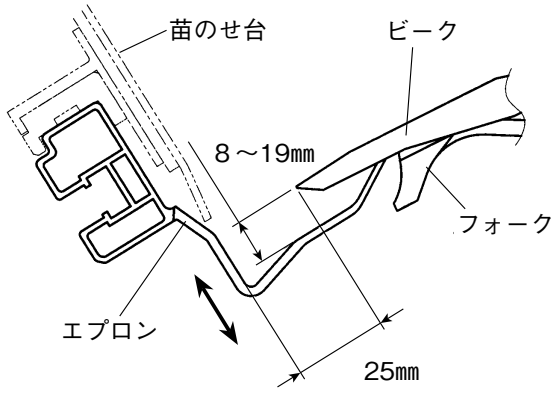


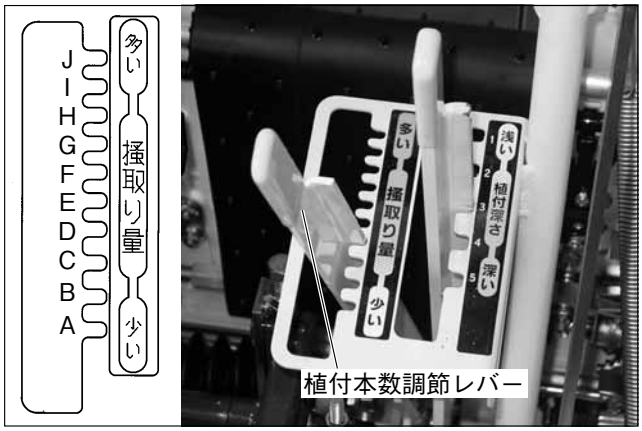
❸　植付け本数の調節

・１株の植付け本数は「**３～６本**」が標準です。

・エプロンのセット位置を変え，掻取り量を植付本数調節レバーで調節します。

・かき取り範囲は「**少～多（８～19㎜）**」になっています。





・**植付け本数が多いとき**
調節レバーを《**少い**》の方向にスライドします。
・**植付け本数が少ないとき**
調節レバーを《**多い**》の方向にスライドします。

取扱いのポイント

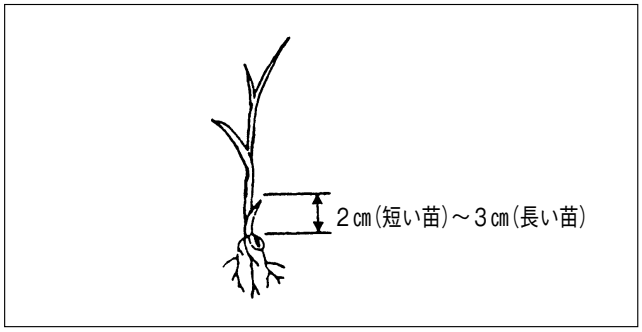
●**植付本数調節レバーをスライドするときは３段程度多目に作動させてから所定の段数まで返してセットします。**

苗箱１枚当たりの植付け距離（26回横送りの場合）　　**単位：m**

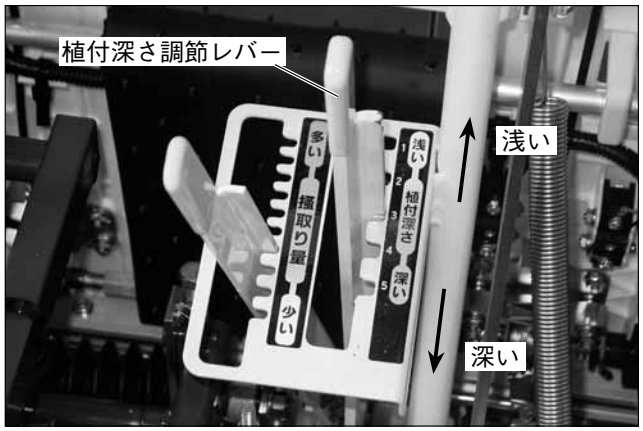
掻取り量＼株間		14cm	16cm	18cm	20cm	22cm	23cm	25cm	28cm
A	8mm	264	302	339	377	415	434	471	528
B	9.2mm	229	262	295	328	361	377	410	459
C	10.4mm	203	232	261	290	319	334	363	406
D	11.7mm	180	206	232	258	284	296	322	361
E	12.9mm	164	187	210	234	257	269	292	327
F	14.1mm	150	171	193	214	235	246	267	299
G	15.3mm	138	158	177	197	217	227	246	276
H	16.6mm	127	145	164	182	200	209	227	254
I	17.8mm	119	136	152	169	186	195	212	237
J	19mm	111	127	143	159	175	183	198	222

❹　植付け深さの調節

・苗の条件やほ場の条件で多少異なりますが，一般には植付け深さは「**２～３cm**」になるように調整します。
・植付深さ調節レバーでフロートを上・下して５段階に調節「**２～５cm**」できます。
・調節レバーは，植付部を上昇させて運転席から操作します。
・長い苗はやや深めに，短い苗は浅めに植付けます。



・浅い植付け…《**浅い**》の方向に植付深さ調節レバーをセットします。
・深い植付け…《**深い**》の方向に植付深さ調節レバーをセットします。



2. 植付け作業のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

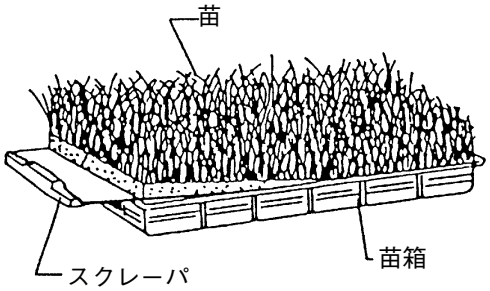
◆植付爪などに異物がかみ込んだ場合には，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから取除いてください。エンジンを止めないと植付爪が一時的に回転します。
◆作業中は，作業者以外の人を機械に近づけないでください。

⚠注意

◆夜間作業は行わないでください。
◆運転中は回転部や作動部，マフラなどには手を触れないようにしてください。

1．最初の苗ののせかた

❶　主変速レバーを《N》（**中立**）副変速レバーを《N》（**中立**）にしてエンジンを始動します。
❷　植付部を地面より30㎝位に上げてから油圧固定レバーを《**固定**》にします。
❸　油圧・植付レバーを《**植付**》にし，主変速レバーを《**前進**》の「**最低速**」にします。
❹　苗のせ台を右端，または左端に移動させます。
❺　苗のせ台が端まできて，苗送りゴムベルトが回る前に油圧・植付レバーを《**固定**》にし，植付部を停止させます。
❻　スクレーパを育苗箱と苗の間へ差込んで，苗をすくい出します。



❼　苗を苗のせ台にのせます。



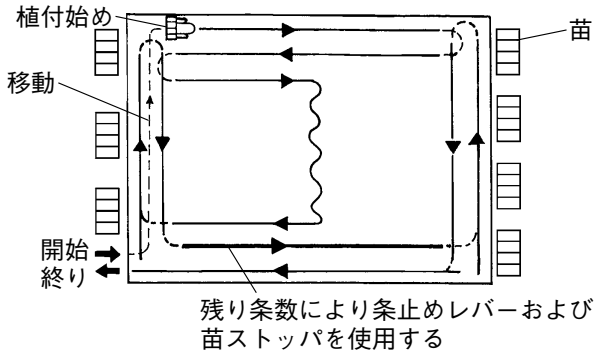
❽　油圧固定レバーを《**解除**》にします。

取扱いのポイント

- **根張りが悪くて苗床のくずれ易い苗や軟弱苗はスクレーパを使用します。使用しない場合，苗床がくずれたり損傷苗が多く発生し植付けが悪くなることがあります。**
- **苗床がエプロン先端に当たるように確実に苗をセットします。**
  また苗床が苗のせ台左右枠からはみ出さないように苗のせ台にセットしてください。
- **苗床が乾きすぎているものは，水をかけて湿らせてください。**
- **苗を乱暴に取扱って葉を乱すと切れ苗，折れ苗などの損傷苗が多くなります。**

2．植付け作業の進めかた

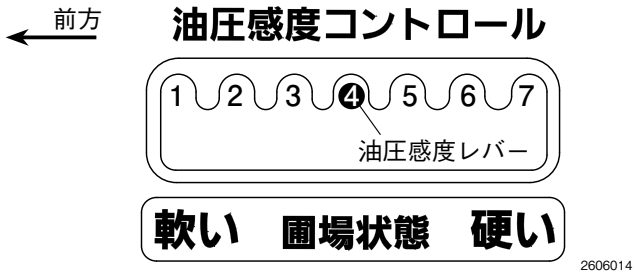
・植付けのしかたはほ場の大きさや形状により異なりますので，作業のまえにどのような手順で植付けるかを決めて，効率のよい植付け作業を行なってください。



❶ 能率よく田植え作業ができるように，ほ場の両端に苗を配置しておきます。

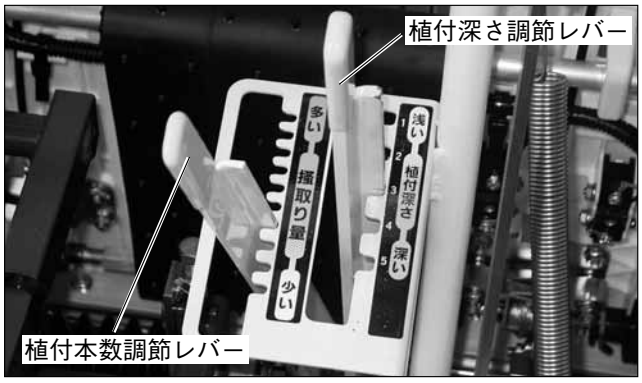
❷ あぜ際の真直ぐな長い方向から植付けを行うように，植付け方向に向かって田植機を真直ぐに停止します。

❸ 油圧感度コントロールレバーを７段階調節の「４」位置にセットします。

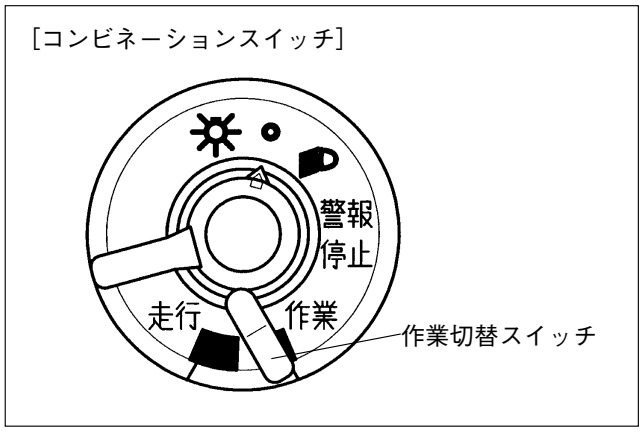


❹ 植付深さ調節レバーを５段階調節の「**中間**」位置に入れます。

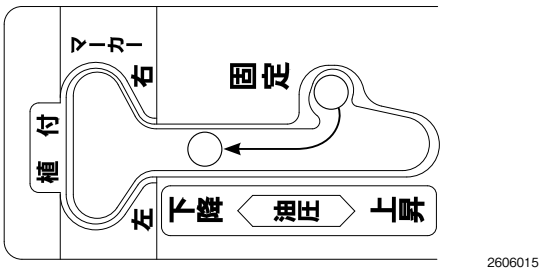
❺ 植付本数調節レバーを１箱当たりの播種量をめやすにセットします。



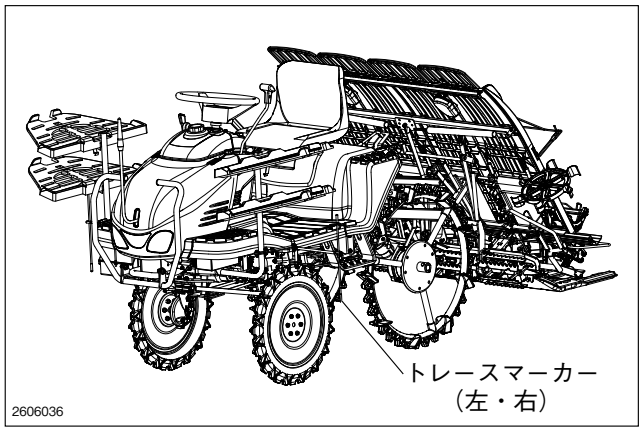
❻ 作業切替スイッチを《**作業**》にします。



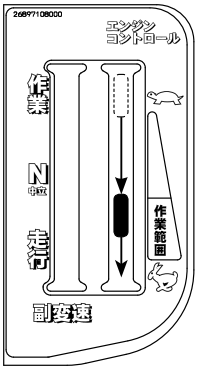
❼ 油圧・植付レバーを《**下降**》位置にし，植付部を下げます。



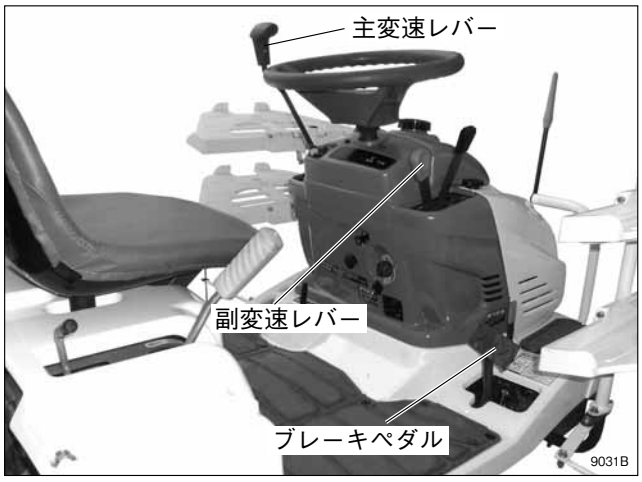
❽ トレースマーカーが隣接苗に沿うよう，作業者の目線にあわせて拡げます。



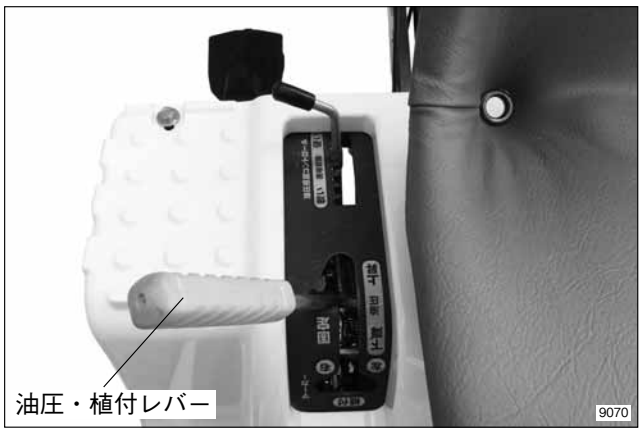
❾ エンジンコントロールレバーを「**作業範囲**」域にします。

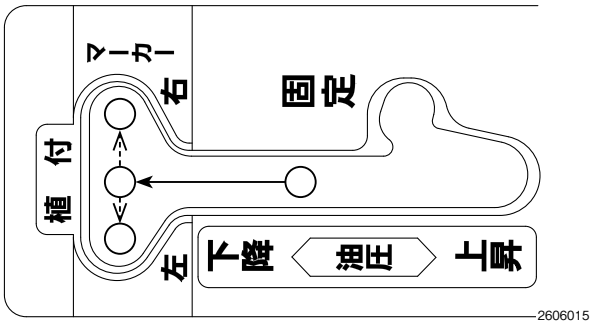


⑩　ブレーキペダルを踏んで副変速レバーを《**作業**》位置に入れます。



⑪　油圧・植付レバーを《**植付**》の位置に操作し，線引マーカーを降ろす方向に操作します。





⑫　ブレーキペダルからゆっくり足を離し，主変速レバーを前進方向に操作すると，田植機は苗を植付けながら進行します。

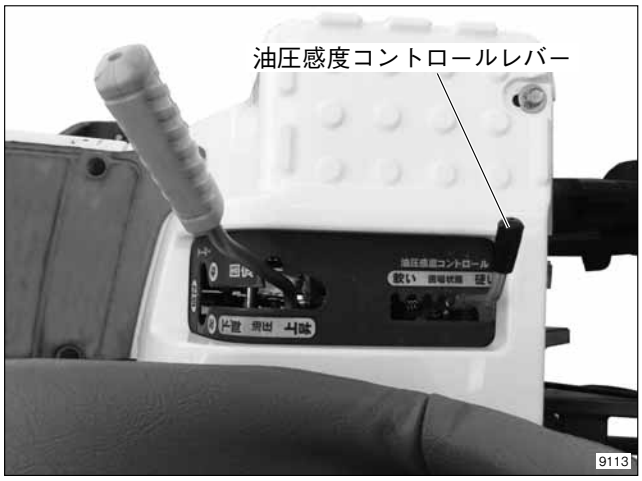
・主変速レバーでほ場条件に適した速度に変速します。

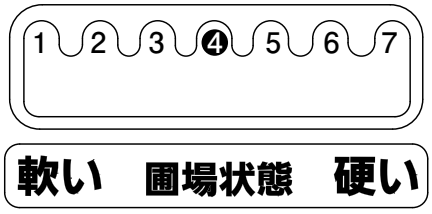
取扱いのポイント

- **植付け始めて，少し進んだら植付け作業を停止し，植付深さ・植付本数・フロートの沈下状態を調べ適正な植付け状態になるよう調整します。**
- **苗ストッパを使用するときは，苗のせ台の苗を引きあげてセットしてください。**
  再び植付けるときは苗を引きあげながら苗ストッパを解除し，苗がエプロン先端に当たるようにセットしてください。

3．油圧感度の調整

植付部は，ほ場表面の凹凸に合わせて上下動します。植付部の上下作動の感度の調節は，ほ場表面のやわらかさの状態に合わせて，油圧感度コントロールレバーで行います。目盛は7段あり，まず最初は「4」の位置で作業を始め，ほ場の条件により調節します。





❶ 油圧感度コントロールレバーの操作

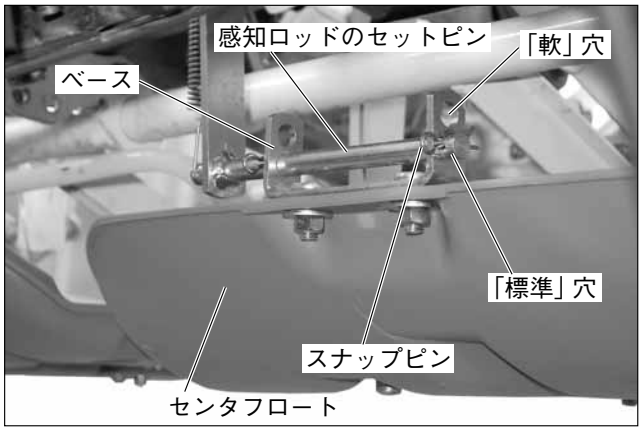
ほ場の状況	油圧感度コントロールレバー操作
・やわらかいほ場（フロートで泥を押したり，フロート跡が多い場合）	①《軟い》の方向へ1段ずつレバーを移動させて，フロートで泥を押さなくなるまで調節する。
・かたいほ場（フロートでほ場の凹凸を充分ならさない場合）	⑦《硬い》の方向へレバーを移動させて，調節する。

取扱いのポイント

- 《軟い》の方向へ寄せすぎて，フロートが浮き上がる場合は，1段ずつ《硬い》の方向へ戻してください。
- やわらかいほ場での作業時（特に①の場合）には，油圧の感度をよくしているため，ほ場条件により，植付部が上下運動を繰り返すことがありますので，この場合には，1段ずつ《硬い》の方向に戻してください。
- 苗補給時などで機械を止めたときに，ひとりでに植付部が上下運動を繰り返すことがありますが，これは植付け作業時には止まります。
- ほ場面に大きなかたまりなどがあると，植付部が浮き上がることがありますので耕うん，代かき時には，できるだけ田面をならしてください。
- やわらかいほ場で油圧感度コントロールレバーが①②位置でも泥の波が発生するような場合や枕地植付は，主変速レバーを低速側に変速して確実な植付け作業を行なってください。
- 油圧感度の調節を行なった場合は，植付け深さが変わることがありますので確認します。
  - 油圧感度コントロールレバーを《軟い》から《硬い》の方向に切替えたときは植付け深さが「深く」なり，《硬い》から《軟い》方向に切替えたときは植付け深さが「浅く」なります。

❷ **超軟弱ほ場に於ける油圧感度のセット**

前ページの油圧感度コントロールレバーの位置が①《**軟い**》でもフロートが沈下して，植付けが乱れるときには感知ロッドのセットピンを外し「**標準**」より「**軟**」に変更します。

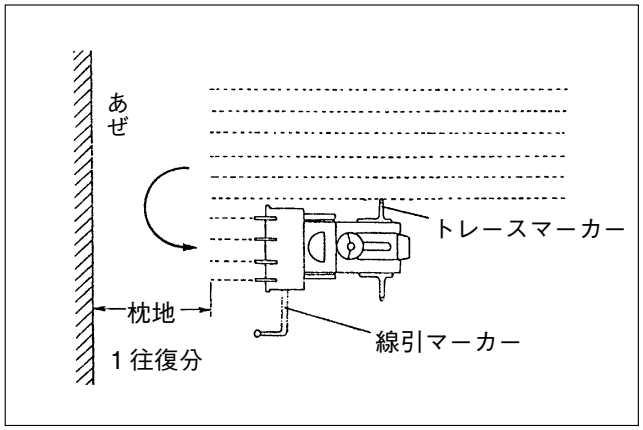


取扱いのポイント

- **セットピンは確実にピン穴に差込んでください。**
- **上記セットを変更しても油圧感度コントロールレバーは①《軟い》から⑦《硬い》の調節移動はできます。**
  特に①②《軟い》の場合には，ほ場条件により，植付部が上下運動を繰り返すことがありますので，この場合には，１段ずつ《硬い》の方向に戻します。

4. 旋回のしかた

・枕地は１往復植えられる幅を残して旋回します。



❶ 主変速レバーを低速側に変速して，油圧・植付レバーを《**上昇**》位置に操作し，ハンドルを操作しながら，旋回します。

❷ 旋回が完了したら，線引マーカー跡にセンタポールをあわせるようにするか，隣接苗にトレースマーカーをあわせるようにすると均等な隣接条間が得られます。

❸ 旋回後，油圧・植付レバーを《**植付**》位置にして線引マーカーは降ろす側に操作します。

❹ 主変速レバーを高速側に変速します。

取扱いのポイント

- **植付部を上昇させながら旋回するとハンドルが重くなることがあります。**

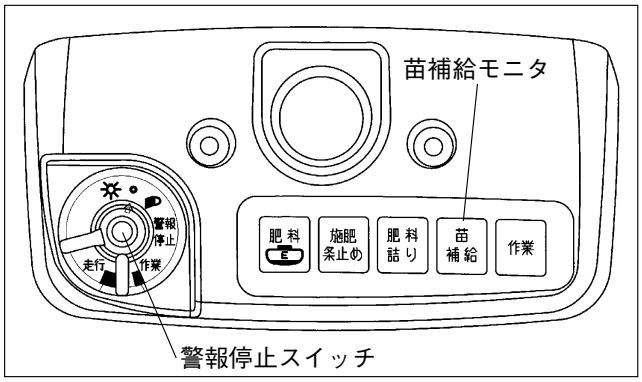
5．苗の補給

⚠警告　傷害事故防止のために

◆植付爪の付近の苗をなおしたり苗おさえを調節するときは，エンジンを停止し各部の動きが止まってから行なってください。

◆足掛けステップおよび，ステップが濡れている場合の乗降りは，スリップの恐れがあります。
くつ底の泥を落とし，足元を確認して慎重に乗降りしてください。

❶　苗のせ台の苗が減って苗警報スイッチ以下になると，「**苗補給**」モニタが点灯し，同時に警報ブザーが鳴りますので警報停止スイッチを押し，警報ブザーを停止します。
（苗補給モニタは点灯したままです。）



❷　主変速レバーを《N》（**中立**）にし，走行と植付けを「**同時に停止**」します。

❸　ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止させます。

❹　苗のせ台に苗を補給します。
（残り苗と補給苗の境目がぴったりあうようにしてください。）
　補給苗モニタが消えたことを確認します。

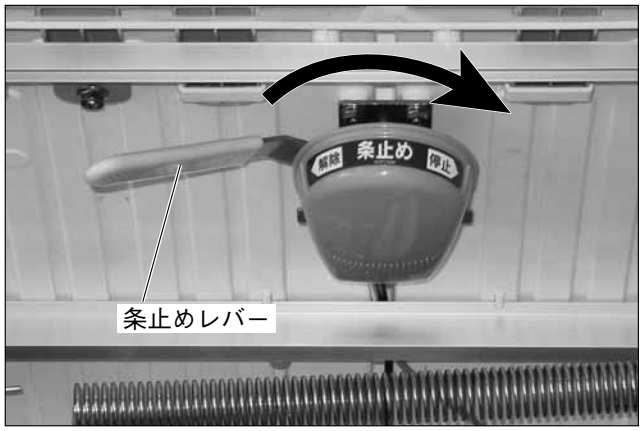
❺　主変速レバーを徐々に「**高速側**」にし，植付作業を開始します。

取扱いのポイント

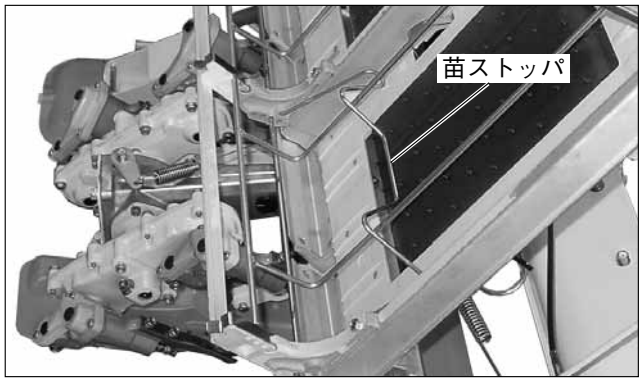
- **苗補給をするときには，主変速レバーを《N》（中立）にして停止すると，走行・植付けが同時に停止し苗補給をすると，作業を開始する場合に植付けがとぎれることなくできます。**
- **苗補給のとき，苗が完全になくなったときや，残っている苗が変形したりくずれているときは苗を取除き，最初に苗のせをするときの要領で苗のせ台を端に移動してから苗をのせてください。**
- **苗を補給するときは各条共できるだけ同量になるように補給してください。**

6．植付け終わりの調整

　最終行程まで機械で植付けるために，その前行程で「**条止め**」して調整します。



　条止めレバーの１本を《**停止**》にすると，２条の植付爪の作動が止まり，植付けを停止します。
・端の１条を調整するときは，苗ストッパとの組合わせで使用します。

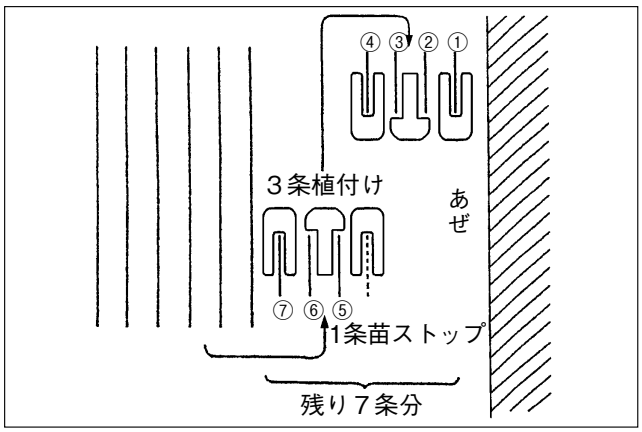


「調整例…残り７条の場合」

❶　７条分を前行程で３条だけ植付けし，後行程で４条を植付けします。

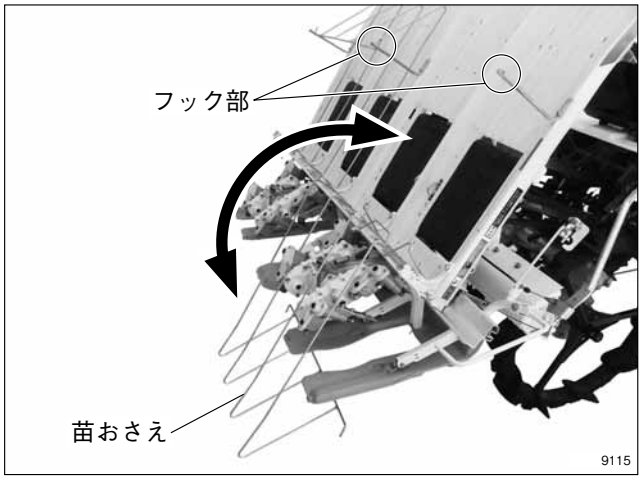
❷　前行程で３条植える場合，あぜ側の１条の苗ストッパを倒し，苗のずり落ちをとめ，あぜから５・６・７条目だけ植付けます。

❸　最後に残り４条を植付けます。



7. 残り苗の取出し

作業終了時や，植付け途中で苗のせ台にある苗を取出すときは，苗おさえ上方のフック部を外し，苗おさえを後ろへ倒して，残り苗を取出します。



8. トルクリミッタについて

⚠警告　傷害事故防止のために

◆植付爪などにかみ込んだ異物を取除くときは，植付クラッチを切りエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
エンジンを停止しないで行うと植付爪が一時的に回転します。

❶　植付け作業中，植付部が止まり，カチッカチッと高い音がしたらトルクリミッタ（安全装置）が働いています。

❷　トルクリミッタが働いたら，すみやかにブレーキペダルを踏込み，主変速，副変速レバーを《N》（**中立**）にし，エンジンを停止し各部の動きが止まってから，植付爪にかみ込んだ異物を取除きます。

❸　かみ込んだ異物を取除いたら，エンジンを始動するまえに植付爪が軽く回動するか，エプロンに当たらないか，植付爪が曲がったり破損していないかを確認してから植付けを再開してください。

取扱いのポイント

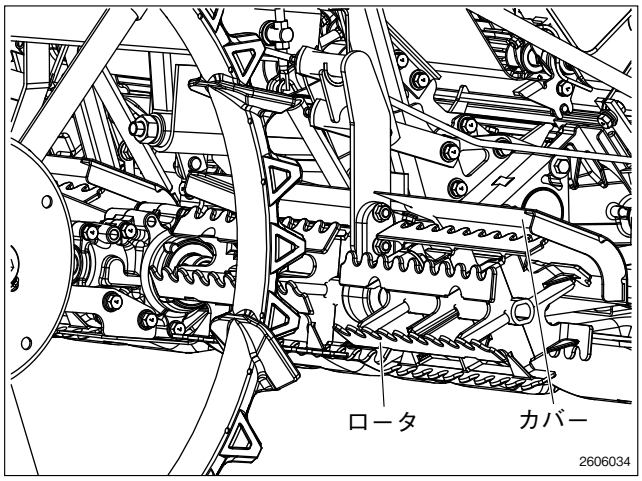
- **トルクリミッタが作動して，カチッカチッと音がする状態でいつまでも使用すると植付爪が破損したり，トルクリミッタが性能低下することがあります。**

3. 均平装置「まくらっこ」作業のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆作業時以外はまくらっこレバーを《格納・停止》の位置にしてください。

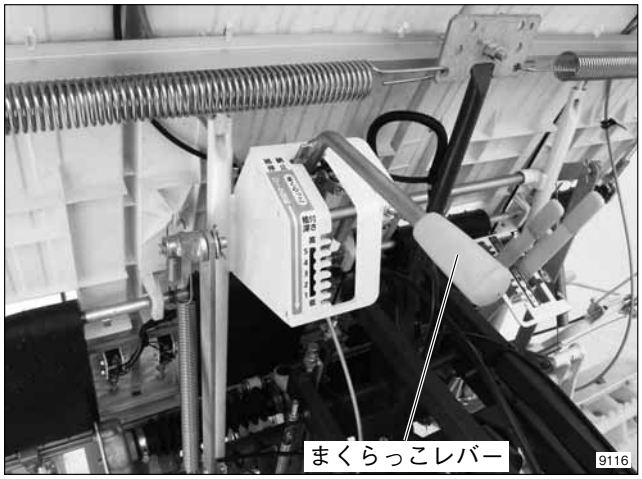
1．まくらっこ装置の取扱い



❶　まくらっこレバー

ロータ駆動の「**入**，**切**」とロータ高さを調節するレバーです。

《**格納・停止**》…ロータの駆動が切れます。
　　ロータの収納位置でもあります。
《**ロータ回転**》…ロータの駆動が入ります。
《**高い**》……ロータ高さが高くなります。
《**低い**》……ロータ高さが低くなります。



・操作するときは，走行を停止してから行います。

❷　ロータ

田面をならして整地します。

取扱いのポイント

- **ロータは後車輪に連動していますので，走行しないと回転しません。**
- **移動するときにはロータを回転させないでください。**
- **まくらっこレバーが《格納・停止》位置にあるときは，植付部を下降し走行してもロータは回転しません。**

2．まくらっこ作業

※田植機の旋回により枕地に車輪跡(凹凸)が残っていることがあります，その枕地をロータで均平にしながらきれいな植付けを行うものです。

⑴　まくらっこレバーを植付深さ調節レバーの番号（１～５）と同じ番号位置に合わせて，ロータのナラシ深さを決めてから植付け作業を行います。

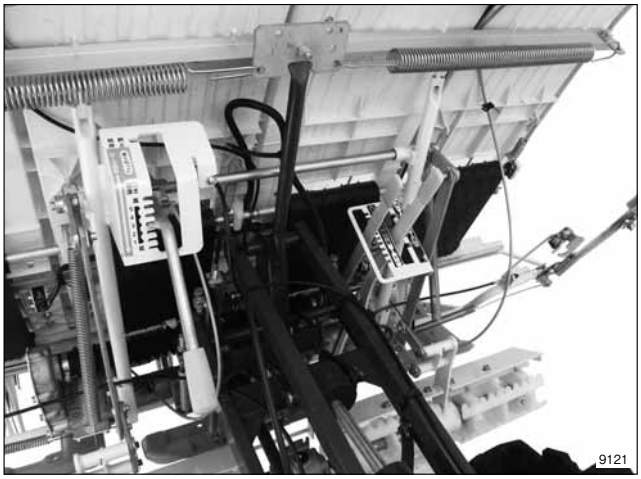
⑵　植付け作業が終ったらまくらっこレバーを《**格納・停止**》位置にして通常の植付け状態に戻します。

❶　ロータ高さの調節

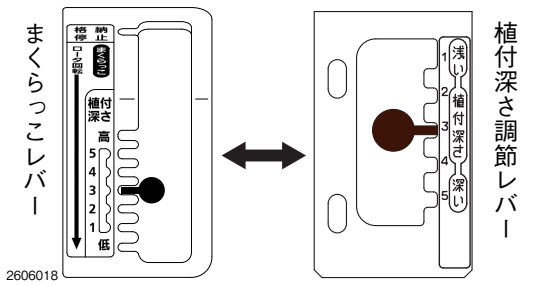
取扱いのポイント

●植付深さを調節するときはロータ高さも同じ位置に調節します。

・ほ場の条件で多少異なりますが,一般的にはロータ下端をフロートより，２㎝下方に合わせ調節します（ラベルの番号を合わせる)。まくらっこレバーは５段階に調節できます。
・まくらっこレバーは植付部を上昇させ，運転席より操作します。
・作業以外は格納位置にしてください。



ロータ高さ調節・植付深さ調節レバー位置目安



・ロータセット位置は植付深さ調節レバー位置の番号に合わせます。

・ロータセット位置《**1**》よりさらにロータを下げて使用する場合には，ロータセット位置《**低い**》を使用します。

取扱いのポイント

●ロータがフロートに対し深くなりすぎると土押しが多くなり隣接苗を押し倒すことがあります。
●ロータがフロートに対し浅くなると，均平性能が悪くなり，浮き苗になることがあります。
●まくらっこレバーは植付深さ調節レバー位置の番号と同一番号で使用し，表面の仕上り状態を見ながら，状態の悪いときはその位置を基準に《高い》または《低い》側に調節してください。
●全面作業の場合，基本的には枕地作業と同様ですが枕地作業に比べ車速が速くなるため，枕地と同じロータ高さ位置では泥を押す恐れがあります。その場合は，ロータを《高い》側に調節してください。全面作業を行う場合は，できるだけ表面を均す程度に掛けてください。
●全面作業の場合，水の多いほ場や軟らかいほ場で泥水を押す場合は，速度を落として作業してください。

手入れのしかた

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆植付部を上げて行うときは油圧を固定にし，植付部が降りないことを確認し，植付部の下に固定脚を置いてください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

「定期点検整備表」（点検・補給○，調整・掃除◎，交換●）

分類	点検項目	シーズン前	運転前	シーズン後（格納時）	3シーズンまたは150時間後	整備内容	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	○	○	●		補給・交換	47
	燃料ストレーナ	○		◎		掃除	51
	燃料ホースの劣化ともれ	○	○	●		2シーズン毎交換	52
	燃料タンク，気化器の燃料	○	○	○		補給・掃除	64
	点火プラグ	○			●	掃除・スキマ調整	51
	エアクリーナエレメント	○		◎		掃除	51
電装部	配線の損傷	○				補修	59
	配線接続部の外れ	○	○			接続	59
	バッテリの液量，残存容量	○				補充・充電	53
走行部	トランスミッション，フロントアクスルオイル			●（初回のみ）	●	補給・交換	48
	油圧オイルフィルタ			●（ミッションオイル交換時）	●	交換	48
	リヤアクスルオイル				●	補給・交換	48
	走行，油圧ベルト	○			●	ベルト張り調整	60
	ブレーキペダル	○	○			調整	—
	ステアリング作動部，車輪取付部のガタ，緩み	○				調整	—
	AZ（アゼ）ハンドル部		○	◎		注油	49
	注油箇所	○		○		注油	49〜50

「定期点検整備表」（点検・補給○，調整・掃除◎，交換●）

分類	点検項目	シーズン前	運転前	シーズン後（格納時）	3シーズンまたは150時間後	整備内容	参照ページ
植付部	プランタケースオイル				●	交換	49
	ビーク，フォークの摩耗	○		◎	●	調整・交換	61
	スクリューシャフト（ブーツ内）			◎		給脂	49
	注油箇所	○		○		注油	49
	プランタアーム部ネジの緩み			○		増締	―
ロータ部	各摺動部のガタ･ゆるみ	○				調整	―
	ロータの摩耗	○		○	●	点検・交換	―
	給油・給脂箇所	○		○		給油・給脂	49～50
さびやすい箇所				◎		注油	―

取扱いのポイント

●機械または部品などを廃棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは，

⑴機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

⑵地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

⑶廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買いあげ先」または「産業廃棄物処理業者」などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

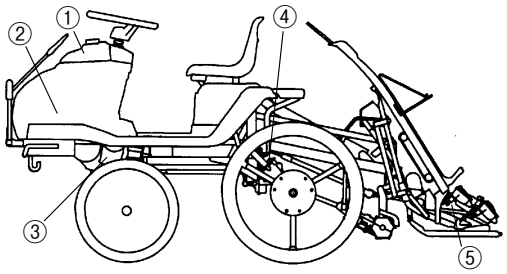
2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油・注油・給脂箇所にオイルグリスが入っています。
・オイルの点検・交換は,**「運転まえの点検表」**(18ページ）および**「定期点検整備表」**（44～45ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

●各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。
●廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。

「給油・注油・給脂表」



危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

警告 傷害事故防止のために

◆回転部に「油差し」で注油するときはエンジンを停止してから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

No.	箇　所	種　類	種　類		箇所数	容　量	備　考
			API サービス分類	SAE 精度番号			
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	－	－	1	6.0 L	
②	エンジンオイル	エンジンオイル	SD級以上	10W－30	1	0.9 L	
③	トランスミッション フロントアクスルケース	ギヤオイル	GL-4級以上	80W	1	7.2 L	
④	リヤアクスルケース	ギヤオイル	GL-4級以上	80W	1	2.2 L	
⑤	プランタケース	ギヤオイル	GL-4級以上	80W	2	各0.35 L	
⑥	給脂・注油指定箇所	エンジンオイル	SD／CD	10W－30	各部	適量	
		グリス／リチウムグリス	－	－			

・リチウムグリスはJIS1種０号，グリスはJIS1種２号カップグリスを使用する。

1．燃料の給油



燃料キャップを外して給油口より補給します。

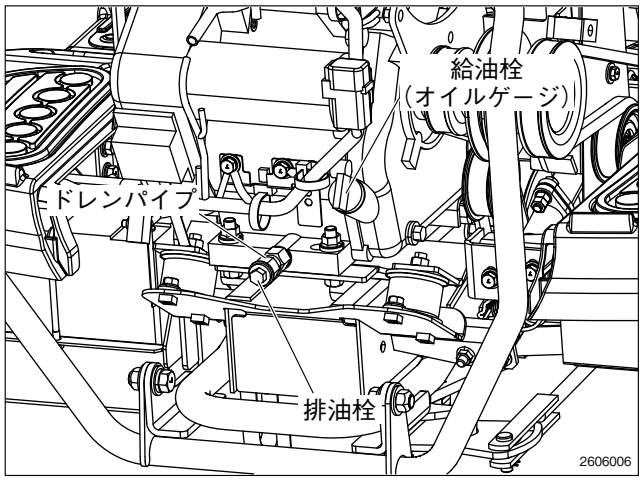
・燃料……無鉛ガソリン

・タンク容量……**6 L**

取扱いのポイント

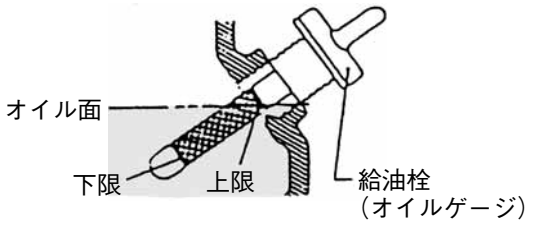
●燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。

2．エンジンオイルの点検・交換



❶ **点検**……ボンネットを開け，給油栓を外しオイルゲージ面をキレイにふき取ってから差込みます。（ネジ込まない）

・ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認します。確認後，ゲージを取付け，ボンネットを閉めます。



❷ **交換**……排油栓を外し，オイルを抜きます。オイルが完全に抜けたら，排油栓を確実に締め，新しいオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。

・オイル…… **純正油** または，
ガソリンエンジン用オイル
API・SD級以上，SAE・10W–30

・オイル量…**0.9 L**

取扱いのポイント

●排油栓を外すときは，ドレンパイプにスパナをかけて排油栓を外します。

3. トランスミッションケース・フロントアクスルケースのオイル交換（油圧オイルフィルタの交換）

・トランスミッションケースとフロントアクスルケースは一体となっています。

❶ **交換**……トランスミッションケース下部およびフロントアクスルケース（左右）下部の３箇所の排油栓を外し，オイルを抜取ります。

・給油するときは，パネルリヤカバー（ノブ１ヶ）を外し給油栓より給油します。給油後，パネルリヤカバーを取付けます。

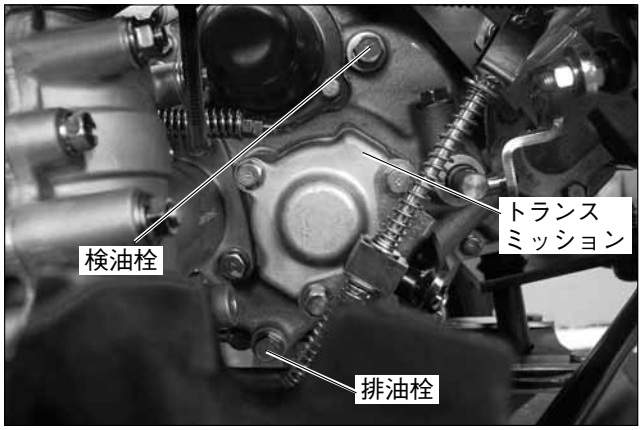
・ギヤオイル…… **純正油** または
API・GL－４級以上
SAE・80W

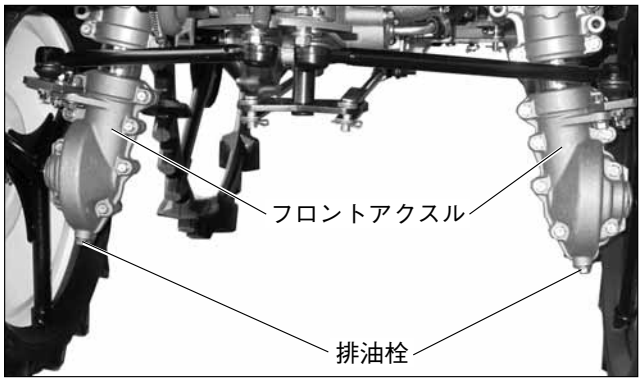
・オイル量

・分解整備時……**7.2L**

・トランスミッションケース・フロントアクスルケース排油栓で排油した場合……**6.5L**

・トランスミッション排油栓のみで排油した場合……**5.5L**







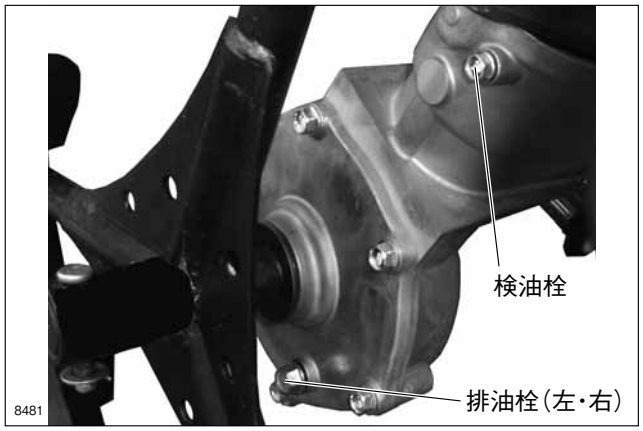
❷ **油圧オイルフィルタの交換**

・トランスミッションケースのオイルを交換するときは，ケース下部左側にある油圧オイルフィルタも交換します。油圧オイルフィルタは「ペーパーフィルタ」ですのでお買い上げのうえ交換します。



4. リヤアクスルのオイル交換





❶ **交換**……左右のリヤアクスルケース下部の排油栓を外し，オイルを抜きます。

・給油は油量を計り，給油栓より給油します。

・ギヤオイル…… **純正油** または
API・GL－４級以上
SAE・80W

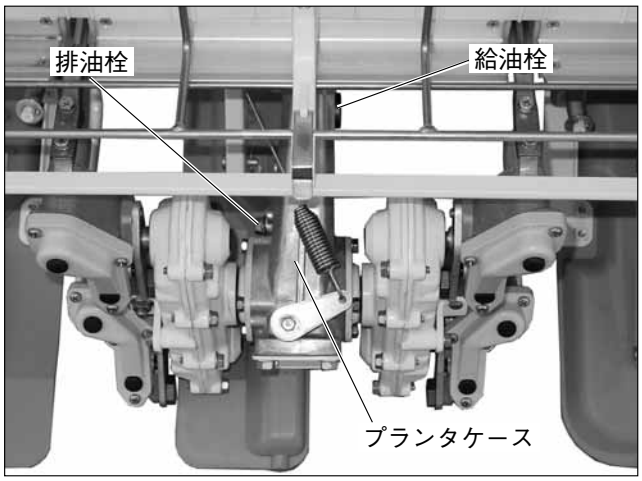
・オイル量……**2.2 L**

5．プランタケースのオイル交換

❶ **交換**……各プランタケースに適量を給油します。

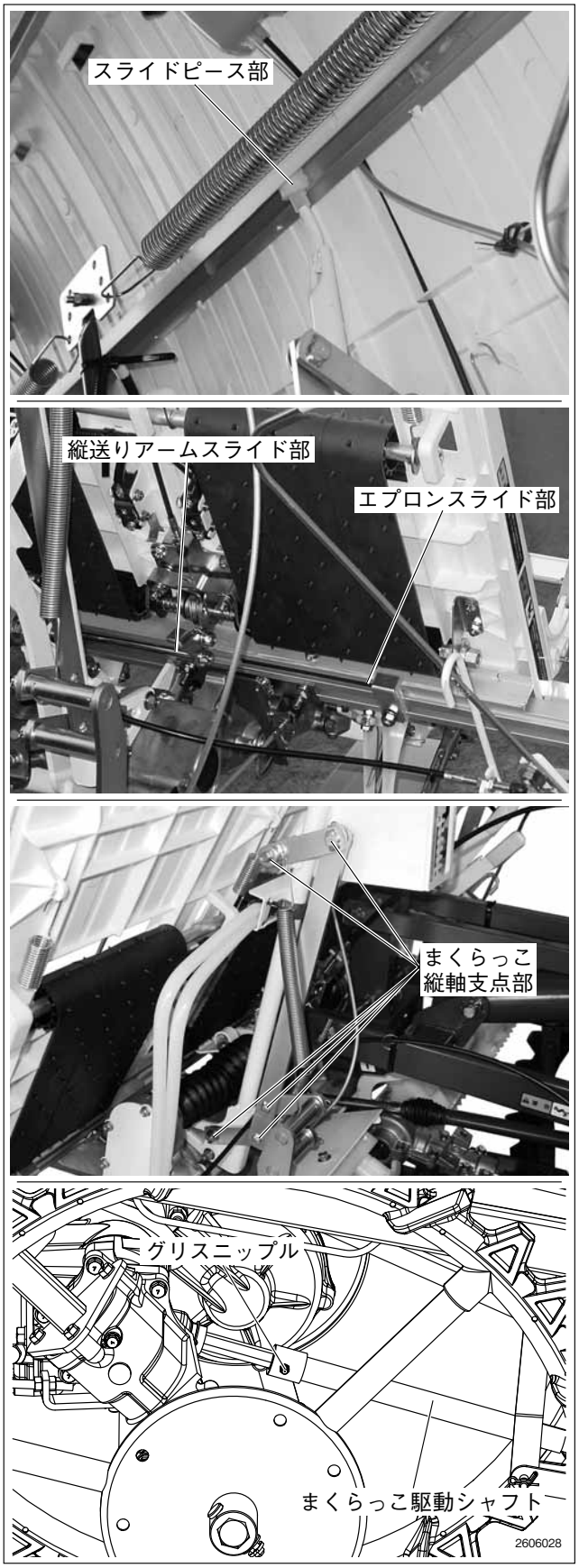
・ギヤオイル…… **純正油** または
API・GL－４級以上
SAE・80W

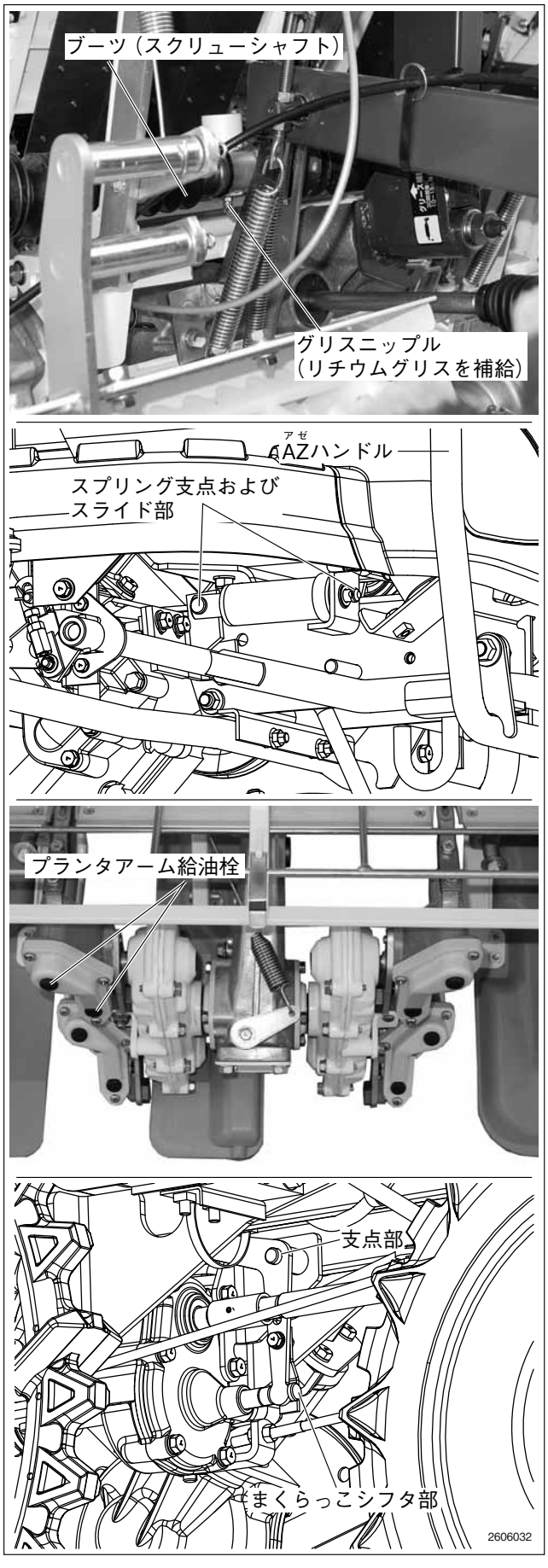
・オイル量……**各0.35 L**
２箇所



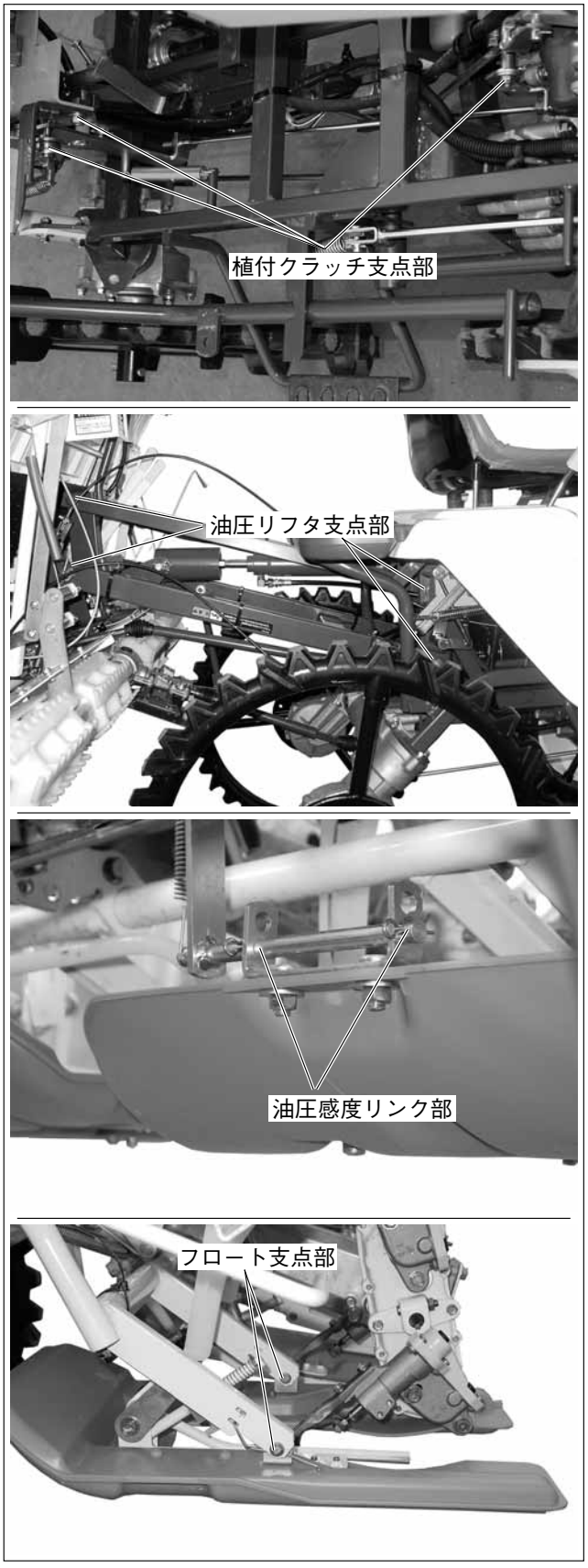
6．給脂・注油指定箇所

❶ グリスを適量給脂します。





❷ エンジンオイルを適量注油します。



・指定箇所以外の回転部，摺動部にも注油します。

3. 各部の点検と掃除のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

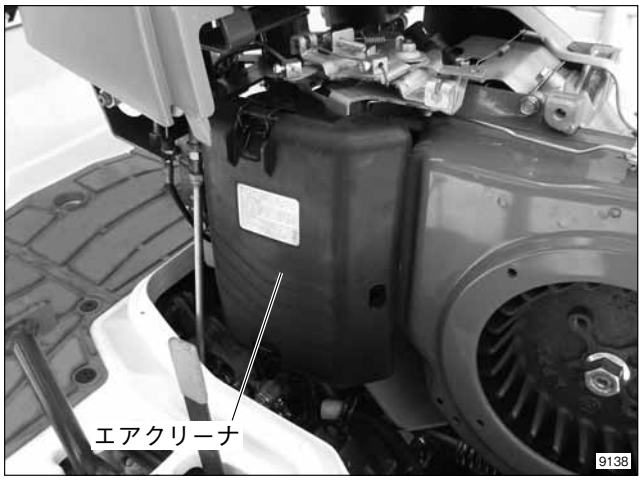
◆各部の点検，掃除をするときは，エンジンを停止し回転が止まってから行なってください。

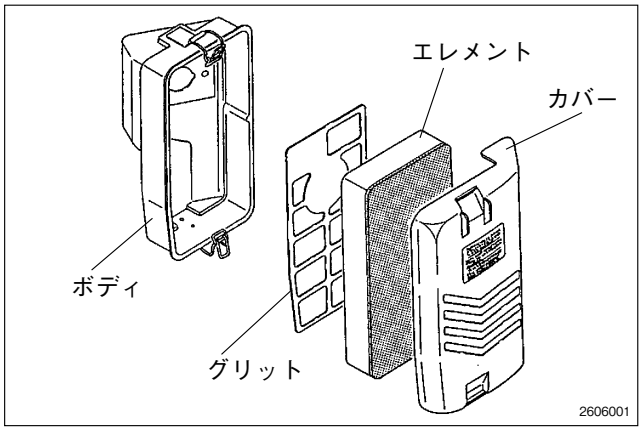
◆エンジン回転中はプラグキャップや高圧コードに触れないでください。「感電」することがあります。

1. エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

・エレメントが目詰まりをすると始動困難となるので，エレメントを白灯油で洗浄し，混合油（白灯油２～４：エンジンオイル１）に浸して点滴しない程度によく振り切ってから組込みます。

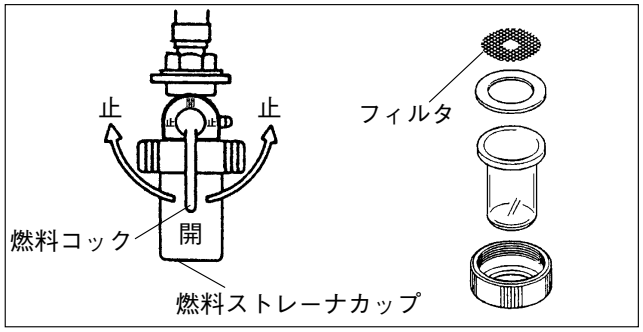




2. 燃料ストレーナの掃除

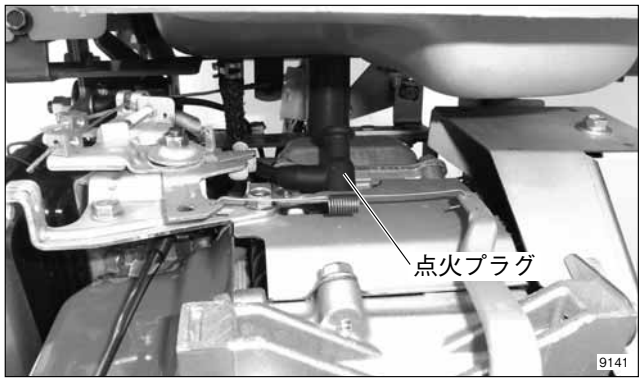
燃料ストレーナカップに水やゴミなどが溜まっていないか点検します。

燃料コックを《止》（閉）にし，燃料ストレーナカップを外して，ガソリンできれいに洗浄し組付けます。

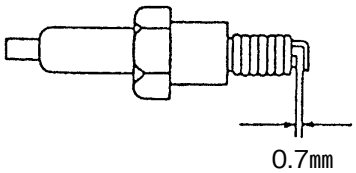


3. 点火プラグの点検と掃除

❶ ボンネットを開き，点火プラグコードを外して付属のボックススパナで点火プラグを取外します。



❷ 点火プラグについているカーボンを取除き，電極スキマが「0.7㎜」になるように点検調整します。



❸ 電極部が損耗または破損しているときは，新しい点火プラグと交換します。

❹ 点火プラグを取付け後，プラグキャップを確実に差込みます。

・使用点火プラグ

NGK－BPR5ES

または相当品

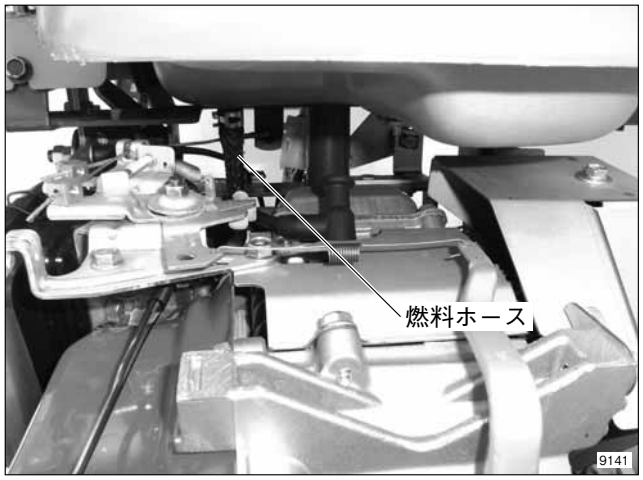
❺　ボンネットを閉めます。

取扱いのポイント

- **プラグキャップを外したままでエンジンを始動しないでください。**
- **点火プラグをエンジン側にアースしないでエンジンを始動しないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。**
- **点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないとき（スパークしないとき）は新しい点火プラグと交換してください。**

4．燃料ホースの点検

燃料ホースの老化や傷による燃料もれがないか，またクランプがゆるんでいないか点検します。



取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**

5．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水が必要なバッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は54ページの❸を参照してください。

指定バッテリ…28A19R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。

◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

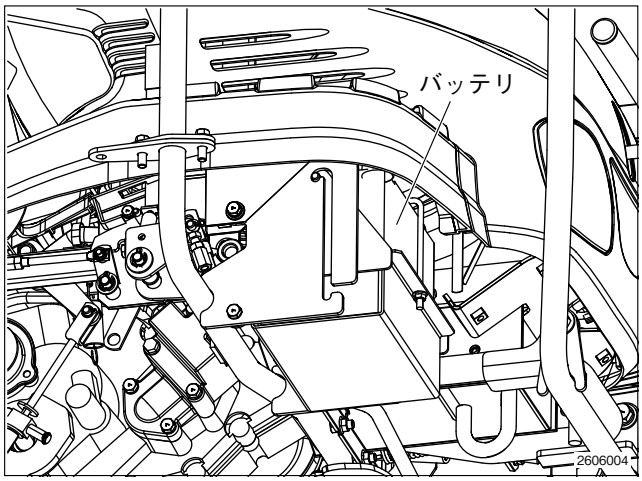
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば，修理または取替えます。

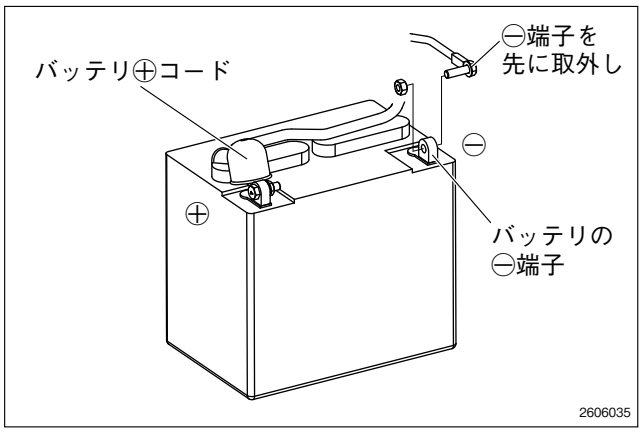
バッテリは機体前方右側のフロントステップ下に装着しています。(取外しかたは17ページ参照)



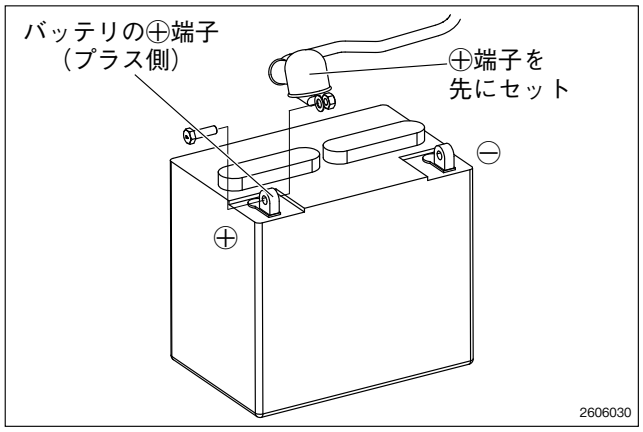
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

❸ 点検・補水

⚠危険

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

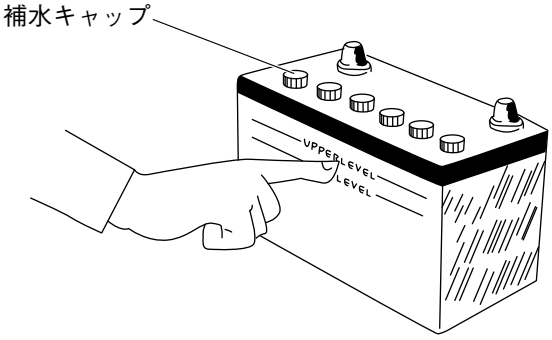
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



V137

取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

❹ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

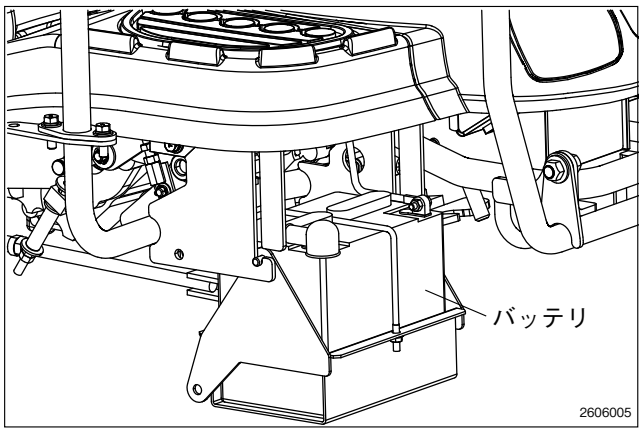
- **急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。**

2．補充電が終ったら補水キャップを全て取付けてください。

❺ ブースタケーブルによるエンジン始動

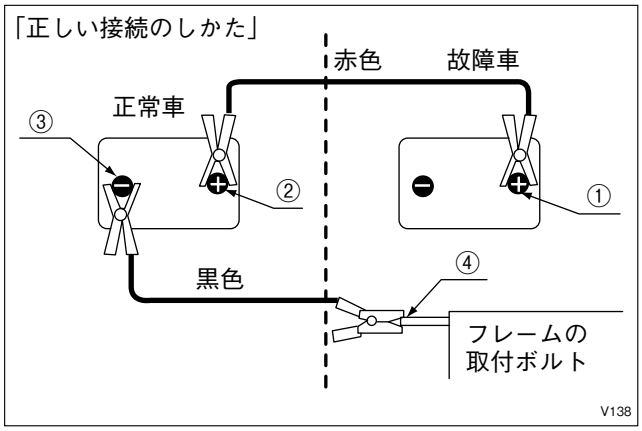
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12Ｖ仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。



接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

補水不要なバッテリの場合

（補水が必要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

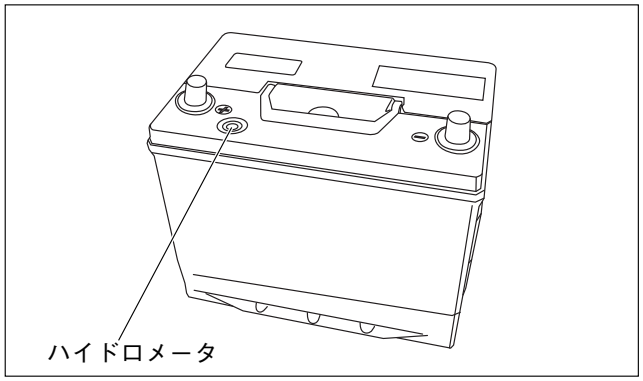
❻ バッテリの状態点検と，異常時の処理

⑴ バッテリは上面にあるハイドロメータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●ハイドロメータは真上から確認してください。



⑵ バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

❼ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−)端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋)端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより,失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり,落としたり,斜めにしたり,衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告

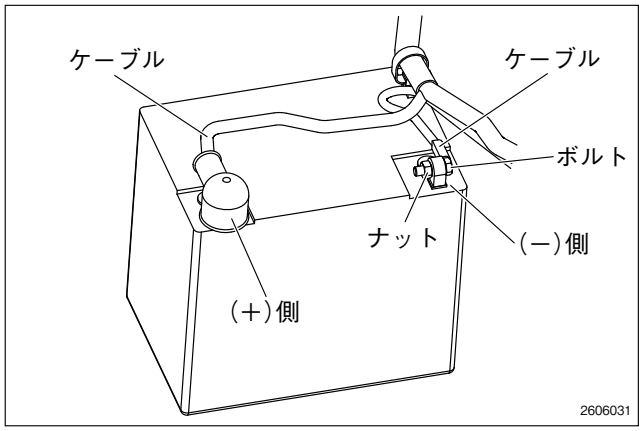
◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしてもランプ類が点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で,ヘッドランプの明るさが変わる。
・ブザーの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。
⑴ ナットをゆるめてフックを外します。
⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



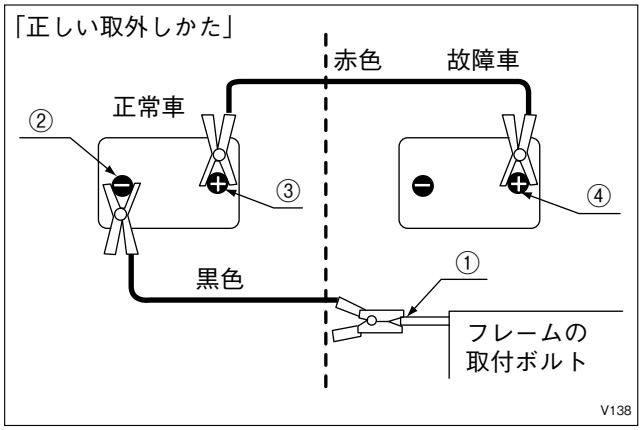
2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。
3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：28A19R
●バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ,補水が必要なバッテリ)

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機体からバッテリを取外します。

⑶ **「水素ガス」**が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ **「火気」**を近づけたり**「スパーク（短絡）」**による電気火花が発生しないようにします。

⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

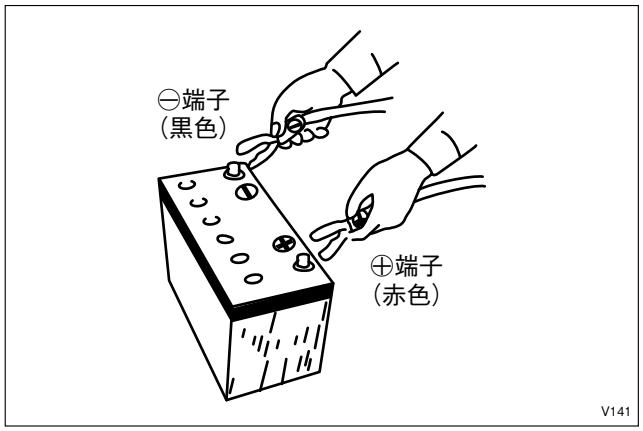
⑴ 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に**「補水キャップ」**をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**

6．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ⊖コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

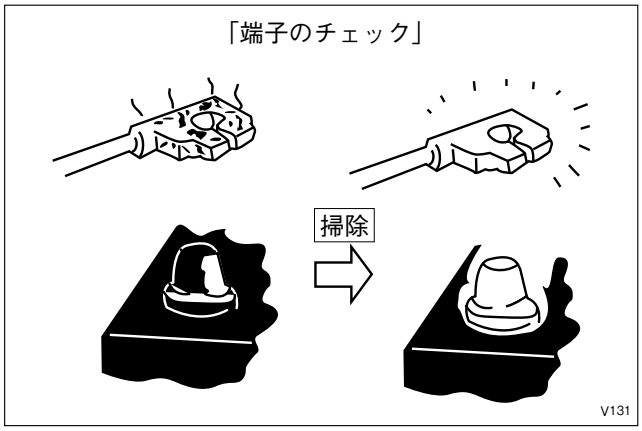
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

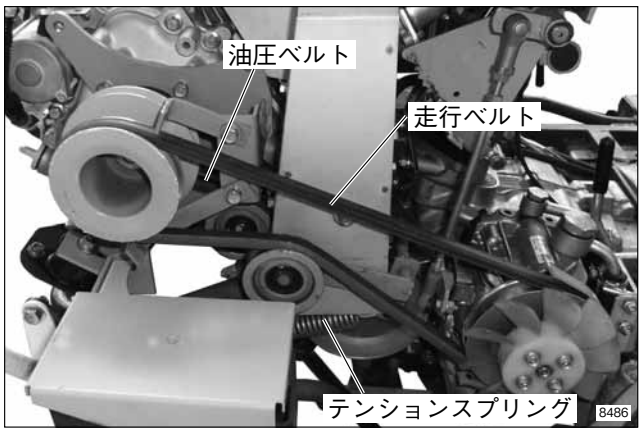
⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



4. 各部の点検と調整のしかた

1. 走行ベルトの点検・調整

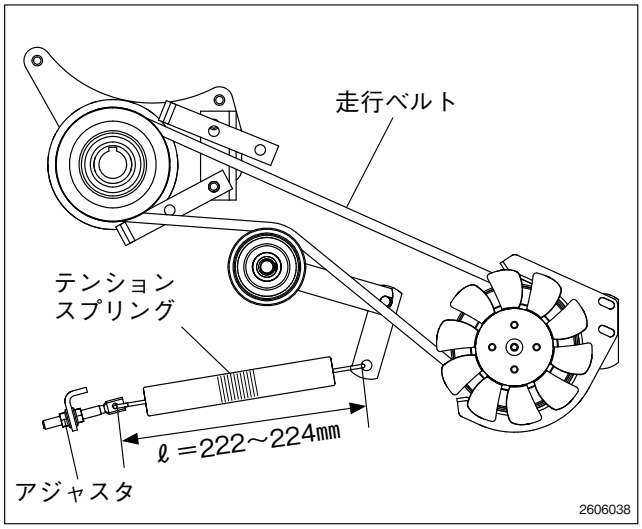
❶ **点検**……走行中エンジンの回転に比べて車輪の回転が遅い，または回転しないことはありませんか。



❷ **調整**……ボンネットを取外し，走行ベルトのテンションプーリのスプリングをアジャスタのナット位置を調整して張り，ロックします。

調整後はボンネットを取付けます。

ℓ ＝ 222～224㎜



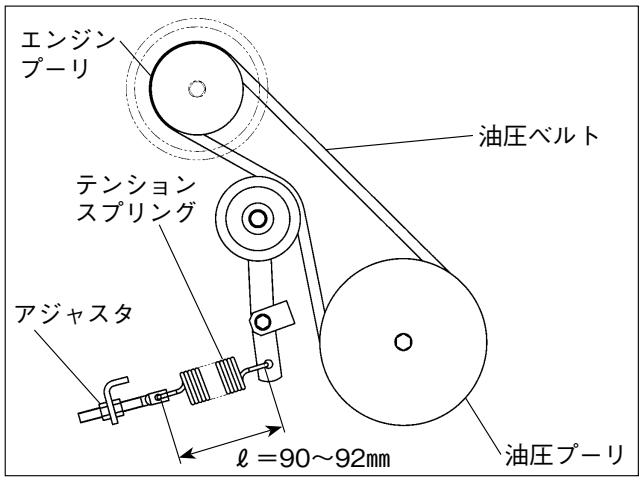
2. 油圧ベルトの点検・調整

❶ **点検**……リフト（油圧・植付）レバーを《**上昇**》位置にすると植付部が上昇しますか。

❷ **調整**……ボンネットを取外し，油圧ベルトのテンションプーリのスプリングをアジャスタで張ります。

調整後，ボンネットを取付けます。

ℓ ＝ 90～92㎜

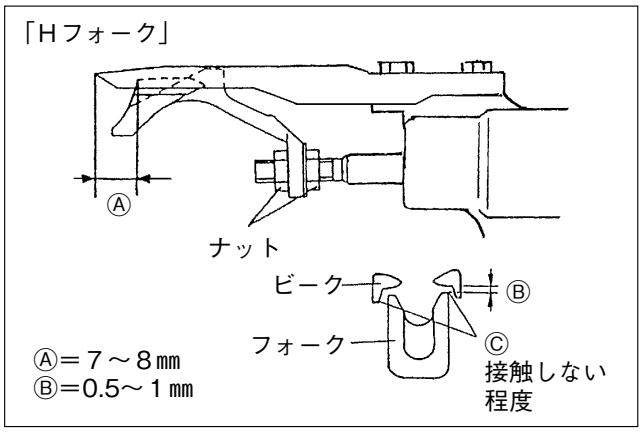


3. 植付爪（ビーク・フォーク）の点検・調整

❶ **点検**……植付け姿勢が悪い。あるいは苗を持ち回りしませんか。

❷ **調整**……⑴ 植付爪を手で回し，植付爪が下死点（最も下がった位置）のときビーク・フォークのⒶ寸法をナットで調整します。

⑵ Ⓑ・Ⓒのスキマは，ビークとフォークが接触しない程度に締付けます。



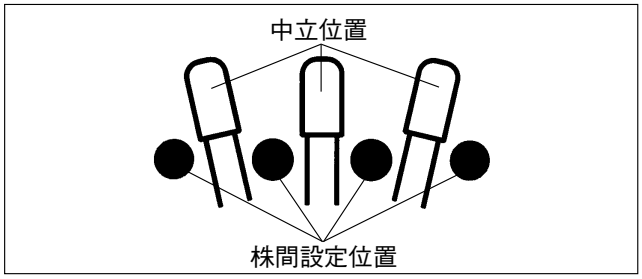
取扱いのポイント

●プランタアームをいっぱい下げてフォークの調整や作動の確認をした場合は，確認後プランタアームをいっぱい上げます。

「植付爪を手で回す要領」

⑴ 植付部を上げて，エンジンを停止してから油圧固定レバーを《固定》位置にし油圧・植付レバーを《植付》位置にします。

⑵ 株間調節レバーを株間と株間の中間（中立位置）にセットします。



⑶ 油圧・植付レバーを《植付》位置にした状態でプランタを手で回します。

ビークの点検・調整

点検……各ビークの掻取量が均一ですか。ビークを交換したときは調整します。

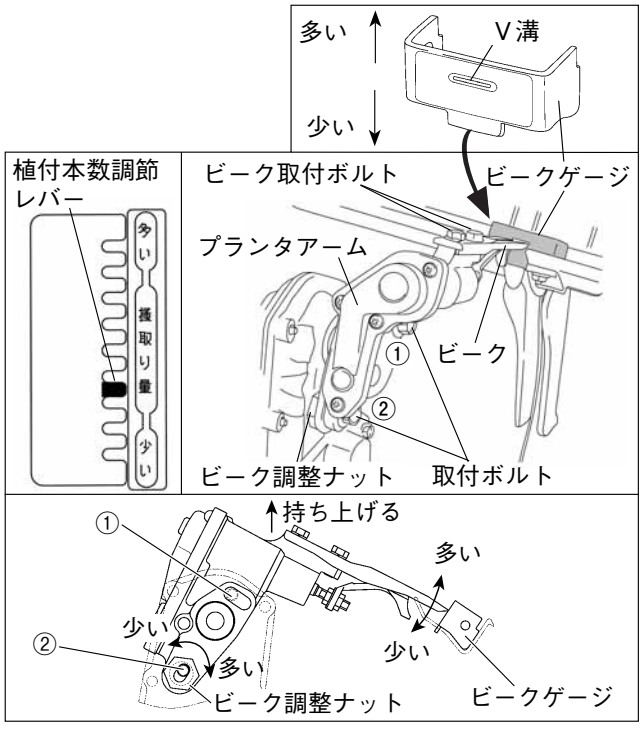
❶ビーク振り分け調整……ビークゲージをエプロン掻取口にセットし，ビーク先端がゲージのＶ溝の中央にくるようにビーク取付ボルトをゆるめ調整します。

❷ビーク高さ調整……⑴植付本数調節レバー掻取量を《**少い**》から４番目にセットし，ビークゲージをエプロン掻取口にセットします。

⑵プランタアームを手で回し，ビークの先端がビークゲージのＶ溝位置にくることを確認します。

⑶Ｖ溝位置よりも「**少い**」または「**多い**」にズレている場合はプランタアームの取付ボルト（２本）を半回転～１回転ゆるめ，ビーク調整ナット（付属品の専用スパナ使用）でビークの高さを調整し，ビーク先端がゲージのＶ溝位置にくるようにします。

⑷プランタアームの取付ボルトは，プランタアーム部を持ち上げながら①→②の順で締め付けます。



取扱いのポイント

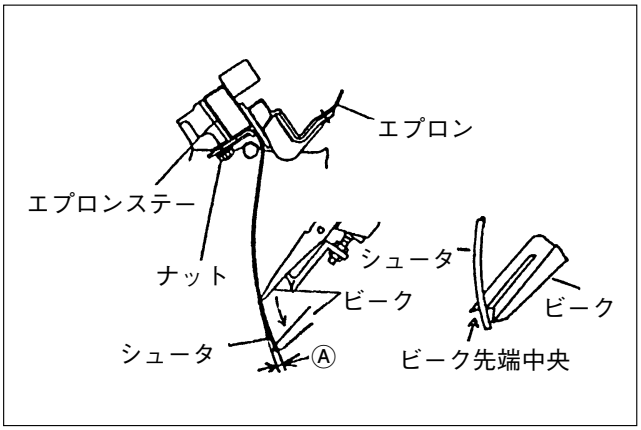
- ビーク調整ナットで調整するときはビークをいったん多い方へもっていき，それから少い方に動かし調整してください。
- ビーク交換したときは他の１本のビークも調整を行なってください。

４．苗シュータの点検・調整

❶ **点検**……植付け姿勢が悪い，あるいは苗が倒れてはいませんか。

❷ **調整**……植付爪を手で回し，シュータが，ビーク先端中央になるようにしてください。

Ⓐ＝ ２～８㎜



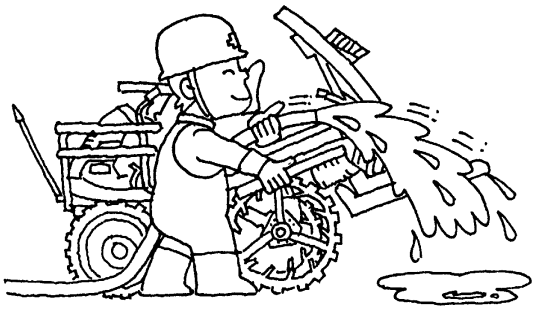
長期格納のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止し，各部の回転が停止してから行なってください。
◆エンジン・マフラ・燃料タンク周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因になることがあります。
◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」（44～45ページ参照）の「**格納時**」の項目について点検・整備および掃除を行い，更に次の処置をします。

1．機械の掃除と洗浄



❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き，汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
❷ 塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り，機体のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
❸ 給脂・注油指定箇所（49～50ページ参照）に給脂・注油します。
❹ 回転部・摺動部・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

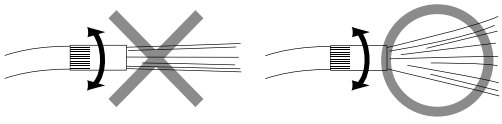
取扱いのポイント

- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**
- **ペースト施肥機付の機械はペースト施肥機の取扱をよく読んで洗浄してください。**
- **高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。**

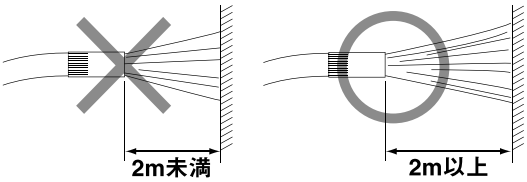
⚠注意 火災や傷害事故防止のために

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
2．油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ室内，モニタパネル内などへの侵入による故障
(3) タイヤ，オイルシールなどのゴム類，化粧カバーなどの樹脂部品，ガラスなどの破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



2. エンジンの手入れ

❶ エンジンオイルを交換します。

オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し，各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。

❷ エンジンコントロールレバーはいっぱい戻しておきます。

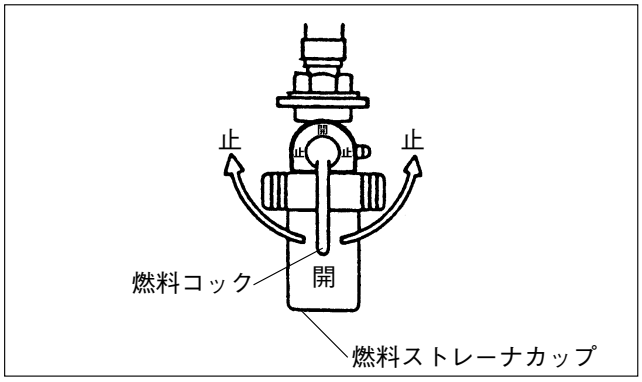
❸ 機械を１ケ月以上使用しないときは，燃料変質による始動不良または運転不調にならないように，燃料タンク・燃料ストレーナ・気化器の燃料を抜きます。

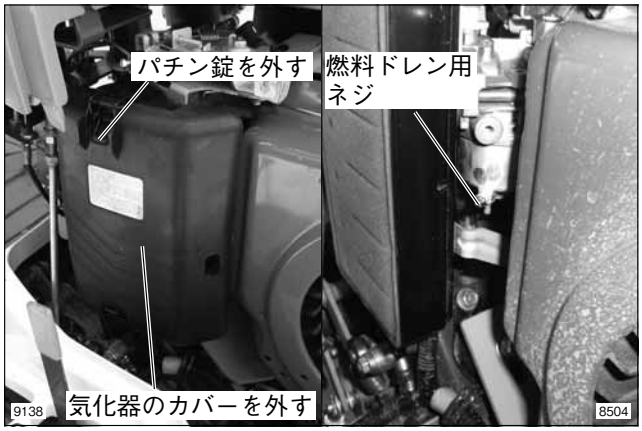
⑴ 燃料タンクの燃料を給油ポンプで抜き，残量分は燃料ストレーナカップを外して抜きます。

⑵ 気化器のカバーを外し，燃料ドレン用ネジをゆるめて気化器内の燃料を抜き取ります。

⑶ 燃料を抜き終わったら，燃料ストレーナカップを取付け，燃料コックを《**止**》（**閉**）位置にします。

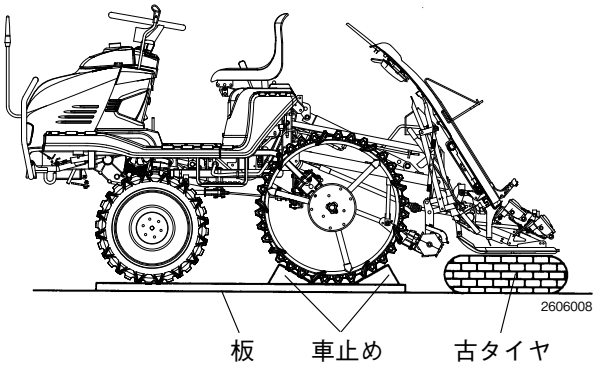
⑷ 燃料を抜くために，外したりゆるめた箇所は元の状態に戻しておきます。





3. 格　納

機械の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び，保管します。



❶ 「**車輪**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 主変速レバーは，「**N**」（**中立**）の状態にしておきます。

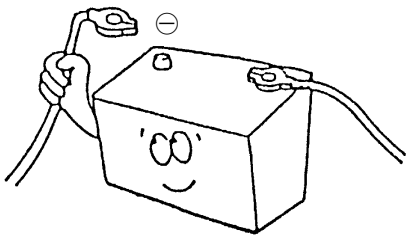
❸ 副変速レバーは，いずれかの変速状態の「**入**」にしておきます。

❹ 苗のせ台は機械の中央に止めておき，苗のせ台の上に物を置かないようにします。

❺ センタポール・トレースマーカーは収納し，線引マーカーはマーカーフックに格納します。

❻ フロートの下にダンボールや古タイヤなどを敷き，植付部を完全に降ろし，油圧・植付レバーは《**固定**》の位置にします。

❼ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを機械から取外し，風通しの良い屋内に保管してください。また機械に取付けたまま保管するときにはバッテリのマイナスコード（アース側）を外しておきます。



●マイナスコード（アース側）を外しておいてください。

❽　保管中，不意に機械が動き出すのを防ぐため，車輪に**「車止め」**をし，始動キーを抜取っておきます。

取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **ペースト施肥機付の機械は，ノズルを格納位置にしてから植付部を降ろしてください。**

4．再使用するときは

格納後，はじめて使用するときには各部のシーズン前点検を入念に行なった後に運転します。（44～45ページ参照）

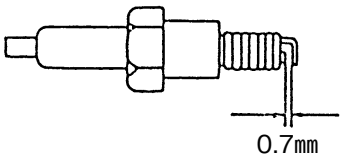
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に停車し，エンジンを止め，各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は，エンジンが冷えてから行なってください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶エンジンが始動しない。 ・または始動困難。	⑴ 始動操作を誤っている。	・正しい手順で始動操作をする。 （ブレーキペダル・燃料ストレーナ・チョーク操作に注意）	19・20
	⑵ 燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給し，燃料コックを《**開**》位置にする。	19・46・47
	⑶ エアクリーナにゴミが詰まっている。	・掃除またはエレメントを交換する。	51
	⑷ 燃料ストレーナカップに水やゴミなどが溜まっている。	・カップを外して掃除する。	51
	⑸ 点火プラグが湿っている。(チョークのしすぎなど)	・点火プラグを外してよく乾燥させる。	51・52
	⑹ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整する。  ・点火プラグのカーボンを掃除する。 ・点火プラグを新品と交換する。	51・52
	⑺ エンジンコントロールレバーの位置はよいか。	・エンジンコントロールレバーを低速から「**やや高速**」側へ引きます。	20
	⑻ バッテリが放電している。（セルモータの起動力不足）	・バッテリを充電する，または交換する。	53～58
	⑼ ブレーキペダルを踏込んでも，セフティスイッチが作動しない。	・スイッチ，配線を点検する。	59
	⑽ バッテリコードがゆるんでいる。（接触不良）	・ターミナル部をよくみがき締付ける。	59
	⑾ メインヒューズが切れている。	・ヒューズ（40A）を交換する。 （再発するときは，「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。）	16

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❷エンジンの出力不足。 ・自然に止まる。	⑴　エアクリーナにゴミが詰まっている。	・掃除またはエレメントを交換する。	51
	⑵　エンジンオイルの量が不足している。	・エンジンオイルを規定量まで補充する。 ・エンジンオイルが古くなっているときは，新しいオイルと交換する。	47
	⑶　エンジンの回転が十分あがらない。	・エンジンコントロールレバーワイヤ取付部にゆるみはないか，セットはよいか点検する。	ー
	⑷　エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので「**お買いあげ先**」に相談する。	ー

2．走行・運転操作関係

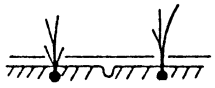
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶変速しても走行しない。	⑴　走行ベルトがスリップしている。	・ベルトのテンションプーリ張りスプリングを調整する。	60
	⑵　主変速・副変速が確実に入っていない。	・主変速レバー・副変速レバーを確実に入れる。	8
	⑶　駐車ブレーキがかかっている。	・駐車ブレーキを解除する。	7
❷ＡＺ（アゼ）ハンドルで走行クラッチ操作ができない。	・駐車ブレーキがかかっていない。	・駐車ブレーキをかける。	8・28
❸ＡＺ（アゼ）ハンドルで走行すると直進しない。	・前輪のタイヤが直進方向で固定されていない。	・機械から降りる前に前輪のタイヤを直進方向に固定する。	8・28
❹ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かない。	・ブレーキロッドの調整が悪い。	・ロッドの再調整が必要なため「**お買いあげ先**」に相談する。	ー
❺油圧・植付レバーを《上昇》に操作しても植付部があがらない。	⑴　ミッションのオイル量が不足している。	・ギヤオイルを規定量まで補充する。	48
	⑵　油圧オイルフィルタが詰まっている。	・油圧オイルフィルタを掃除する。 ・ギヤオイルが古くなっているときは，新しいオイルと交換する。	48
	⑶　油圧ベルトがスリップしている。	・ベルトのテンションスプリングを調整する。	60

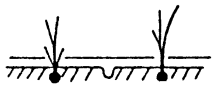
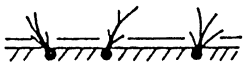
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❻油圧・植付レバーがオートリターンしない。	・ボルトの調整が悪い。	・ボルトの長さを調整する。 ・ボルトの長さの再調整が必要なため**「お買いあげ先」**に相談する。	ー
❼油圧・植付レバーを《植付》にしても植付けない。	・スプリングの調整が悪い。	・ロッドの長さ，スプリングのセット寸法の再調整が必要なため**「お買いあげ先」**に相談する。	ー
❽《下降》にしても植付部が停止しない。	・スプリングの調整が悪い。	・ロッドの長さ，スプリングのセット寸法の再調整が必要なため**「お買いあげ先」**に相談する。	ー

3. 電装品関係

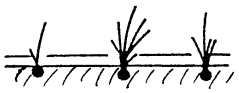
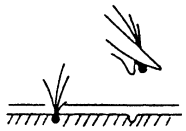
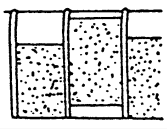
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶前照灯・モニタランプ・ブザーなどが点灯または作動しない。	⑴　**「作業」**ヒューズが切れている。 ⑵　バッテリの放電。	・ヒューズ（10A）を交換する。（再発するときは，**「お買いあげ先」**にて点検を受けてください。） ・バッテリを充電する，または交換する。	16・17 53～58
❷バッテリが早く放電する。	**「充電」**ヒューズが切れている。	・ヒューズ（20A）を交換する。（再発するときは，**「お買いあげ先」**にて点検を受けてください。）	16

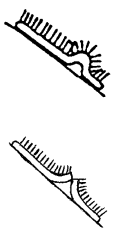
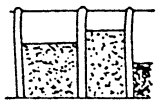
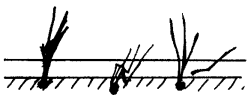
4. 植付部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶カチッ，カチッと高い音がして植付部が停止する。	植付爪に異物があたり，トルクリミッタが作動している。	・主変速レバーを《**N**》**（中立）**にし，油圧・植付レバーを**《固定》**にし，株間調節レバーを中立位置にし，エンジンを停止し各部の回転が止まってから障害物となっている異物を除去する。	41
❷欠株ができる。 	⑴　ビーク・フォークのかき取り調整が悪い。	・植付苗にあわせてビーク・フォークの再調整をする。	61・62
	⑵　ビーク・フォークが変形または摩耗している。	・新しいビーク・フォークと交換する。	61・62
	⑶　ほ場の田面にワラやゴミクズが多くある。	・植付け深さをやや深くする。	12
	⑷　植付苗に播種ムラ・発芽ムラがある。または播種量が少ない。	・掻取り量（縦送り・横送り）を多くする。	12・32～33

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❷欠株ができる。 	⑸　植付苗の滑りが悪い。	・苗床の横幅を縮める。 ・苗おさえのセット位置を上げる。 ・苗ささえ（苗ホルダ）のセット位置を調節する。 ・苗床土を水に浸す。	14
	⑹　苗の縦方向の掻取り量が少ない。	・植付本数調整レバーを「**多い**」の方向へ移動し，横送り量を少なくする。	12･32～34
	⑺　植付苗をビーク・フォークが持ち帰る。	❽項参照	61
❸浮き苗がある。 	⑴　田面がかた過ぎる。	・ほ場に水を「１～２㎝」入れてやわらかくする。	29
	⑵　植付け深さが浅い。	・苗丈をみて，植付け深さをやや深くする。	12・34
	⑶　苗床土が乾いている。	・苗床土を水に浸す。	35
	⑷　フロートが浮きぎみになっている。	・油圧感度コントロールレバーを《**硬**》側にセットする。	38
	⑸　人工マットで植付爪が苗をよく保持しない。	・根がらみのない人工マットは使用しない。	31
	⑹　ビークで苗を持ち上げている。	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。 ・フォークをN（H）フォークにする。 ・フォークの位置を下げる。	29･61･74
	⑺　植付速度が早い。	・植付速度を遅くする。	36
	⑻　植付部が傾いている。	・油圧感度コントロールレバーを《**硬**》側にセットする。	38
❹植付け姿勢が悪い。 **（前傾･後傾･ばらける）** 	⑴　ビークフォークが変形または摩耗している。	・新しいビーク･フォークと交換する。	61・62
	⑵　苗床土が乾いている。	・苗床土を水に浸す。	35
	⑶　掻取り量が少ない。	・播種量が少ない苗床であれば，掻取り量を多くする。	12･33･34
	⑷　植付け深さが浅過ぎる。	・植付け深さを深くする。	12・34
	⑸　苗床の根張りが悪い。	・植付け速度を遅くし，ゆっくり掻取るようにする。	36
	⑹　ビーク･フォークに泥が詰まっている。	・ビーク・フォークの泥を水で洗い落とす。 ・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。 ・フォークをN（H）フォークにする。	61・74
	⑺　植付速度が早い。	・植付速度を遅くする。	36
	⑻　フロートが浮きぎみになっている。	・油圧感度コントロールレバーを《**硬**》側にセットする。	38
	⑼　苗ささえ(苗ホルダ)の位置が悪い。	・苗ささえ（苗ホルダ）の位置を調節する。	14

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❺植付苗がころぶ。 	⑴　植付け深さが浅過ぎる。	・植付け深さを深くする。	12・34
	⑵　苗床土が乾いている。	・苗床土を水に浸す。	35
	⑶　ビークで苗を持ち上げている。	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。 ・フォークをＮ（Ｈ）フォークにする。	74
	⑷　フロートが浮きぎみになっている。	・油圧感度コントロールレバーを《**硬**》側にセットする。	38
	⑸　植付爪が苗をよく保持しない。	・フォークのセット位置を「２～３㎜」深くする。（Ⓐ寸法を大きくする） ・シュータを調整する。	61・62
❻植付けた跡が乱れる。 	⑴　植付苗が泥で押されたりして倒れる。	・田植機を真直ぐに走行させて曲げないよう注意する。 ・植付け速度を遅くする。 ・油圧感度コントロールレバーを《**軟**》側にセットする。	35～39
	⑵　ほ場の水・夾雑物が多い。	・ほ場の水を「１～２㎝」に減らす。 ・植付速度を遅くする。	29・36
	⑶　ほ場が軟らかすぎる。	・適度にかたくする。 ・植付速度を遅くする。	29・36
❼植付け本数がバラつく。 	⑴　苗の発芽が不均一である。	・掻取り量を多くする。	12･33･34
	⑵　植付け深さが浅く，植えた苗が安定しない。	・植付け深さを一段深植えにする。	12・34
	⑶　苗の縦送りが悪い。	・苗おさえのセット位置を上げる。 ・苗床の横幅を縮める。 ・苗床土を水に浸す。	14・35
	⑷　苗の掻取り量が少ない。	・掻取り量を多くする。	12･33･34
	⑸　苗のせ台の苗が減って苗送り用ゴムベルトより外れている。	・苗を補給する。	40
	⑹　ビークが摩耗している。	・ビークを交換する。	61
	⑺　ビークセットが悪い。	・ビークを調整する。（高さ）	61
❽植付苗をビーク・フォークが持ち帰る。 	⑴　苗床土が粘土質のため。	・フォークをＮ（Ｈ）フォークにする。	74
	⑵　ほ場に水がない。	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。	29
	⑶　フォークのセット位置が高い。	・フォークのセット位置を「２～３㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする）	61
❾マット苗が同量に減らない。 	⑴　苗のせ台の幅に対して苗床の横幅が広い。	・苗の縦送り量の少ない苗の苗床幅を縮める。（苗箱に入れて幅を縮める） ・苗床土を水に浸す。	35
	⑵　ビークセットが悪い。	・ビークを調整する。（高さ）	61

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
⑩マット苗が座屈する。 	(1)　苗床の根張りが悪い。	・苗床土を乾かす。 ・根張りの良い苗を使用する。	35
	(2)　苗床土が薄い。	・苗おさえのセット位置を下げる。 ・苗床土厚さ25㎜以上の苗を使用する。	14
	(3)　苗おさえが高い。	・苗おさえのセット位置を下げる。	14
	(4)　苗に巻きぐせがついている。	・苗を巻かない。 ・苗スクレーパを使用し，ていねいに苗補給する。	35
	(5)　苗を手荒く扱っている。	・苗スクレーパを使用し，ていねいに苗補給する。	35
⑪マット苗の滑りが悪い。 	(1)　マット重量が軽い。	・覆土を多くする。 （4㎏以下の苗は使用しない。） ・苗床土を水に浸す。	35
	(2)　苗おさえが低い。	・苗おさえのセット位置を上げる。	14
	(3)　苗のせ台の幅に対して苗床の横幅が広い。	・苗床の横幅を縮める。 ・苗床土を水に浸す。	35
	(4)　苗送りベルトにゴミが推積している。	・ゴミを取り除く。	―
	(5)　苗が苗のせ台からはみ出している。	・苗スクレーパを使用し，苗のせ台にていねいに補給する。	35
⑫切れ苗・折れ苗がある。 	(1)　苗が乱れている。	・苗運搬・苗搭載時ていねいな取扱いをする。	35
	(2)　苗おさえが変形している。	・苗おさえを苗のせ台に平行にする。	14
	(3)　苗の縦かき取り量が多い。	・横送り量を多くし，植付本数調節レバーを「**少い**」の方向へ移動する。	32～34
	(4)　苗ささえ(苗ホルダ)の位置が悪い。	・再調整する。	14

5. まくらっこ装置関係

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶枕地浮き苗がある	(1)　ロータ位置が低過ぎて，土を押している。	・ロータセット位置を高くする。	42・43
	(2)　ロータ位置が高過ぎて，表土をならしていない。	・ロータセット位置を低くする。	42・43
❷ロータが回転しない	(1)　まくらっこレバーが《**ロータ回転**》の位置に入っていない。	・まくらっこレバーを《**ロータ回転**》の位置に入れる。	42
	(2)　ユニバーサルジョイントのピンが折損している。	・折損場所を調査しピンを差替える。	―
❸ロータが沈む	(1)　油圧感度コントロールレバーが《**硬い**》位置にある。	・油圧感度コントロールレバーを《**軟い**》方に移動する。	―
	(2)　ロータの位置が低い。	・ロータセット位置を上げる。	42・43
❹ロータが土につかず空転している	(1)　油圧感度コントロールレバーが《**軟い**》位置にある。	・油圧感度コントロールレバーを《**硬い**》方に移動する。	42・43
	(2)　ロータの位置が高い。	・ロータセット位置を下げる。	42・43

付　　表

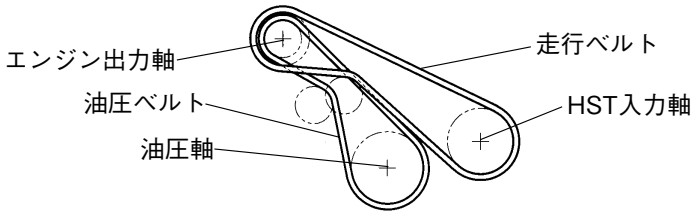
1．主要諸元

型式名				三菱ＬＥ４	
区分				－	B
駆動方式				４輪駆動	
機体寸法	全長（㎜）			2590	
	全幅（㎜）			1560	
	全高（㎜）			1385	
機体質量（重量）（kg）				370	366
エンジン	名称			GT1000PE	
	形式			空冷４サイクルガソリンエンジン（OHV）	
	総排気量（Ｌ）			0.296	
	出力／回転数（kW{PS}／rpm）			5.5｛7.5｝／3600（最大 7.4｛10｝）	
	燃料タンク容量（Ｌ）			6.0	
	始動方式			セルモータ式	
走行部	車輪	種類	前輪	ノーパンク	
			後輪	ゴムラグ	
		外径（㎜）	前輪	550	
			後輪	750	
	変速段数（段）			前・後進無段変速（副変速２段）	
植付部	植付け方式			ロータリ式	
	植付け条数（条）			4	
	植付け条間（cm）			30	
	植付け株間（cm）			20・23・25・28	16・18・20・22
	植付け深さ（cm）			２～５（５段）	
植付け速度（m／S）〔　〕内はスリップ率10％				０～1.2〔０～1.1〕	
まくらっこ装置	ロータ径（㎜）			カゴφ140	
	ロータ幅（㎜）			1200	
	ロータ高さセット位置			７段＋格納	

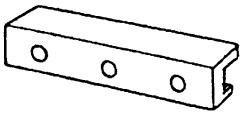
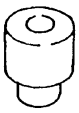
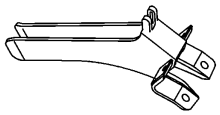
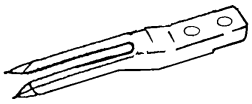
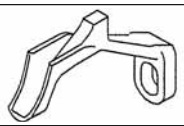
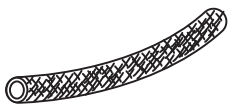
・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

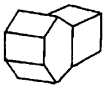
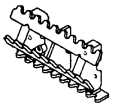
2. ベルト一覧表

No.	伝動系統	本数	部品番号	ベルトサイズ	備　　考
①	エンジン－油圧軸 （油圧伝動）	1	2682 2022 000	AG6A　LB－36	油圧ベルト
②	エンジン－第一軸	1	1400 0257 000	AG6A　LB－44	走行ベルト



3. 主な消耗部品一覧表

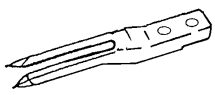
No.	部品名称	部品番号	外　観　形　状	備　　考
1	点火プラグ	BPR5ES		NGK BPR5ES
2	スライドピース	2682 5019 000		
3	スライドピース	2668 4853 000		
4	シュータ	2689 4905 000		
5	シュータ	2689 4907 000		
6	ビーク	2668 4670 000		
7	Hフォーク	2756 4681 000		
8	燃料ホース	2679 0407 000		燃料タンク～燃料ストレーナ
		0981 0040 120		燃料ストレーナ～キャブレタ
9	バルブ	1039 2813 200		ヘッドライト

No.	部品名称	部品番号	外　観　形　状	備　　考
10	バルブ	0980 8120 348		モニタランプ
11	ヒューズ	0980 1001 006		10A
12	ヒューズ	0980 1002 006		20A
13	ヒューズ	3659 0895 500		40A
14	ロータA	2604 6581 000	 作用幅235㎜	８個使用

・ご用命のときは「部品名称」と「部品番号」をお知らせください。

4. ビーク・フォークの種類と適応条件一覧表

(1) ビーク・フォークの種類

	ビーク	備考
1	ビーク(鋼板製) 	標準仕様

	フォーク	備考
1	Hフォーク 	標準仕様
2	Nフォーク 	苗・泥詰まり対応用 (Nビーク用) ・アタッチメント

5. アタッチメント一覧表（別売り）

次のアタッチメントを準備していますのでお買いあげ先にご相談ください。

NO.	名　　称
1	ペースト施肥機
2	ペースト二段施肥機
3	湿田補助車輪
4	滴下マン
5	横送りスプロケットキット(18, 30送り)
6	補助ウェイト
7	苗スライダー
8	オーバーステップ
9	箱施用剤散布機

6. 潤滑油について

・オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メ　ー　カ		商　品　名
三菱農機純正油		スーパーマルチＳＴＯＵオイル (SAE10W-30, SD/CD/GL－4)
全　農	ガソリン用	クミアイエンジンオイル
JX日鉱日石エネルギー	ガソリン用	プライマリー(SAE10W－30, SL)
		ジェネシスモーター(SAE10W－30, SL/CF)

・またはＡＰＩサービス分類ＳＤ級以上10W－30をご使用ください。

・スーパーマルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10W－30は気温20℃以上でご使用の場合は，オイルの消費量が増すことがありますので，**「運転まえの点検」**を行なってください。

2. ギヤオイル

メーカ名	商　品　名
三菱農機純正油	スーパーマルチＳＴＯＵオイル (SAE10W-30，SD/CD/GL－4)
	スーパーマルチＧＢオイル (SAE80W，GL－4)
全　農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
JX日鉱日石エネルギー	ファームギヤＢ（SAE80W，GL－4）
	ファームユニバーサル (SAE10W-30，SD/CD/GL－4)

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型 式 名

機械番号（製造番号）

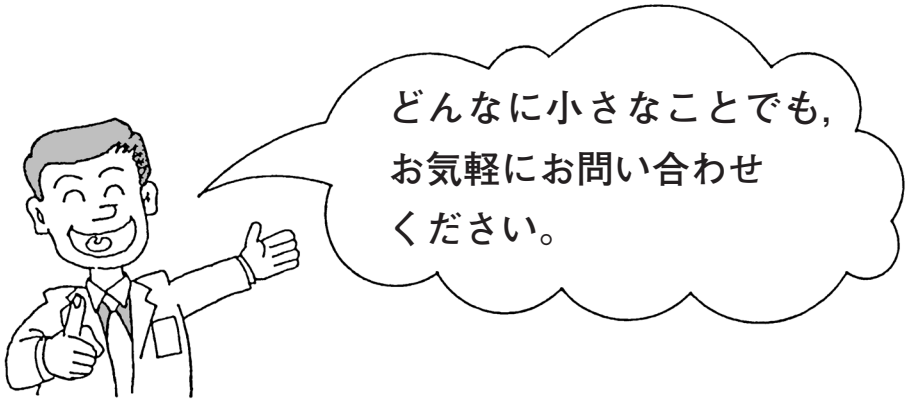
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）

No.031309-26067451002